

Ⅱ 学校支援地域本部 の実践事例

◆平成24年度学校支援地域本部一覧	31
◇彦根市	32
◇近江八幡市	58
◇栗東市	84
◇湖南市	86
◇東近江市	103
◇米原市	109
◇竜王町	111
◇愛荘町	114
◇甲良町	116
◇多賀町	117

平成24年度 滋賀県学校支援地域本部一覧

No	市町名	本部名	学校名	ページ数	小学校	中学校
1	彦根市	東中学校区支援地域本部	城東小学校	32	17	7
			佐和山小学校	33		
			旭森小学校	34		
			東中学校	35		
		西中学校区支援地域本部	城西小学校	36		
			城北小学校	38		
			西中学校	39		
			平田小学校	40		
		中央中学校区支援地域本部	金城小学校	41		
			中央中学校	42		
			城南小学校	43		
			城陽小学校	44		
		南中学校区支援地域本部	若葉小学校	45		
			亀山小学校	46		
			南中学校	47		
			河瀬小学校	48		
		彦根中学校区支援地域本部	高宮小学校	49		
			彦根中学校	50		
		鳥居本中学校区支援地域本部	鳥居本小学校	51		
			鳥居本中学校	52		
		稲枝中学校区支援地域本部	稲枝東小学校	54		
			稲枝西小学校	55		
			稲枝北小学校	56		
			稲枝中学校	57		
2	近江八幡市	近江八幡市学校支援地域本部	—	58	10	2
		八幡小学校支援地域本部	八幡小学校	60		
		島小学校支援地域本部	島小学校	62		
		岡山小学校支援地域本部	岡山小学校	64		
		桐原小学校支援地域本部	桐原小学校	66		
		桐原東小学校支援地域本部	桐原東小学校	67		
		馬淵小学校支援地域本部	馬淵小学校	68		
		北里小学校支援地域本部	北里小学校	70		
		武佐小学校支援地域本部	武佐小学校	72		
		安土小学校支援地域本部	安土小学校	74		
		老蘇小学校支援地域本部	老蘇小学校	76		
		八幡西中学校支援地域本部	八幡西中学校	78		
		安土中学校支援地域本部	安土中学校	80		
		金田幼稚園支援地域本部	金田幼稚園	82		
		安土幼稚園支援地域本部	安土幼稚園	83		
3	栗東市	栗東中学校支援地域本部	栗東中学校	84	0	1
4	湖南市	岩根小学校支援地域本部	岩根小学校	86	9	0
		菩提寺北小学校支援地域本部	菩提寺北小学校	87		
		菩提寺小学校支援地域本部	菩提寺小学校	89		
		水戸小学校支援地域本部	水戸小学校	90		
		石部南小学校支援地域本部	石部南小学校	92		
		石部小学校支援地域本部	石部小学校	95		
		下田小学校支援地域本部	下田小学校	97		
		三雲東小学校支援地域本部	三雲東小学校	100		
		三雲小学校支援地域本部	三雲小学校	102		
5	東近江市	蒲生地区学校支援地域本部	蒲生東小学校 蒲生西小学校 蒲生北小学校 朝桜中学校	103	7	2
		湖東第二小学校区学校支援地域本部	湖東第二小学校	104		
		玉緒小学校支援地域本部	玉緒小学校	105		
		八日市南小学校支援地域本部	八日市南小学校	106		
		船岡中学校区学校支援地域本部	八日市西小学校、船岡中学校	108		
6	米原市	米原市学校支援地域本部	柏原小学校 山東小学校 大原小学校 伊吹小学校 春照小学校 米原小学校 息郷小学校 醒井小学校 坂田小学校 息長小学校	109	10	0
7	竜王町	竜王町学校支援地域本部	竜王小学校 竜王西小学校 竜王中学校	111	2	1
8	愛荘町	愛荘町学校支援地域本部	秦荘東小学校 秦荘西小学校 愛知川小学校 愛知川東小学校 秦荘中学校 愛知中学校	114	4	2
9	甲良町	甲良町学校支援地域本部	甲良東小学校 甲良西小学校 甲良中学校	116	2	1
10	多賀町	多賀町学校支援地域本部	多賀小学校 大滝小学校 多賀中学校	117	2	1
合 計					63	17
					80	

【東中学校区支援地域本部：城東小学校】

1 【事業の概要・特色等】

○編成と指導体制

- ・マーチングバンドは、6年生（後期は5年生）児童で編成し、管楽器・打楽器・カラーガードに分かれて毎週金曜日の6校時に練習を行っている。
- ・教職員が分担して指導（前期9名、後期9名）にあたり、年間30時間程度活動している。
- ・外部から、非常勤講師（社会人活用）1名、ボランティア2名の方に演奏指導に来ていただいている。

○活動内容

- ・各パートの練習（毎週金曜日6校時）
- ・運動会、卒業式歓送などの校内行事への参加
- ・市民運動会、城祭りパレードなどの地域行事への参加
- ・東中学校吹奏楽部との連携

〈工夫した点〉

- ・指導者確保のため、以前からボランティアとしてトランペットの指導をしていた方に社会人講師をお願いし、毎年来ていただけるようにした。また、学校支援地域本部が発行する「学校支援ボランティアだより」に、指導ボランティアの募集を掲載してもらったところ、2名の方がトロンボーンや打楽器の指導にきていただけることになり、指導体制が充実した。



- ・12月上旬から1月下旬にかけて、6年生から5年生への引き継ぎ期間を設定している。子ども同士の交流を通して、楽器等の演奏技能を引き継ぐとともに、本校の伝統を大切にしていこうとする心も引き継いでいる。

〈他校の参考となる点〉

- ・毎年5月下旬頃（中体連の期間中）に東中学校吹奏楽部の生徒に本校に来てもらい、全校児童が生演奏を聴く機会をもっている。音楽鑑賞会の後には、東中学校吹奏楽部員に、マーチングバンドの演奏指導をしてもらっている。



2 【事業の成果】

- ・本校を卒業した先輩の演奏を聴いたり、直接指導してもらったりすることで、音楽活動への意欲や中学校の部活動への期待感につなげることができた。
- ・学校支援地域本部との連携と小中連携をうまく重ね合わせることで、指導体制を充実させることができた。

3 【今後の課題】

- ・学校支援ボランティアの活動をさらに充実させていくためには、学校支援地域本部を通じて学校が支援してほしいことを地域に発信し続けていくとともに、地域コーディネーターとの連携を深め、人材の発掘と情報交換に努めることが大切である。

【東中学校区支援地域本部：佐和山小学校】

1 【事業の概要、特色等】

（１）図書ボランティア

○読み聞かせボランティアの取組

「たくさんの絵本との出会いと本の楽しさを届けること」を目的として毎週金曜日のさわやかタイム（8:20 ～ 8:35）に読み聞かせボランティアの方からの読み聞かせを実施している。

○ポケットさんの取組

読み聞かせボランティアの他に図書室の環境整備（本の整理整頓、修理、掲示物の作成）や子どもたちの本の貸し出しの見守りにも来ていただいている。子どもたちからも親しまれやすいように、この取組をしていただいている方を「ポケットさん」という愛称で呼んでいる。

（２）ふれあいルーム

昨年度から、お年寄りと子どもたちとの交流を目的とした「ふれあいルーム」の取組をしている。毎週木曜日の昼休みを「ふれあいルームの日」として、多くのお年寄りに来校いただいている。本事業の活動が、「地域に開かれた学校」の取組の一環としての役割を担い、より一層地域の方から信頼される学校になることを願っている。

＜工夫した点＞

・「読み聞かせボランティア」の取組において、今年度は、本の読み聞かせ以外に、1年生を対象にした「3枚のお札」のペープサートを実施していただいた。準備のために何回も学校に足を運んでいただいた。当日は、食い入るようにペープサートを鑑賞した1年生の子どもたちの表情が印象深かった。

・「ふれあいルーム」の取組において、今年度は、佐和山小学校区以外のお年寄りからも「ふれあいルーム」に参加したいという声をいただき、一度来校してもらった。その際には、登校の見守りを一緒に行っている犬も連れてこられ、子どもたちと犬との触れ合いの時間となった。

＜他校の参考となる点＞

東中学区支援地域協議会の担当者会議の中で、他の小学校では、英語による読み聞かせを実施しているという話をお聞きし

た。国際理解教育との関連を加味しながら、本校での導入について検討していきたい。

2 【事業の成果】



【ポケットさんによる本の紹介】



【ふれあいルームの様子】

・読書ボランティアの方々の活動により、子どもたちの本への興味・関心が高まってきた。

・ふれあいルームの取組を通して、お年寄りの方からたくさんの愛情をいただき、子どもたちの心の潤いにもつながっている。また、お年寄りの方からも子どもたちと触れ合うことで「元気がもらえる。」という感想をいただいている。

3 【今後の課題】

これら取組以外にも多くの活動で保護者や地域の方からの支援をいただいている。

今後もより一層「地域に開かれた学校づくり」をめざして保護者、地域の方との連携を深めていきたいと考えている。

【東中学校区支援地域本部：旭森小学校】

1 【事業の概要、特色等】

○水資源機構の出前講座

フローティングスクールでのびわ湖学習を発展させる意味と、総合的な学習の時間としての環境学習を進める意味で、琵琶湖開発総合管理所の方に来校していただいた。

映像を交えて、具体的に琵琶湖の役割や水質浄化の取組について説明してもらった。

実際にパックテストを実施して、子どもたち一人ひとりが身近な芹川の水と北湖・南湖の水を比較した。グループに分かれて、目の前でパックテストをすることができたので、水の汚れ具合が一目瞭然で分かった。



〈工夫した点〉

- ・グループごとにパックテストがしっかりできるように、琵琶湖開発総合管理所から 10 名のスタッフの方に来校していただいた。
- ・日程や時間設定を工夫して、1 学級ができるだけゆったりと体験できるようにした。
- ・琴は、子ども一人につき 1 台ずつ使えるように用意し、子どもたちが実際に琴に触れる時間が少しでも長くなるようにした。
- ・体験の内容によって、活動場所の設定を工夫した。（簡易能舞台の設置・上敷をしく・和室の利用）

2 【事業の成果】

- ・実際にパックテストをして水の汚れ具合を確かめたり、琵琶湖の現状と果たしている役割の重要性について詳しく説明してもらったりしたので、子どもたちの中にもっと琵琶湖を大切にしていこうとする気持ちが強まった。
- ・自分たちがしっかりと伝統文化の体験をした上でミシガンの学生さんたちと交流したので、自信をもって日本の伝統文化のよさをアピールすることができた。

○日本の伝統文化の体験

ミシガン州立大学の学生さんとの交流会（日本の伝統文化を通して）に先立って、6 年生の子どもたち自らが日本の伝統文化に直接触れたり体験したりできるように、学校に狂言・琴・茶道の先生を招いて体験教室を開催した。

狂言・琴・茶道の体験をそれぞれ別の日に設定した。



3 【今後の課題】

- ・水環境の出前講座を受けた後の子どもたちの取組が、やや弱くなってしまったので、意識を持続させるような活動を用意したい。
- ・日本の伝統文化の体験は、ミシガン交流のためというだけではなく、日本の伝統文化に触れ愛着をもつという意味でも今後も継続していきたい。

【東中学校支援地域本部：東中学校】

1【事業の概要、特色等】

①実施時期・取組時間

2012年11月～2013年3月までの毎週火・木曜日の週2回、放課後1時間程度

②対象生徒

今年度、学習支援を希望する3年生
(男子10名、女子16名、計26名)

③スタッフ

地域の学習支援ボランティア(12名)
学生チューター(5名)

④内 容

- ・中学校で学習する内容のテキストを利用し国語、数学、英語を中心に基礎的・基本的な内容の学習に取り組む。
- ・それぞれの学習支援ボランティアやチューターが、得意とする教科や分野の学習支援を担当し、1人が生徒2～3名に対して個別指導をする。

〈工夫した点〉

- ・学習支援ボランティアやチューターの指導教科(得意分野)を明示することで、生徒自身が学習したい教科に取り組みやすくなった。
- ・生徒の机を前後に間隔をあけ、対面式に並べることで、指導者と生徒の距離感が縮まり、個別指導がしやすくなった。
- ・指導者の都合を事前に把握することで、各開催日毎の指導者の過不足がでないよう調整できた。



〈他校の参考となる点〉

- ・生徒26名を2グループ、2つの教室に分け、少人数的な学習相談を行うことで、生徒の緊張感もやわらぎ、生徒にとって学習しやすい環境となった。

2【事業の成果】

- ・卒業後の進路選択や進路実現を目指している3年生のこの時期に、基礎的・基本的な内容を中心に学習支援を行う機会を設けることは、生徒一人ひとりの学習意欲を高めたり、目的意識を持った学習態度を養うことができた。
- ・生徒が自ら学習に意欲を持って取り組むことで、基礎的・基本的な学習内容の定着を図ることができた。
- ・年齢の近い学生チューターや地域の学習支援ボランティアなど、異年齢の方々とふれあうことを通して、幅広い人間関係を培うことができた。
- ・将来、教員を目指す学生チューターには、学習指導や生徒理解等の経験を積む場の提供ができた。



3【今後の課題】

- ・対象教科や学習レベルなど、学習活動内容の拡大を目指したいが、学習支援ボランティアの人数が確保できなかったり、教科の調整がつきにくい。
- ・対象生徒を1, 2年生の生徒にも広げたいが、放課後の時間帯は部活動に参加するため、時間的な課題があり、開催時期や時間の工夫が必要である。
- ・学習相談の開始時期を早めたいが、前述の課題により困難である。しかしながら長期休業中の補充教室や質問教室での学習相談の開催にむけて、今後前向きに検討し、地域の力を活用する機会を拡げたい。

1 【事業の概要、特色等】

P T Aのウィークエンドクラブ活動の一環として始まった「お正月で遊ぼう」は、今やその枠を超えて、学区内の社会福祉協議会や青少年育成協議会、老人クラブに加え、日頃から学校での子どもの活動を支援する地域の高齢者でつくる「子どもらと楽しもう会」も参画する事業として、子どもと地域をつなぐ役割を担っています。

昔はお正月遊びの定番であったカロムやコマまわし、カルタ取りや剣玉、お手玉といった懐かしい遊びを、テレビゲームしか知らない現代の子ども達に体験させることで、昔ながらの遊びの楽しさと伝統遊具を継承することを目的として毎年1月に開催されています。

体験の重要性が必要と考え、遊びと



いう切り口だけでなく、餅つきをプログラムに加え、子どもらに杵と臼で餅つきを体験させ、高齢者らが手返しを行い、小餅に丸めてきなこや餡をまぶして子どもらに振る舞う時間は、参加する子どもだけでなく保護者や地域の皆さんも楽しみにする時間となっています。

【西中学校区支援地域本部：城西小学校】

す。

〈工夫した点〉

P T A事業である点を踏まえて、地域とP T Aとで役割分担を決め、地域として無理なく無駄なく事業サポートできるよう、一定の裁量を与えていただくようにして

います。また、この事業に限らず引き続き学校支援のお手伝いをしていただけるよう、事業サポートが決して難しいものでないことをアピールすると共に、サポート依頼のチラシを幅広く配布し、活動のP Rにも努めています。



2 【事業の成果】

事業の運営そのものは城西小学校のP T Aが主体となっていますが、事業の特性上、地域の高齢者や各種団体の協力は必要不可欠であり、年に一度とはいえ高齢者を中心とした多くの地域の方々が学校を訪れて、子ども達に遊び方の指導をしたり、杵を持たせて餅つきの仕方を教える姿は微笑ましく、また双方にとって地域や学校との交流により「地域の中の学校」としての認識や「地域の中での役割」という意識の醸成につながるものと考えます。

年々お手伝いをしていただける地域の方々が
増えつつあることは、地域コーディネーター
として声をかけさせていただく上で非常に
励みになり、地域と学校をつなぐ意味と役割
をこの事業に互いが見い出せているものと考え
ます。地域の方が顔なじみとなった子ども
らの日頃の活動も支援しようと、様々な行事
に顔を出していただくようになり、「子ども
らと楽しもう会」に参加して、あらゆる活
動にご協力いただけることは、学校にとっ
ても地域にとっても、大変有り難く心強い事
業成果の表れであると認識しております。

3 【今後の課題】

年々、事業に参加してくださる地域の方々の
人数が増える一方で、子どもらの参加人数
が低調であります。これは冬の寒い時期の開
催であることもその原因のひとつと考えられ
ますが、保護者にも事業の必要性や意義を、
より深く理解していただく必要があると感じ
ます。そのためには、事業サポートをしてい
ただける地域の方々を更に増やしていくこと
と合わせて、事業の内容も幅広いものにし、
地域による学校支援の色合いを強く打ち出す
ことで、「地域による学校支援の見本市」の
ようなPRを通じて、地域の方々には学校支
援の必要性や自身の地域での役割、ボラン
ティアとして活躍できる場を、子どもや保
護者の方には地域が支える学校という認識を
新たにさせていただくと共に、身近な学校で様々な

体験ができる地域環境の有意性を、それぞれ
に認識していただくことが必要であると考え
ます。

1【事業の概要、特色等】

恵まれた学区内の自然環境や点在する文化財等を生かしたふるさと探訪オリエンテーリングを全児童が毎年行って、身近な自然や文化を地域から学ぼうとする心情や郷土愛の心を育み、又、地域の人達に引率サポートや説明を受けながら学習をより深め、たくましい心身を養う機会として取り組んでいる。

国宝彦根城、井伊家住まい跡地、屋敷庭園やその由緒ある神社・寺をはじめ、石田三成の城である佐和山城址・旧松原内湖・埋め立て干拓工事・旧回轉橋跡・水主水軍番所跡・現在の農業ハウスの立ち並ぶ田園・観光船が出入りする彦根港・スポーツ施設等色々な次代を背景に歩み変遷してきた場所を積極的に観察したり、当時の人々達の生活実態を聞いたりして社会の移り変わりを学習する。

今年度も児童会の縦割りグループを利用して全校児童を16班に編成され、学校支援ボランティア25名の応援を受け班別行動での安全サポートや訪問箇所での補完説明などをおこなっていただき、地域の潜在的な教育力を継続的に高め合うことが出来、恵まれた自然環境の有りがたさをしみじみとを感じる機会である。



〈工夫した点〉

障がいの程度に関係なく、全員が現地訪問（彦根城天守閣等）できるようサポート体制（人数・安全確保）を取った。その結果、全児童及び保護者に喜びと感動を与えることができた。

2【事業の成果】

学習の場を校内だけでなく地域に広げたことにより、児童たちは史跡や昔の人々の生活の様子などを知り、様々な世の中の移り変わりに、人々が立ち向かいたくましく生活していた事実に感動を覚えた。また地域の遺産や自然の恵みを守る大切さ、命の尊さ、生活の知恵、力強く生き抜く地域の団結力について、子どもなりに感じた言葉を会話の中で多く聞くことができた。さらに、学校支援ボランティアの人達も、笑顔の絶えない楽しい学習と世代間交流がおこなえた。



3【今後の課題】

学校支援地域本部の立ち上げから3年半が過ぎ、特に学習面に於いては、支援要請を受けても何とかクリアできる人材確保状態になってきた。しかし、次の点を課題として取り組んでいくこととする。

その1

校内環境整備（運動場の除草、農園管理）において、他校よりも面積が大きく定期的な支援ボランティアの確保が急務となってきたこと。

その2

登下校時のスクールガードマンの人数確保と体制の在り方に検討の余地が残っているように思われるのでこちらも早急に安全確保に努め、地域の協力を最大限得ること。

その3

朝の読み聞かせ読書支援ボランティアの増員を図ること。

1【事業の概要、特色等】

西中学校ですでに10年以上も続いている「読み聞かせ」。

大学生チューターによる「補充学習」や基礎学力を伸ばすための「楽習広場」。特に生徒の要望が非常に多い「補充学習」は地域の力をさらに集めて実施していかねばならない。

また、3つの部活動の地域の方々による指導支援。さらに、延べ年間1,000名にも及ぶ「地域貢献活動」の活発化。

生徒とPTAによる協働作業としての「環境整備」には、地域のボランティアが昨年から加わった。

教職員の支援要求についてのアンケートを隔年で実施し、毎年支援の重点として決定し活動。



〈工夫した点〉

「読み聞かせ」では各学期ごとに反省会をもち、中学生や教職員との相互理解が必要であることを感じ、教職員にも御協力を得ることができた。

「地域貢献」では事前に地域のリーダーと折衝し、受け入れ態勢や生徒理解に改めて認識を新たにしてもらえ、参加した生徒たちが気持ち良く活動ができる素地をつくろうとした。

「環境整備」では生徒・PTA・地域などとの協働作業をすることによって、相互理解を図ろうとし、地域の支援が生徒たちを育てるために尽力していることを情報として周知してもらえた。

2【事業の成果】



【西中学校区支援地域本部：西中学校】

「読み聞かせ」では年間3回の反省会をしている。生徒たちに読み聞かせているだけではなく、生徒たちがどのように受けて取ってくれているのかなども知りたいなど、生徒理解のためにも交流もしてみたいといった意見も出された。

「部活動」の支援では、教職員の負担軽減や技術のさらなる向上にもつながり、生徒の意欲を喚起することもできている。

「地域貢献活動」でも、今までは生徒が参加しても受け入れ態勢が不十分なため、生徒がどうしてもいのかも分からず、不本意な活動に終始していたが、事前に地域が受け入れ態勢について学校側やコーディネーターなどと協議していただければ、生徒たちも気持ち良く活動ができるようになり、地域の方々とのコミュニケーションも倍増している状況が出ている。

「環境整備」では何年も手が入っていなかった前庭の樹木にも2年前から剪定作業がなされ、学校の表玄関が見違えるように整備された。作業日も今年から生徒やPTAが行う「愛校作業」の日を設定し、相互理解ができるような配慮もすることができた。

「教職員アンケート」では、学校や教師サイドの要望も集約することができ、その要請によっても重点的に活動することが少しずつできてきた。

3【今後の課題】



「地域貢献活動」では、生徒たちが地域で活動するための受け入れや生徒理解がさらに進展するためには、コーディネーターの役割は大きい。

どの活動でも言えることであるが、地域ボランティアのさらなる増員が望まれている。

「中学校は敷居が高い」「中学生は親しくにくい」などの声もあり、学校行事をさらに公開したり、地域の方々に親しんでいただける学校づくりが大切である。

【中央中学校区支援地域本部：平田小学校】

1【事業の概要、特色】

本校の学校支援地域本部事業は、今年で2年目を迎え、少しずつその成果を上げてきている。地域の方の学校に対する期待は大きく、また協力的である。

今年度の主な活動は、以下に示すとおりである。

6月 6日	第1回総会
6月末～7月初	学級園の整地及び除草
6月18日～	読書ボランティア開始 (毎週水曜日)
10月25日	第2回総会
11月 7日	「ふれあい遠足」協力
11月 末	学級園・一人一鉢用土作り
12月 5日	一人一鉢苗植え補助 学校花壇苗植え
12月11日	お菓子作り
3月中	感謝のつどい

〈工夫した点〉

学校支援地域コーディネーターの方との連携をできるだけ密にするよう心がけた。学校主体の取組であっても、学校の思いと地域の方との思いは微妙に違うことがある。活動に入る前に、互いの考えるところをしっかりと話し合うことで、同じ目的をもって活動に取り組み、どの活動も成果が上がったと思う。

〈他校の参考となる点〉

様々な活動の中で、「ふれあい遠足」の協力は、特色ある活動である。地域の歴史についてお話



しいただいたり、ウォークラリーのポイントに立ってもらって指令を出してもらったり、各班の引率を一緒にしてもらったりと、なくてはならない役割をしていただいている。どの活動でも、子どもと直接ふれ合う機会が多く、ボランティアの方にとっても有意義な時間になっている。

2【事業の成果】

今年度は1学期から活動に取り組み、1年間をとおして計画的に進められたことが大きな成果であった。

ボランティアの方にとっては、継続的に活動があることから、学校との連携が深まり、学校の行事



や活動に関心をもってもらうことができた。

また、何度か学校に出向いてもらうことで、子どもとの交流の場ができ、子ども達にとっては地域の方に感謝する気持ちが育つよい機会となった。

3【今後の課題】

活動については、学校から依頼すると学校支援本部事業の方の中で、都合のつく方が、ボランティアとして協力いただくという形が多かった。そのため活動が単発的で、受動的なものに終始してしまった。

今後は、学校花壇の運営を任せ、そこを交流の場とするなど、学校支援地域本部事業の方がより主体的に学校の教育活動に参画していただくという形を取っていきたい。

そのために、毎月第〇週〇曜日を活動の日と定め、定期的に来校していただく機会を作ることで、意識して学校の教育活動に参画してもらう体制づくりを推進したい。

【中央中学校区支援地域本部：金城小学校】

1【事業の概要、特色等】

子どもと地域住民、学校と家庭や地域との「豊かなつながり」をつくり、金城学区全体として子どもたちの確かな学力向上を図るとともに、安全で安心、快適な学校づくりをめざして本事業に取り組んでいる。

(1) 登下校、校外学習の安全パトロール

金城見廻り隊の方々が毎日要所に立ち、子どもたちの登下校の安全を見守り、「おはよう。」「お帰り。」の声をかけてくださっている。



その見守りに対して、子ども達は感謝の気持ちを込めたメッセージカードを贈っている。また、安全確保のため校外学習の引率をしていただいた。

(2) 絵本の読み聞かせ・影絵

朝の読書活動時を活用し、年間を通して水・木・金曜日に各クラスを回り、絵本の読み聞かせを行っていただき、読書教育に寄与してもらっている。子ども達はお話の世界に浸っている。

また、秋の全校集会では、読書の秋にちなんで、例年、絵本を題材にした影絵を全校児童に見せてもらっている。



(3) ゲストティーチャー

3年「昔のあそび」（総合的な学習の時間）にゲストティーチャーとして地域の方々に昔の遊び（「輪ゴム鉄砲」「あやとり」「お手玉」等）を教えに来ていただいている。



る。子ども達は、「〇〇名人」として憧れの気持ちを抱きながら、楽しく学習を進め、地域の方々との結びつきを深めている。

(4) 学校施設の整備

昨年度に引き続きFBC花壇や一人一鉢栽培の活動にかかわって苗植えや水やりを手伝っていただいている。



また、本年度は新たに、校庭樹木の葉刈りや運動場への土入れ、鶏小屋の跡地整備など学習環境を整えていただいた。

2【事業の成果】

登下校時の子ども達の安全が確保され、子ども達だけでなく保護者からの安心感も得られている。また、感謝カードなどの取り組みにより、ボランティアとのつながりも深まってきている。

3【今後の課題】

ボランティアに学校側のニーズや願いを明確に提示しながら、学校がめざす姿を共有化したいと考える。そのためには、時間の確保が難しいことがあるが、定期的に会合を持つ必要がある。

また、さまざまな教育活動に対応できる人材を豊富に確保し、ボランティア活動を教育活動の中に位置づけ、定着化と活性化を図ることが重要だと考える。

さらに、本事業に対する教職員の理解を深めながら、教師や子どもとボランティアとの「豊かなつながり」（信頼関係）をつくっていくことが一層求められる。

1 【事業の概要、特色等】

地域住民による学校への支援体制を構築することによって、生徒が様々なことを体験し多様な生き方を学ぶことができる体制づくりを確立する。

本校では、昨年度から学校支援地域本部を設置して、学区内の2小学校と連携しながら学校と地域が一体となった学校づくりを目指している。定期的に担当者会を開催して、交流を深めている。担当者会は、各学校地域コーディネーター・学校担当者・管理職で構成している。現在のこどもたちの課題解決と身につけさせたい力を育成できるような取組を展開している。

〈工夫した点〉

地域ボランティアの方々のコミュニケーションを図り、連帯感を持っていただき、学校へいつでも来ていただける雰囲気づくりに努めている。

教員に対して授業での学校地域支援ボランティアに関するアンケート（学習支援・学習アシスタント・環境支援等）を行った。

〈他校の参考となる点〉

学期に1回、地域支援担当者会を開催して小学校と中学校の交流を深めている。その中で、中央中学区の子どもたちの様子の交流や学校での取組の状況がよくわかり、学校のニーズや生徒につけさせたい力が地域コーディネーターにもよく伝わり、支援事業の役割が確認できた。

2 【事業の成果】

昨年度からの環境整備は、今年も順調に進めることができ、中庭の花壇に花を植える事ができた。今後は生徒や教職員と地域の方々とともに花の世話をしたりしていきたい。

支援事業を地域にさらに知らせるための広報活動として、チラシを配布する予定である。

学校の図書館運営のボランティアを募っている。

**3 【今後の課題】**

地域には、まだまだ潜在的に多くの支援者がおられるので、環境支援や学習支援などで、自身の経験や専門性を生かしながら、生徒とともに活動することで成果を上げていきたい。

- ・地域の方々の人材登録バンクづくりの推進を図る。
- ・広報活動やPR活動をさらに進めていくことで、地域と学校のつながりを深めていきたい。
- ・学校支援地域事業に対して教職員の意識の差の解消のための研修会等を実施していきたい。
- ・「生徒につけさせたい力」を地域コーディネーターと教師が共有して、取り組みを考え実践していきたい。

【南中学校区支援地域本部：城南小学校】

彦根市立城南小学校の実践事例

一事業の趣旨一

昨年度から南中学校区で学校支援地域本部を立ち上げ、中学校区内で実践交流したり協力したりしながら、今までの取組を継承しながらも、さらに地域との連携を充実・発展していけるように事業を進めている。

1【事業の概要、活動の実際】

○事業の概要

①読書ボランティア

- ・朝のさわやかタイムの読み語り



- ・図書室の環境作り

②スクールガード

- ・登下校時の通学路の見回り
- ・下校後の公園等の見回り

③生活科・総合的な学習の時間の学習支援

- 1年 生活科「昔からの遊び」
- 2年 生活科「野菜を育てよう」
生活科「町の人と仲よくなろう」
- 3年 総合「私たちの町の行事調べ」
社会科「店ではたらく人」
- 4年 総合「人にやさしい町・環境」
社会科「郷土を開く」
- 5年 総合「お米博士になろう」
- 6年 総合「城南学区の歴史を探ろう」

2【事業の成果】

- ・生活科や社会科、総合的な学習の時間などにおける学習支援に進んで参加してくださる地域の方が年々増えてきている。子どもたちは、近くに住む親近感と本物にふれる喜びから地域の方とのふれあう時間をととても楽しみにしている。

～2年生児童のふり返りから～

(生活・野菜を育てよう さつまいも栽培)

今日は、さつまいもの収穫祭をしました。植えたり、世話したりするときに教えてもらったり手伝ってもらったりしたおじさん、おばさんを招待しました。おいもは、やきいもにして食べました。いっしょに食べてとてもおいしかったです。



- ・読書ボランティアの活動では、季節や学年にあった本を選定してくださるので、読み聞かせを楽しみにしている。環境整備にも力を入れていただいたので読書に関心をもつ児童が増えている。
- ・スクールガード活動では、毎日見守り活動をしていただいている。

3【今後の課題】

学校をいろいろな面で支援をしてくださる方が年々増えてきている。学校と地域とが一体となって子どもの教育に取り組むために、今後も意見交換や交流を盛んにしていく必要がある。地域に学校公開するなど開かれた学校づくりに取り組みたい。

1【事業の概要、特色等】

地域のよさや歴史、文化に精通されている地域の方や、専門的な技術をもった方から、ご指導いただく機会を積極的に設け、地域の方々とのふれあいを深めるとともに、本事業による活動を本校の教育活動の特色の一つとして位置づけている。

【ゲストティーチャー】

○地域の歴史や文化についての講話

写真や書物などを効果的に使って、子どもたちの住む町の寺院や神社の歴史、カナダ移民の歴史、各町や犬上川、荒神山等の歴史について説明いただいた。伺ったことをまとめて、「城陽子どもまつり」で地域の方に発表もした。



○クラブ活動

日本文化クラブでは、茶道の指導をしていただいた。

○昔遊びの名人

児童の祖父母を中心に昔の遊びを教えていただける方を講師として招聘し、指導していただいた。

【環境サポーター】

○図書ボランティア

毎日図書の貸し出し作業をしていただいたり、図書の整理、修理をしていただいたりしている。新刊図書の紹介や季節にあった図書の紹介もしていただいた。

【学習アシスタント】

○本の読み聞かせ、お話会4/20、11/9

毎週火曜日8：30から10分間、各学級で本の読み聞かせをしていただいた。さらに、年に2回「お話会（45分間）」を開き、子どもたちに読書の楽しさを味わわせていただいた。



【南中学校区支援地域本部：城陽小学校】

○算数教室指導

夏休みには3日間「算数教室」を開き、地域の方にも子どもたちの学習指導をしていただいた。

○歌唱指導

音楽会のシーズンには、声楽を学ばれた方に発声法等を楽しく指導していただいた。

○校外学習引率補助

生活科の町探検では各地域ごとに引率の補助をしていただいた。



○スキー指導

少人数でのスキー指導を実施するために、教師だけの指導ではなく地域の方にも協力を依頼した。

〈工夫した点〉

指導していただいた成果を発表する場を設け、発表会（城陽子どもまつり）に招待して、聞いていただくようにしている。

また、ボランティアに協力していただいた活動や学習については、「学校だより」で保護者や地域住民にも広く知らせるようにしている。

〈他校の参考となる点〉

教育計画にそれぞれの活動を位置づけて実施する。また、ボランティア名簿を作成し依頼がしやすいようにする。

2【事業の成果】

毎年ボランティアを招いて様々なことを教えていただくことが、わが校の自慢となり学校の特色づくりとなっている。

また、多くのボランティアに来校していただくことで開かれた学校づくりの一助となった。

3【今後の課題】

ボランティアの高齢化が進んでいることから、新しいボランティアを探さなければならない。児童は○年生になったら、自分たちも、あの活動ができるという思いをもっているため、できるだけ継続できるようにボランティアの確保に努めたい。

ただ、今実施している活動にこだわるのではなく、新しい活動を計画していくことも大切であると考えている。

心のふるさと「若葉の森」での豊かな交流を 【彦根市】

【南中学校区支援地域本部：若葉小学校】

一事業の趣旨一

若葉小学校はたくさんの樹木に囲まれ、四季折々の変化を楽しませてくれる「若葉の森」を心のふるさととして教育を推進しています。

新興住宅街の中にある学校であるからこそ、特に自然や異世代の方々と児童の関わりが必要です。今までから地域の高齢者の方々を中心に学校支援活動にご尽力いただいています。

開校以来、若葉の森で自然とふれあい、そこでの地域の人々との交流によって「若葉の文化」が根を張り、幹を太らせ、葉を繁らせいくものだと思います。



《若葉の森での活動》

1【事業の概要、特色等】

1 図書ボランティアの活動

今年度は、児童が本の世界に浸りきり心豊かに育つよう、朝の活動時間を読書にした毎週金曜日は「読み聞かせ」としてボランティアや教師が各教室の児童に読み聞かせを行っています。児童は毎週金曜日になると「今日は誰が来てくれるのかな?」「ど



《みんな大好き・読み聞かせの時間》

んなお話かな?」と楽しみにしています。

ボランティアさんが読んでくださった本を自分でもう一度読んだり、そのシリーズを図書室で探したりして、読書の冊数が増えジャンルの幅も広がっています。

読み聞かせ以外にも図書室の整備ボランティアとして来ていただいています。新しく入った本の紹介、学年のコーナー、本の整頓など、図書室が児童にとって心の安定を図れる場になるよう取り組んでいます。

2 地域の老人クラブとの交流

あ：玄関に生花を

年間を通して、老人クラブの方が学校の正面玄関にお花を生けていただいています。四季折々の美しい花を見ると心が和みます。学校に来られる保護者やお客さん思わず足をとめて見ておられる姿があります。

児童も「これはドウダンツツジやなあ」「ユキヤナギきれいだね」と、若葉の森の樹木と繋げながら見えています。

い：生活科や社会科の時間の交流

1年生の生活科の時間には、昔遊び体験をします。地域の高齢者の方々が、独楽回し、お手玉、羽子板、剣玉、竹馬、竹とんぼなどといった遊びを1年生の子どもたちに手ほどきして一緒に遊んでいただきます。

3年生の社会科の学習では、昔の生活体験を学習します。洗濯板を使っての洗濯、火鉢に火をおこし、かき餅を焼く体験、かまどに火をおこす体験、はたきや座敷簀を使って掃除体験など、若葉の森がこの日ばかりは昭和初期に戻ったようです。昔の生活での苦労話や楽しかった思い出を語り児童との交流を深めています。

2【今後の課題】

本校では、以前から支援をいただいている方々が中心となってこの事業を担ってくださっています。事業としての定着はしても組織の広がりにつながっていないことが課題です。

今年度は、図書ボランティアや昔体験のボランティアを募集して、活動は継続しつつ組織を広げていこうと取り組んでいます。

心のふるさと「若葉の森」で児童が豊かな自然と地域の人々とゆったりと活動できるよう今後の取組を計画していきたいと思っています。

1 【事業の概要、特色等】

「学校支援地域本部事業彦根南サポートオフィス」は、昨年度から始まり、南中学校を中心に区域内小学校の計5校で運営されている。

本事業は、学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子育ての体制を整えることを目的とし、学校教育に地域の多彩な人材を活用することによって、学力向上やキャリア教育、体験的・実践的教育、さらに教育環境整備など、学校教育のさらなる充実をめざすものである。

これまで本校は、学習の都度、直接依頼したゲストティーチャーやボランティアから教育支援を受けてきたが、事業開始後は、地域コーディネーターを通して、手配や依頼をしていただいている。さらに学区内に呼びかけていただき、より多くの学校支援者を募り、ボランティアとして登録をしてもらえるよう、地域に働きかけを行ってもらっている。また、南中学区内で交流を進めて、他校でも人材協力ができ、より多彩な人材を活用した学習ができるようつなげていきたい。

〈工夫した点〉

本校では、地域コーディネーターを退職教員にお願いしている。学校の事情に精通し、ニーズもよく理解していただき、幅広い人脈を生かして学習のねらいに合った人材を、紹介していただいている。また、「学校あつての地域」として、本事業をきっかけに地域を活かすという観点で取り組んでいただいている。

〈他校の参考となる点〉

「彦根南サポートオフィス」のブログがあり、各校の活動の様子を書き込むことで、関係校だけでなく保護者等にも周知を図っている。各校の活動状況がわかり、また、自校の活動も発信している。

【南中学校区支援地域本部：亀山小学校】

2 【事業の成果】

○5・6年生図画工作科の指導

学校周辺の病院や寺院をモデルに描画に取り組んだ。いずれも手応えのあるものだけに、専門家からの的確な指導によって、子ども



の描画対象への見方が変わり、自身でも驚くほどの素晴らしい作品制作につながった。



○3年：昔の亀山学習



地域の老人から、昔の亀山学区の様子についてくわしく話を聞いた。

○花壇整備

地域コーディネーターの人脈をもとに、“田畑の先生”に集合していただき、栽培委員会の児童や教師が花壇整備について指導を受けた。



3 【今後の課題】

学校側の問題点として、年間計画を立てていながら、にわかにコーディネーターに連絡をするということがあった。前年度の実践をもとにしつつ、中長期の見通しをもって学習を進める必要がある。一方、地域が抱える問題点としては、高齢化による人材不足が懸念されることである。今後ボランティア活動にいかにしてやりがいを見出してもらえるか、そのために学校がどのような発信をし、児童の学習成果としてフィードバックしていくか、が大切になる。地域とのコミュニケーションがあつてこそ展開できる事業であることを改めて痛感する。

「彦根南サポートオフィスの取組」

【彦根市】

【南中学校区支援地域本部：南中学校】

1【事業の概要、特色等】

- ◎ 広報活動による人材の発掘
・彦根南サポートオフィスのP Rリーフレットを作成。
各小学校・中学校の家庭に配布すると共に、地域の団体の集まりに持参し、ボランティアへの協力をお願いした。
・「ボランティア便り」の発行

◎ 図書ボランティア

図書室の整備と廃棄図書の整理を中心に活動していただく。



7/6 図書ボランティアミーティング

◎ 放課後学習支援ボランティア

昨年度まで、三年生対象に短期間で開催されていた放課後学習を、今年度は全学年対象に定期的に行った。
「南中水曜ゼミ」として、毎週水曜日の放課後一時間程、数学の基本プリントを用いた学習活動を支援している。



<工夫した点>

* P T A 総会でチラシを配布し、直接ボランティア協力のお願いをする時間をいただいた。→図書ボランティア3人増
* 図書ボランティアさんが増えたことで、不定期開催だった活動日程の調整が難しくなり、毎週の定期活動日を設定して、「できる人が、できる時に」気軽に来ていただけるようにした。

<他校の参考となる点>

チラシなどを作成しても、なかなか目に留めていただけないこともあるので、少しでも

活動の情報発信が出来るよう、ブログを開設している。

彦根南サポートオフィス

検索

2【事業の成果】

- ・ P Rリーフレットの作成・配布



各小学校・中学校の紹介やボランティアの内容、協力をお願いを記載したカラー全 12 ページ



- ・ 放課後学習の拡大

今年度より、全学年対象に行うことができた。行事等で変更もあるが、毎週水曜日の定期開催とし、熱心にゼミを受ける生徒も多い。

また、教員を目指す県立大学生の方にチューターとして参加していただけたので、先生方や生徒にとって頼もしい存在になっている。

3【今後の課題】

学校支援ボランティアの活動がスタートして二年目、まだまだP Rが不足していると感じる。活動を軌道に乗せるため人材の確保が第一であるので、「ボランティア便り」を定期発行にして、地域への回覧の頻度を高める必要がある。

そのためにも、各小学校との連携を深め、タイムリーな情報交換ができるよう各小学校のコーディネーター・担当の先生方と、もっと連絡を密にとって、お互いの距離を縮めることも必要と考える。

【彦根中学校区支援地域本部：河瀬小学校】

1【事業の概要、特色等】

（１）米作り体験ボランティア

５年生の総合学習として、『米作り』を教育課程に位置づけている。本校の前にある学習田を利用して、地域の農業委員などのボランティアの協力を得て、田植え・稲刈りなどの体験活動を実施している。

田植えでは、昔からの田植えの方法を教えていただき実際に苗を植えた。また、稲刈りでは、各自が鎌で刈り取った稲を千歯ごきや足踏み脱穀機で脱穀するといった昔の方法を体験したり、コンバインを使って脱穀する様子を見学し



たり、コンバインに同乗させてもらったりするなど貴重な体験をすることができた。

（２）図書ボランティア

毎週火曜日の午後から、保護者を中心に１０名ほどの方々が当番制で、図書室での児童の本の貸し出し業務や、図書の補修・整理を中心とした支援活動を実施している。時には、低学年の児童を対象に読み聞かせなども行っている。



（３）お菓子作りボランティア

２年生で、生活科の学習で栽培収穫したさつまいもを使ったお菓子作りを実施した。包丁を使って切ったり、ホットプレートで焼いたりするときに子どもたちのそばについて助言をいただいたり指導していただいたりした。



（４）音楽ボランティア

１１月の校内音楽会での発表に向けて練習を重ねる子どもたちへの支援をお願いした。歌唱指導、合奏指導さらには、ピアノ伴奏をしていただいた。子どもたちへの指導だけにとどまらず、指導教員が相談できる相手としてご支援をいただいた。



＜工夫した点＞＜他校の参考となる点＞

本年度６月に、学校支援ボランティアとして協力をお願いしたい内容について河瀬学区全戸に募集要項を配布した。これから先も、年々ボランティアとして学校の教育活動にご協力いただける方を増やしていきたいと考えている。

「このような活動で学校の支援をお願いしたいと考えている」という情報発信を続けていきたいと考えている。

3【事業の成果】

様々な学校の教育活動に、自発的なボランティアが支援をしていただいている。どの活動も子どもたちの学習活動などを充実させることにたいへん役立っている。ご協力いただく方々の専門性を活かした活動や、学校職員が時間的な制約があってもなかなか取り組めないような活動への支援が多く学校教育の大きな助けとなっている。

4【今後の課題】

広く学区のみなさんに「学校教育の中に、自分たちが関われる場面がありそうだ。」と思っていただくことが今後の課題である。

そのためには、河瀬小学校でどのような教育活動を進めているのかということを知っていただき、見ていただくことが必要である。

まだまだ『敷居の高さ』が感じられているかもしれないので、その点の改善をしたいと考えている。

【彦根中学校区支援地域本部：高宮小】

1【事業の概要、特色等】

本校周辺では、平成15年5月に住民有志による「高宮の自然環境とホタルを守る会」が結成され、飼育観察会やホタルマップの作製など、地域環境に目を向けた継続的な活動が行われてきた。

本校においても、こうした地域性を活かした学習を「総合的な学習の時間」に位置付け、環境や地域について学ぶため、守る会からアドバイスを受けながら、幼虫を飼育したり、餌となるカワニナを捕りに行ったりする活動をはじめ、児童が育てた幼虫を地元河川「太田川」に放流する活動を積み重ねてきた。

6月には、地元高宮の民生委員・児童委員協議会・高宮の自然環境とホタルを守る会・高宮公民館・高宮学区連合自治会の協力を得ながら「高宮ホタル観察会」を開催し、児童の学習成果を広く発表する機会としている。

こうした活動は、今年で10年目の節目を迎える。当初は第6学年の活動として位置付けていたが、第3学年から始まる本校の総合的な学習の時間の体系的な検討の結果、今年度より第4学年の学習とした。

〈工夫した点〉

- ・ゲンジボタルの一生を、単に図鑑等で調べる学習に終わらせず、児童自らの手で卵から育てる飼育活動に携わらせることで、「命の尊さ」に気づける学習とすること。
- ・ゲンジボタルの幼虫やさなぎが棲息するための自然環境の在り方に目を向けさせ、環境保全や人間社会との共生の精神に触れられる学習とすること。
- ・7月の産卵時期から翌年の6月まで、年間を通した飼育・観察活動の折々に、地域の方からの適切なアドバイスが生きるよう学習を旨くコーディネートすること。

〈他校の参考となる点〉

- ・地域特性を活かした学習とするため、地域諸団体との連携の在り方を模索したこと。特に、年間を通じた学校支援の在り方を吟味したこと。

2【事業の成果】

□ゲンジボタルについての知識を広める
児童は、ホタルの卵との出会いを皮切りに学習をスタートさせた。ホタルは身近な生き物ではあるが、その生態については皆無とっていい。そうした生き物に対し、児童は、飼育・観察活動を通して、日々、学びを深めていく学習とすることができた。

□「命の尊さ」を学ぶ

産卵後の卵の変化や幼虫の成長過程、さらに、たった1年の命を精一杯生ききるがごとく、夜空に舞うホタル。こうした姿を目の当たりにする中で、命の尊さに触れる学習とすることができた。

□環境の在り方を考える

ゲンジボタルの棲息条件を考える中で、環境保全と人間社会との共生の大切さと難しさに触れ、「ホタルは自然環境のバロメーター」であることに気づくことができた。

□地域との連携を深める

本校の地域連携は多岐に及ぶ。児童の登下校、朝の読書タイムにおける読み聞かせ、地域老人の方とのふれあいの場である「わくわく集会」等。どの活動においても地域の方の篤い思いのもと多大な協力を得ている。こうした取組を一層深め発展させるための方策として、両者の得意分野と役割分担、双方の活動にプラスとなる方向性を明らかにすることができた。

3【今後の課題】

- ・総合的な学習の時間を「探究」型の学習として位置付けるため、学習過程等について一層の吟味を施す必要がある。
- ・「ホタル学習」の6年から4年への移行にともなう成果と課題を分析する必要がある。

1【事業の概要、特色等】

- 昨年度同様、本事業を進めていくにあたり、中学校区に2小学校があることから担当コーディネーターを各小学校から2名ずつ選出をした。1名は小学校の窓口とし、もう1名は中学校区全体の担当とした。
- 組織のメンバーとしては、3小中学校の管理職、地域コーディネーター担当、事業のコーディネーター、PTA会長とした。
- この事業を立ち上げる段階で将来的な見通しとして、事業としては3年の期限付きであることが予想される。そのため、その基盤づくりとしてその後も学区の学校が地域と連携し、地域に協力や支援をお願いしながら、よりよい学校作りを進めていきたいという旨を伝え、推進している。
- 「地域に貢献する彦中生」をスローガンのもと、地域貢献活動も浸透してきているので、地域から学校へのボランティア依頼も多く、多くの生徒が地域に貢献している。このことにより、学校と地域が双方向で関わり合い、良い方向に進んでいる。



〈工夫した点〉

- 教員及び他のコーディネーターとの連携を深め、継続的に活動ができるように可能な限り多くの会合(月1回以上)を持つようにした。
- 学校の行事等の把握に努め、これに対応した支援活動を行った。
- コーディネーターやボランティアそれぞれが持つ特性や能力を生かした支援を行った。
- 学校の行事などを把握するとともに、必要とする活動に応じられる人材の発掘に努めた。また、出来るだけ多面的に人材を得られるように運動を継続した。
- 人間関係、協力と友愛の精神が大切である。

〈他校の参考となる点〉

- チラシ配布の他に、ポスターを作成し、自治会掲示板や近隣の大学や施設に掲示することで周知し続けていく。
- コーディネーターが地域の様々な関係団体に所属しているため、協力依頼の声かけがしやすい。

2【事業の成果】

- コーディネーター4名が、地域の人に個々に依頼され、少しずつ人材の確保ができるようになった。また実際の具体的な支援をしてもらったときに、それをきっかけにボランティアの登録をしてもらった。

〈主な活動〉

- 入学式や各行事で駐車場の誘導。
- 定期的に、ランやユリなどで花環境整備により、花のある学校づくり。
- 夏休みの部活動単位で行う愛校作業での葉刈りや校地整備。
- 体育大会や長距離遠足などの行事における、記録写真や負傷生徒の救護支援、交通安全支援など。
- 校外学習後、生徒の撮った写真コンテストの審査。



3【今後の課題】

- 連続して同じ人に支援してもらうことは、個人的な事情もあって難しい。
- 必要に応じた人材を得るのは難しいので、多くの人に呼びかける必要がある。
- 個人的な事情で参加できないときがあり、多くの人と信頼関係を深める必要がある。
- 一時的な参加は得られても、定着への様々な工夫が必要と感じる。
- 各種団体とどう連携するか、今後の課題である。
- コーディネーター相互、ボランティア相互の連携を深めたい。
- 歩調を整えて、まとまった活動が出来るようにしたい。



【鳥居本中学校区支援地域本部：鳥居本小学校】

□ 4 年総合 「矢倉川調査隊」



鳥居本にお住まいの彦根市環境保全員の池田さん、会長の下田さんの協力を得て、矢倉川の調査を行った。今年度は、彦根ロータリークラブさんが、環境学習に協力してくださり、水質調査用のパックを一人が2種類ずつ使うことができた。

川辺で、生き物調査から矢倉川がきれいな川かどうかを調べた。その後、学校へ戻って理科室で彦根港湾の水と矢倉川の水、水道水の水質をパックテストで確かめた。矢倉川の水質は、水道水に近く、きれいであることが分かった。



一事業の趣旨一

本校では、教育活動を4つの「喜び」を軸に進めている。その中の一つに「ふるさとに生きる喜びを」がある。地域の自然・産業・歴史遺産や人々に学び、ふるさとを愛する心をもつ子どもを育てたいと願っている。

内容としては、1・2年生の生活科、3年生社会科の地域探検、地場産業、3年生以上の総合的な学習の時間の活動、5年生のたんぼのこ体験事業、6年生社会科の歴史学習、縦割り活動で行うウォークラリーなど様々な場面で地域とつながる活動を展開した。

1【事業の概要、特色】

□ 1・2年生生活科 「川遊び」

1・2年生が、5月、仏生寺町の矢倉川に入ってマスやかになどをつかむ体験を行った。



青少年育成協議会の方々や仏生寺町老壮クラブの方々が、1週間前から川周辺の除草から川の整備、川へ降りる階段や手すりを作ることまで準備をして子どもたちを迎えてくださった。当日は、学校までたも網やかごを取りに來たり、子どもたちの活動の支援をしてくださった。帰りもマスが入っているかごやバケツを学校まで運んでくださった。

子どもたちは、自分たちが採ったマスを大事に持って帰り、塩焼きにして食べた。後日、お世話になった皆さんにお礼のお手紙を書いて、ありがとうの気持ちを届けた。

子どもたちは、自分たちが採ったマスを大事に持って帰り、塩焼きにして食べた。後日、お世話になった皆さんにお礼のお手紙を書いて、ありがとうの気持ちを届けた。

2【事業の成果】

子どもたちは、どの体験活動でも生き生きとした姿を見せ、大変意欲的に活動することができた。学校から出て、地域の中で地域の方々といっしょに活動することができたことは、子どもたちにとって貴重な学びになった。また、活動後に、お礼のお手紙を書くことで、振り返りをするとともに感謝の気持ちを伝えることができ、地域の方とのつながりが深まった。

「鳥居本学校サポートオフィスの取組」

【彦根市】

【鳥居本中学校区支援地域本部：鳥居本中学校】

一事業の趣旨一

「鳥居本学校サポートオフィス」を立ち上げ今年で4年目を迎える。近年、子どもを取り巻く環境が大きく変化するとともに、家庭や地域の教育力が低下している状況の中、地域全体で学校を支援する仕組みを定着させるために取り組んでいる。

地域の大人が子どもに多く関わることで、多様な体験・経験の機会が増えたり、規範意識やコミュニケーション能力の向上などの効果が期待される。また、教員がより教育活動に力を注ぐことができるようになり、学校教育の充実を図ることができる。

鳥居本小中学校区を対象支援地域とし、学校支援ボランティア活動を中心に進めている。

1 【事業の概要、特色等】

○学習支援

中学校教員からの学習支援ボランティア希望調査を行い、それぞれの希望から地域コーディネーターを通して打ち合わせをして計画した。実施においては、各教科の学習内容でさらに専門的な知識や作業をゲストティーチャーとして来校してもらい授業支援を行った。今年度は、技術・家庭科、美術科、総合的な学習の時間、道徳、朝読書、冬休みの補充学習の支援で実施した。また、3学期に、理科、社会科での実施を予定している。

☆2年家庭科
(郷土料理について)



☆3年人権学習
(部落問題学習)



☆各学年本の読み聞かせ

(朝読書) 毎月
1回(7月、9月、
10月、11月、
12月)実施。



☆総合的な学習の時間

3年卒業研究
として「鳥居本」
を共通テーマに
研究してきた成
果の発表会の講
師として講評を
いただいた。



☆3年美術

3年の美術の
授業の一環とし
て、茶道体験を
実施した。地域
の茶道家のとこ
ろへ出向き、茶
室にて本格的な
お点前等を体験
した。この茶道
体験の事前学習
として、茶碗を
作成(外部講師
を招く)した。また、茶道体験の時に
いただく和菓子をデザインして、和菓子店につくってもらった。このような活動を積み重ねて、地域コーディネーターと連携を取りながら、当日を迎えた。茶道の先生から、茶道についてのお話や作法について教えてもらい、茶室での本格的な体験ができた。



☆今年度の新たな取り組みとして、冬休みの補充教室に、地域の方に来てもらい、学習支援をしてもらった。今年度は4名来ていただき、4日間にわたり2時間ずつ支援活動をしてもらった。

○環境支援

鳥居本中学校のグラウンドが一昨年度「エコ化事業」として全面芝生化となった。そこで地域にも開放して活用してもらっている。活用していただいている地域の方々に、草刈り作業や水やり作業をしていただいている。

「鳥居本をゆりの花でいっぱいにする会」も一昨年より取り組み、ゆりの球根を提供していただき、今年の7月に生徒が一人一球根をプランターに植えた。今年は、プランターのゆりの花を近在の駅や公民館など公共機関等に並べることができた。



○その他の支援

地域の要望もあって、地域の行事に生徒がボランティアとして参加している。学区の運動会の役員や学区の文化祭でのソーラン発表、吹奏楽の演奏、合唱の発表、卒業研究（3年「鳥居本について」）の発表は、毎年参加している。



☆とりいもと学区文化祭（11月）

○広報活動

ブログを開設して、鳥居本小中学校がおこなっているボランティア活動を紹介したり、支援の依頼をお願いしたりして情報発信を行っている。

学校事務局と協力して更新を図り、活動の情報発信をすすめている。みなさま、ぜひ、検索して御覧ください。

[鳥居本中学校サポートオフィス | 検索](#)

2【事業の成果】

○昨年度から、学校支援地域本部事業に、鳥居本学区自治連合会が積極的に関わってくださり、ボランティアの募集を呼びかけていただき人材登録（約100名）ができた。その中から学習支援として授業へ講師を派遣する支援できたことが大きな成果である。

○今年度は、学校に来ていただいて、授業への講師という形での支援はもとより、校外へ出て、茶道体験ができたことが大きな収穫であった。地域の教材を活用できた点が評価できる。

○冬休みの補充学習に学習支援として地域の方が教えに来てくださったことも、大きな収穫と考えている。開かれた学校という観点からも、また、地域の人材を活用できたということ、地域の方と生徒とのつながりができたということ、などの観点からも成果があったと考えている。

○広報活動として、ホームページ「鳥居本サポートオフィス」を設立し情報発信できた。

3【今後の課題】

○茶道体験という、地域の教材を活用できたが、継続性と他の地域教材についても考えていくことが必要である。

○補充学習への支援ということで、地域の方を学校に来ていただくことができた。もっと多くの方が来ていただけると、学習ということで地域と生徒がつながることができる。そこをどのように切り拓いていくかを考えていく必要がある。

○放課後3年生を中心とした学習会の学習支援者学生（チューター）と教職経験者の確保。

○地域の人材を発掘する中で、まだまだ潜在的に支援者となっていただけの方々が多数おられる。そのような方々にもっと気軽に学校へ来ていただき、自身の経験や専門性を生かしながら子どもたちと一緒に活動することで「生涯学習」の実現につながり、学習成果を活用できる有意義な場としていきたい。

○学校・家庭・地域の交流が深まることにより、相互の信頼関係が強化され地域ぐるみで子育てをし、地域の活性化を目指し、今後の活動にもつながるように改善に努めていきたい。

○今後に向けて

このような活動を展開するには、学校とコーディネーターとの連携が大切になってくる。また、小中それぞれのコーディネーターとの連携も大切になってくる。小中合同の支援地域協議会の開催が定期的に設けられるようにしていきたい。

今後の学校支援地域本部の在り方として地域全体（鳥居本学区全域）とタイアップして活動が進められるように、組織の充実を図ろうとしている。

1【事業の概要、特色等】

本校では、トイレの神様プロジェクト、園芸ボランティア、児童支援ボランティア、スクールガード、読み聞かせボランティア等の方々に支援をしていただいている。

＜トイレの神様プロジェクト＞

清掃の時間帯に学校に来ていただき、子どもたちとともにトイレ掃除をしていただいている。

＜園芸ボランティア＞

畑や田んぼのお世話や専門的な指導助言をしていただいている。

＜児童支援ボランティア＞

主に特別支援学級の児童の学習や生活の支援をしていただいている。

＜スクールガード＞

通学路における毎日の下校時の見守りをしていただいている。

＜読み聞かせボランティア＞

この中から、＜読み聞かせボランティア＞について、紹介します。

読み聞かせボランティアさんは、毎月第1・3木曜日の朝読書の時間に各学級に入り、読み聞かせをしてくださっている。子どもたちは、毎回とても楽しみにしていて、時間になると机をさげ、静かに座って聞き入っている。

読み聞かせの題材には、季節や行事に合わせてたり、担当学年の子どもに合わせて選んでいただいている、読み聞かせの方法も絵本・紙芝居・大型絵本といった様々な形態での読み聞かせを取り入れてくださっている。また、お話にあった小道具や読み方を工夫され、子どもたちが本に親しめるように配慮していただいている。

子どもたちの中には、自分で本を選んで読書することが苦手な子どもや、あまり読書が好きではない子どもも、読んでもらおうと静かに聞き入っている。低学年の児童の中には、お話の主人公になりきって、聞きながら「なんで？」「かわいそう。」とつぶやきながら一喜一憂している児童も多い。読み聞かせの日には、担任もいっしょに聞き、子どもたちと楽しい時間を共有するようにしている。



2【事業の成果】

- ・子どもたちにとって、地域の方の温かさに接することができ、ふれあいの場が増え、有意義な活動が実施できている。
- ・ボランティアの方の活動がしっかりと定着してきている。
- ・教職員と地域の方とが日常的にふれあい、コミュニケーションを図ることができている。
- ・教師にとっても、学ばせていただくことが多い。

ある児童の作文（抜粋）

「ぼくは、小学校生活でたくさんの読み聞かせをしてもらいました。（中略）ボランティアの方々は、朝の忙しい中、自分の時間を削ってまで来ておられます。どんなに天気が悪くても時間通りに来て、笑顔で読み聞かせをしてくださいます。本の内容も、季節や行事にあわせて選んでくださることが多く、いつも楽しんで聞いています。ぼくは、そんなボランティアさんを尊敬します。」

3【今後の課題】

これからも、広報活動等により学校支援の活動を一層拡大、定着していくように努めていく。

中学校ブロックで組織されている稲枝地区学校支援協議会等における連携をこれからも大切にしていきたい。

【稲枝中学校区支援地域本部：稲枝西小学校】

—事業の趣旨—

- ・学校の教育活動だけでは不十分な点に支援を受け円滑な推進を図る。
- ・学校・家庭・地域が一丸となった取組の充実を図る。

1【事業の概要、特色等】

(1) 花壇への支援

本校では、特色ある教育活動の一環として栽培活動に取り組んでいる。本校の学校花壇は、歴代フラワーブラボーコンクールにおいて数々の賞を受賞している。

その学校花壇において、本年度は随分傷んでいた芝生の貼り替えをする計画を立てた。そこで、この芝貼りに、地域の老人会の支援を受けることとなった。

もちろん子どもたちも芝貼りをしたが、老人会のボランティアの方々には、子どもたちでは、十分行き届かない細かな部分に配慮をしていただきながら芝を張っていただいた。

老人会の支援から、芝生が生き生きと育ち、今年度もコンクールで優秀賞を受賞することができた。



(2) 環境整備支援

本校は、児童数に対し、敷地面積が広い。当然雑草も生え、その管理が大変である。

そこで、地域コーディネーターの呼びかけで老人会に草刈りをしていただくことになった。

暑い中、長時間にわたり、学校をきれいにしようと熱心に草刈りをしていただいた。おかげで校庭は見違えるように美しくなった。



(3) 学校ゆるキャラへの支援

児童会のフラワー委員会の発案で、全校からキャラクターを募集し、ゆるキャラの着ぐるみを作成することとなった。

休み時間を使っての作成だが、そこにPTA保護者ボランティアの支援を受けることになった。



子どもたちと、保護者が相談しながら、目や口の位置を決めるなどし、作成していった。保護者ならではの丁寧さを發揮していただき、よい着ぐるみを作り上げることができた。

できたゆるキャラは、PTA保護者ボランティアに被っていただき、運動会や音楽会を盛り上げていただいた。



2【事業の成果】

本校は、児童数が年々減り、今までどおりの活動を維持することが難しい状況にある。その中、地域や家庭から学校支援を受けることは大変有り難いことである。

上記の支援ばかりでなく、学習支援や行事支援、読み聞かせなども行っていた。子どもたちの学びに大変有効な場となっている。

学校支援は、子どもたちに、地域の方々に支えられているという実感を育む場となっている。

3【今後の課題】

学校の担当が替わると、暫くの間地域とのパイプが途絶えてしまうことがある。人員の異動にかかわらず、息長く継続していくような学校支援の在り方が今後の課題である。

1 【事業の概要、特色等】

① 読書ボランティア活動

毎朝の読書の時間にはおはなしタイムを設定し読み聞かせ等の読書活動を実施している。今年度も9名の登録があり、毎月第2・第4木曜日の15分間、各教室で絵本などのお話の読み聞かせをしていただいている。少人数での読み聞かせや紙芝居は子どもがとても心待ちにしている事業である。地域の方とのふれあいを深めると共に、豊かな心情を養う意味でも意義のある活動になっている。

② 稲村かるたオリエンテーリング

本校恒例の稲村かるたオリエンテーリングは、地域の自然環境や文化遺産をめぐりながら郷土のよさを知り、自然や文化を愛し郷土を愛する心を育むことをねらいとして実施している。

縦割りグループで行動することを通して、異年齢の子ども間の協力と信頼の気持ちを育てることができる意義深い活動である。児童会の12班の縦割りグループごと

に、平成24年度は上西川・下西川・上岡部・田原・出路方面の「稲村かるた」に詠まれた地点を訪れた。



朝の開会式にも民生委員・児童委員さんや支援ボランティアの方々が参加くださり、その後、子どもと共に各ポイントを回って安全確保、ふれあいに努めてくださった。

各ポイントでは、教師や地域の方々から説明を聞き、クイズに答えるように計画されていて、上西川の洪水標、上岡部の金全坊屋敷跡・長照寺、田原の子安地



蔵、JA カントリーエレベーター、出路の本泉寺御真筆等のポイントで、地域の方々が熱心に説明してくださった。

到着したふれあい公園では、ゴミ拾い等の奉仕活動をしたり、集団ゲームをしたりしながら、異学年集団の仲間で楽しく活動をした。高学年が下学年の世話をするなど、各学年の絆を深めることができた。

支援ボランティア・民生委員・児童委員、保護者の方に温かく見守っていただき、安全に活動することができた。

③ 環境整備活動

各学年の教科に関連した栽培活動では、4年生の瓢箪栽培を始め、3年生の米作りなどに、多大な支援をいただいている。まちづくり協議会の方々には、校内の環境整備にも力を入れていただき、池の清掃や砂場の整備などにも支援をしていただいた。



2 【事業の成果】

おはなし活動、学校行事やふるさと学習への支援活動以外にも夏季休業中の学力補充に8名の地域の方々に支援をいただくなど充実した活動が実施できた。

さらに地域の各種組織で構成されている安全・安心町づくり協議会との連携により、地域の幅広い協力を得ることができた。

3 【今後の課題】

人材バンクへの登録により、人材はかなり増えてきたのでそれを生かすためにも、学校のニーズと地域の協力体制を話し合いによってうまく融合することが大切である。支援者の専門的な技術や知識を生かして活動することをさらに増やしていくことを考えている。

1【事業の概要、特色等】

学校支援地域本部が発足して5年目を迎えました。当初から、「稲枝はひとつ」の考えのもと地域を挙げて支援を行い、稲枝地区の保育園、幼稚園、小学校、中学校の子どもたちが立派に育つようにと願い、連合自治会をはじめ各種団体で組織する「学校支援協議会」が中心となりボランティア活動を展開しています。「読み聞かせ」をはじめ、登下校、環境整備、地域学習、野菜花づくり、学習支援など、学校や園の要望に沿いながら、さまざまな活動が展開され、学校が地域の学校となってきました。

今年度は、特に読み聞かせのスキルアップを目ざして研修会を実施しました。



参加者からは、「本を手にとって読む時間が楽しかったです。自分なりにやっている読み聞かせですが、少し自信らしきこともできてきて、さらに続けていこうという気分が強くなってきました。」などの声が多数あり大変好評でした。読み聞かせは、8校園全てで行われていますが、この研修を機会に読み聞かせボランティアが増え、さらに充実したものになると確信しています。

〈他校の参考となる点〉

稲枝北小学校では、稲枝北学区町づくり協議会の学校支援部会が軸となって、自治会、老人会、青少年育成協議会等の団体のご協力を得ながら、樹木の伐採、剪定作業、草刈り、砂場整備などを行うことができました。



〈連続した支援活動〉

稲枝東幼稚園では、毎年、サツマイモや玉ねぎ、ジャガイモを支援ボランティアの方と栽培しています。今まで玉ねぎとジャガイモを使ってカレーパーティーをしてきましたが、今年は、サツマイモを石焼きいもにしようということになりました。支援ボランティアの方が聖泉大学から手作りの石焼きいも釜を借り、園庭で焼き芋にしてごちそうになることができました。このように、支援活動が繋がりをもつことによって、子ども、支援ボランティア、学校・園との心の繋がりに発展していくものと感じました。



2【事業の成果】

本事業も5年目に入り、各校園とも定着しており、充実発展のための工夫がなされてきました。校園の整備一つとっても、内容的に徐々に広がりを見せてきました。また、石焼きイモに見られるように、子どもとの関わりを広げようとする意味でサツマイモ栽培の域から一歩発展した活動になりました。

3【今後の課題】

組織の充実を図るために、新しいボランティアの発掘と学校支援協議会を、制度の有無にかかわらず継続していく方策を模索しなければならないと考えています。

学校と地域を結ぶ取組の発展を目指して

【近江八幡市】

【近江八幡市学校支援地域本部】

1【事業の概要、特色】

今年度は、本市が学校支援地域本部事業に取り組んで4年になる。昨年度は、近江八幡市に1つの学校支援地域本部を設置し、市内9小中学校に地域コーディネーターを配置して事業を行ったが、今年度は、市内小中学校16校中12校に、さらには2幼稚園（実施校：八幡小学校、島小学校、岡山小学校、桐原小学校、桐原東小学校、馬淵小学校、北里小学校、武佐小学校、安土小学校、老蘇小学校、八幡西中学校、安土中学校、金田幼稚園、安土幼稚園）と一気に取組の輪が広がり、それぞれに計14名のコーディネーターとこれらを統括するコーディネーターとして、本部に1名配置して事業に取り組んだ。14学校・園の取組を市内全域に発信して、地域全体で子どもを守り育てるための土壌を創りあげ、子どもとともにその効果を市内全域に広げていくことで、次年度には、学校支援地域本部事業は近江八幡市全体の取組となることを目標としつつ、一方で、今年度一気に広がったことにより、以前から積み重ねのある学校と今年度初めての学校との間に取組の温度差が広がらないよう、コーディネーターやボランティアの研修に重点を置いて取り組んだ。

（1）コーディネーター研修



・第1回 5月1日（火）15：30～

今年度初めてコーディネーターが一堂に顔を合わせる機会として、委嘱状交付式のあと研修を行った。初めてのコーディネーターが具体的にこれからの取組をイメージできるように、以前から取り組んでいる学

校のコーディネーターから、昨年度の取組内容を中心にそれぞれ話題提供をしてもらいながら、交流を行った。

・第2回 5月29日（火）10：00～

支援ボランティアの募集案内や便りの作成等、コーディネーターが情報発信できる力を身につける事を目的に、市マルチメディアセンターにて、パソコン研修を行った。また、研修の後、取組の交流を行った。



・第3回 10月16日（火）13：30～
後述するボランティア研修会の意見交流会の時間を利用し、これまでの取組や悩んでいることなど、お互いの交流を中心に行った。

・第4回 12月20日（木）15：30～
2学期までのまとめとして、発表会形式で各校園での掲示物等、資料を用いながら、各コーディネーターからの取組の発表と意見交流を行った。その後、懇親会を持ち、さらに交流を深めた。

（2）ボランティア研修会

・第1回 10月16日（火）13：30～
近江八幡市立歴史資料館
講師 佐竹章吾館長
参加者 29名

小学3年生の社会科では、地域の歴史を扱うため、授業支援の材料として、そしてその歴史的資料を保存している資料館について知るために館長を講師に研修会を実施した。その後ボランティア同士の情報交換や意見交流を行ったが、その中で、参加ボランティアの話しから、歴史学習における地域人材の貴重な情報を掘り起こしすることもできた。



・第2回 11月8日（木） 14：00～
「読書ボランティア研修会」

北里小学校

講師 新谷照代先生

参加者 46名

すべての事業実施校園で、読書ボランティアによる「読み語り」が行われている。コーディネーター研修の意見交流の中で、読書ボランティアより研修を深めたいというニーズがあるとの意見を受け、本市教育研究所の協力も得て、市内の読書ボランティアを対象にした研修を実施した。多くの参加者があり、盛会であった。特に講師の新谷先生から、「読み聞かせ」ではなく、子どもたちの目線に立った「読み語り」と呼ぶべきであるとの話があり、それ以降、市内各校とも「読み語り」と呼んでいる。

（3）学校支援メニューフェア in 近江八幡

・7月25日（水） 13：30～16：30

金田小学校

参加者 147名

出展団体 31

（出展側参加者70名）

昨年に続いて2回目の開催である。今年度は会場である金田小学校の教室を利用し、出展団体および近江八幡市「人生伝承塾」講師による模擬授業を取り入れた。参加者からは好評であった。また、終了後、出展団体と参加者との意見交換会を持ち、支援のあり方等について交流した。

〈工夫した点・他校の参考となる点〉

・今年度は、一気に実施校が増えた。当然、本市の事業実施時より実施している学校と、今年度よりの実施校では4年の差があり、取組の積み重ねにも差がある。そのため、温度差が広がらないように、また、初めてのコーディネーターの不安を解消するためにも、コーディネーター研修では、必ずコーディネーター同士の情報交換、意見交流の場を持つようにした。

・各校での取組計画を月ごとに本部に報告してもらい、それをまとめて各コーディネーターに発信して、常に取組内容の共有ができるようにした。

・コーディネーター研修では、地域や保護者への情報発信が大事と考え、実務に役立つパソコン研修を実施した。

・学校支援メニューフェアでは、スタッフとして、前日準備、当日の運営に関わってもらい、全員で作り上げるメニューフェアとした。

2【事業の成果】

・今年度は、市内16校中12校に取り組みの輪が広がった。これは、先進校を中心とした取組の積み重ねの努力により、市内の学校に学校支援地域本部事業の実績が周知され、さらにはその成果が認知されてきた結果であると考えられる。

・今年度は、初めて2幼稚園にも取組の輪が広がった。結果、幼稚園での支援のモデルづくりが進み、市内の各幼稚園にも本事業の認知が進んだ。

・昨年度よりも実施校が一気に増えたことにより、コーディネーターの人数も9名から15名に増えたため、本部としては、各校の取組の情報交換、意見交流に重点を置いて取り組んだ。その結果、取組の共有化を進めることができ、また、それに伴って、ボランティアバンクの推進や地域への情報発信等が進んだ。

・地域人材を取り入れた親子での活動を通じて、保護者同士の交流や親と子の対話を図るなど、家庭教育支援事業と連携した取組も進めることができた。

・昨年度に続いて学校支援メニューフェアを実施したことにより、2年間でほぼ市内の小学校の教員の参加が見られ、企業・団体による学校支援の取組の周知を進めることができた。

3【今後の課題】

・打ち合わせ時間等、地域コーディネーターと学校側とのコミュニケーションがなかなか取りにくい現状がある。コーディネーター任せにならず、スムーズに取組を進めるためには、管理職を含めた窓口の教員との定期的な打ち合わせ等、日常的な時間確保と柔軟で組織的な推進体制をつくる必要がある。

・学校支援メニューフェアは、マンネリ化を避けるための見直しが必要である。

1【事業の概要、特色等】

本校は、近江八幡市の中心に位置し、創立139周年を迎えた歴史と伝統のある学校である。校区内には、土蔵の並ぶ八幡堀、朝鮮人街道が通り、市立資料館、近江商人屋敷、八幡伝統的建造物群が立ち並び、観光客が多く訪れる。また、八幡瓦や八幡靴、竹細工、数珠工芸などの伝統工芸品のほか、赤こんにやくや丁稚羊羹、湖漁など特産物も多い。

このように町並みも含めて歴史を感じるものが多く、文化や産業を受け継いでおられる方が多いことから、今までから人権教育を軸にしながらいろいろな形で地域の方を招いて授業を展開してきた。平成23、24年度は道徳教育推進事業の指定を受けたこともあり、この数年は特に人との出会いに重点を置き、地域人材を活用した授業を通して人に出会い、人から学び、自分の生き方を考える機会を設けてきた。

本事業には今年度からの参加となるが、地域とのつながりを広げ、今までの実践を充実させるために、できることから少しずつ取り組むことにした。

＜工夫した点・他校の参考となる点＞

地域コーディネーターが地域のさまざまな会合で、あるいは自治会の回覧板で、また、コミュニティーセンターに協力依頼をするなどして、本事業の説明とボランティアの募集を行った。

学校においては、各学年の年間指導計画を見ながら、必要なときにはいつでも自分に声をかけられるよう、コーディネーターが環境設定の面で工夫をした。教職員を対象にボランティアの登録状況やボランティアを活用した学年の授業の様子がわかるように「ボランティア通信」を発行したことも周知につながったと考える。

学校では、月1回発行する学校だよりの裏面を使って、活動の様子を掲載し、保護者や地域への周知を図った。

＜活動事例＞

(1) 環境づくりにおいて

①図書室大改装

子どもにとって使いやすい、あるいは行ってみたいと思える図書室にすることがこの数年本校の課題であった。



より使いやすく、心地よい空間になるよう、夏休み中に新刊の登録、書架の移動、図書の入れ替え、ラベル貼りなど、のべ12人の方が76時間をかけて大改装をしてくださった。畳は地域の畳屋さんが無料で分けてくださり、おかげさまで心地よい空間となった。

②瓢箪名人

4年生の理科で瓢箪を栽培し、学級で支柱を作ったものの台風で倒れてしまった。そこで、地域の瓢箪名人に声をかけたところ、たくさんの瓢箪がぶら下がっても倒れないようなとても丈夫な棚を作ってくださいました。プロの技に触れることができた。

③校庭のリフレッシュ

自治会の回覧板でボランティア募集を行ったときに、庭木の剪定、定木に2名の方が登録してくださいました。

本校は校庭に樹木が多いため、大変ありがたかった。9月から松の木を中心に剪定していただいた。その方々のご家族やお知り合いの方も来てくださり、用務員さんと連携しながら、うまく作業を進めていただいた。



④花いっぱい

P.T.A.環境部と一緒にボランティアさんが花植えに参加してくださいました。色を吟味しながら、手際よく植えていただき、

昇降口正面の樽コンテナ、植栽場所にはきれいな花が咲いている。



(2) 学習活動において

①幻の北之庄菜栽培

3年生が食農事業に関わって、幻の北之庄菜の栽培に取り組んだ。実際に栽培されている方に来ていただき、立派な北之庄菜が収穫できた。これをボランティアの方と一緒に調理し、スープを作った。持ち帰った北之庄菜を家

でも食べていただけるようレシピを配布した。

②家庭科サポート

家庭科は子どもにとっては興味のある学習である一方、うまくいかないことも少なくない。そこで、5年生ではボタン付けやなみ縫い、本返し縫いの指導補助に、また6年生ではミシンを使う学習のサポートに入っていた。担任一人で対応するときと比べて大変スムーズに学習が進んだことに驚いた。

③水泳の時間に

4年生では、水泳で泳法を学習するが、息継ぎや足の動かし方、手のかきなどの指導補助をお願いした。

個々への関わりが丁寧にできたため、子どもにとってわかりやすく、効果的であった。



④八幡堀見学案内

4年生の総合的な学習の時間および社会科の学習で八幡堀を扱った際に、八幡堀の歴史、背割り排水、水質等について説明をしていただいた。子ども10人に一人のボランティアがついてくださり、話も聞きやすく学習が深まった。

⑤和楽器に親しむ

5年生の音楽の学習で箏と尺八の演奏を聴かせた。両楽器とも複数ご持参くださり、子どもたちも体験演奏ができた。どちらの楽器もなかなか触れる機会がない楽器であり音を出す難しさを実感できた。



⑥1年生への読み語り

PTA読書部と連携し

10月から週1回1年生4学級に一人ずつ読み語りボランティアに入っている。

行事などに関連させた本を選定し



ていただくなどタイムリーな内容になっている。子どもたちにも集中できる時間になっている。

(3) クラブ活動において

①茶道に親しむ

日本文化に親しむクラブが茶道体験をしたいと考え、茶道師範の方に来ていただき、お茶の立て方や飲み方、お菓子の食べ方、そして茶道で最も大事にされているお茶の「心」についても教えていただいた。



普段の様子とは異なり、心地よい緊張感が生まれ、貴重な機会となった。

②卓球を知る

4年生から6年生までと一緒に活動するクラブ活動の中で一番早く支援していただいたのが卓球クラブであった。ピンポンではなく、本物の卓球を体感させたいと、クラブ活動以外の時間にも空いた時間を見つけて来校くださり、ラケットの修繕もしていただいた。3名の方に来ていただけるので、時間を有効に活用し少しでも多く練習できるよう支援していただいている。

2【事業の成果】

初年度ということもあり、どれだけ事業が進むか心配もあったが、動き出すと教職員の意識も少しずつ高まり、学習活動の具体的な支援内容を地域コーディネーターに伝えられるようになってきた。初年度からこれだけの数の方々に支援をしていただけるとは当初考えていなかったもので、予想以上の成果があったと考える。この事業を通して、地域の方々が子どもたちのために時間と労力を惜しまずにご支援いただけるありがたさを感じている。地域コーディネーターが教育現場におられたことも功を奏し、意図を汲みながら的確な人材を確保していただき、本物の技や空気感を感じることができた。学校だけでは得られない学びができたことに加え、本物に触れる経験の重要性も感じている。次年度もぜひ継続して、子どもたちの学びの深まりを目指したいと考えている。

3【今後の課題】

大規模校における支援ボランティアの活用、支援メニューの運用についてはさらに工夫が必要である。また、施設面においては、空きスペースがないため、ボランティアさんの打ち合わせや休憩スペースが確保できず、心苦しいところである。

『地域との連携を深め学校教育の充実に向けて【近江八幡市】』

【島小学校支援地域本部】

1 【事業の概要、特色等】

活動2年目となる本年度は、昨年度の活動を継続・発展し、以下の計画のもと取り組んだ。

実施期間	内 容	場 所
4 月 ～ 3 月	見守り隊・スクールガードによる下校指導	各通学路
月 3 回 火曜日	読書ボランティアによる読み聞かせ	各教室
5 月 ～ 3 月	1 年 ・昔遊び名人支援 ・「生ゴミ大作戦」（環境学習）コンポスト作りの支援	その他
2 年	・生活科「生き物探し」 ・「ヨシ学習Ⅰ」支援 ・ヨシちまき作り支援	
3 年	・「まち探検」支援 ・「ヨシ学習Ⅱ」支援（ヨシ簾工場見学・ヨシ刈り体験等の支援） ・社会科「私たちの町で作り出される物」（大中トマト畑見学・ロッテ工場見学支援） ・漁業に関する話支援 ・「昔の暮らし」聞き取りに対する支援 ・焼きいも会支援	
4 年	・「菜種学習」支援（菜種刈り・種落とし体験等の支援） ・馬淵浄水場見学支援 ・警察署見学等支援	
5 年	・「田んぼのこ」活動支援（田植え・稲刈り・魚道の生き物調べ）	
6 年	・歴史学習（室町文化） ・「茶道体験」支援 ・「調理実習」支援	
全校	・「島アドベンチャー」下草刈り等実施支援 ・「島子ども祭り」実施支援 ・「5・6年スキー教室」実施に関する支援（ボランティア募集など） ・学校林整備支援	

＜工夫した点＞

島小学校は、本年度から3年間「しが環境教育リーディング事業」を受け、環境教育の実践、特にエネルギー分野に関する新しいプログラム開発に取り組んでいる。このことを受け、事業を進めるにあたり、地域の自然と人材を活かし、環境教育の推進に寄与できるよう工夫をした。

＜他校の参考となる点＞

前述した環境教育の推進に寄与するため、例えば、市主催のメニューフェアを活用しながら人脈を広げ、コンポスト作りの指導をいただける方を学校に紹介するなど努めた。

【1年「生ゴミ大作戦」（環境学習）コンポスト作り】に関する支援

- 日時：9月28日（金） 5時間目
- 内容：1年生活科「生ゴミ大作戦」に関する支援
- 概要：

「市民・生ごみリサイクルプロジェクト」の森井サワ子様の御協力を得て、生活科「生ゴミ大作戦」を行う際の支援を行った。

子どもたちの食育・環境学習に寄与するため段ボール箱に腐葉土と米ぬかを混ぜ、2日間ほど置いて発酵を促し、残食を混ぜ入れてよくかき混ぜる活動を進めている。



【2年生生活科ヨシ学習】支援

- 日時：6月12日火曜日5・6時間目他
- 内容：2年生生活科「ヨシちまき作り」「ヨシ刈り」「ヨシ簾作り」に関する支援
- 概要：

環境学習の一環として、地元在住の方の協力を得て、自分たちが西の湖畔で刈ってきたヨシを使って「ヨシちまき作り」に挑戦した。

また、同じく地元の方の御協力を得て、1月11日ヨシ刈り体験、17日のヨシの皮む

き、18日ヨシ簾作り体験の支援も行った。



【3年社会科見学（大中トマトハウス見学）】に関する支援



- 1 日時：11月8日木曜日3・4時間目
- 2 内容：3年社会科見学に関する支援
- 3 概要：
3年社会科「私たちのまちでつくりだされるもの」の学習として、大中町でトマトを作っておられる地元農家のビニルハウスを訪れ学習する際の支援を行った。

【4年菜種学習】に関する支援

- 1 日時：菜種刈り5月22日火曜日
搾油体験11月8日木曜日 他
- 2 内容：4年「菜種刈り」や「菜種の実落とし」体験など「菜種学習」に関する支援
- 3 概要：地域で「ほんがら松明」の保存に力を注いでおられる地元の方に協力いた



だき、「菜種刈り体験」や「菜種落とし」体験をさせていただく際の支援を行った。

【6年歴史学習】に関する支援

- 1 日時：10月5日3・4時間目
- 2 内容：「茶道体験教室」に関する支援
- 3 概要：
近江八幡市「人生伝承塾」講師に御指導いただき、6年社会科「室町時代の文化」を学習する一環として「茶道体験教室」を実施し、その際の支援を行った。



【学校林整備】に関する支援

- 1 期日：9月29日日曜日
- 2 内容：学校林の下草刈り等の支援
- 3 概要：
島学区まちづくり協議会の有志の皆様により、学校林を設定していただき、下草刈り等整備に取り組んでいただいている。



3【事業の成果】と【今後の課題】

本年度は、事業二年目ということもあり、昨年度の活動を踏まえ「学校教育の充実」により寄与できるよう心がけた。例えば、「島アドベンチャー」や「スキー教室」での安全管理を含む支援をはじめとして、島学区まちづくり協議会との連携のもと、ボランティアの組織化に取り組んだ。

今後も、既存のボランティア団体の組織化を含め、善意ある個人の皆様の心をつなぎ、地域の教育力を高める為寄与したい。

1【事業の概要、特色】

岡山小学校のめざす子ども像は、おーおもいやりのある子 かーかんがえる子 やーやる気のある子 まーまなびあう子である。

これらの目指す子ども像の実現に向けて、教職員と地域、学校支援ボランティアの方が、子ども達の「確かな学力」と「豊かな人間性」の育成という、共通の願いの下に一緒に活動することは、学校と家庭・地域の信頼関係を深めることにも繋がる。

本校では、地域が学校に対し協力的で、この事業が始まる前から学校支援ボランティアが関わる内容が多く展開されてきた。また、岡山学区まちづくり協議会を中心に地域で子どもを育てる行事や活動が多く展開されているのも大きな特色である。

（1）環境整備支援

①生け花ボランティア

毎週学校の正面玄関には、地域在住の女性ボランティアさんによる、季節に合わせた美しい生け花が飾られる。生け花の側には、花の色に合わせた色鉛筆で花の名前が記されている。

②天井アートボランティア

生け花の飾られた、正面玄関の奥の天井や壁面には、季節ごとに自然や節気等に関わる手作り作品が展示される。例えば7月は七夕をイメージした星飾り、12月はクリスマスを迎えるクリスマスツリーやサンタクロースの衣装などが華やかに飾られている。子どもたちもこの場所を通り抜けるのを楽しみにし、つい立ち止まって作品を見たり触ったりしている姿がよく見られる。



③図書ボランティア

図書の整理や修繕、飾り付け等子ども達が図書室に魅力を感じ、多くの本との出会いを楽しむための工夫を怠らして下さっている。16名のボランティアさんが週1回午前・午後の2グループに分かれ活動している。ここでも、入り口には季節の飾り物や新刊本の紹介等、楽しい工夫が見られる。



④校庭の環境整備

P T Aの役員や教師が、土・日曜日の休

【岡山小学校支援地域本部】

みに学級園の耕しや小魚が住む岡山池の整備などをしていただいた。また12月には、運動場の高木の剪定作業をP T A本部役員を中心にしていただいた。高所作業車は、地域コーディネーターに手配していただき、地域の方に協力いただいた。



⑤その他

・通学路の危険箇所の点検

P T Aを中心に通学路の危険箇所を点検し、地域コーディネーターが学区の連合自治会への協力・依頼、市役所への要望などに精力的に動いてくださった。

（2）学習支援

①お話玉手箱ボランティア

毎週水曜日の始業前に、各学級で教職員とローテーションを組みながら、9名のボランティアさんが、本の読み聞かせをして下さっている。中には、高学年の子どもたちが、少しでも興味を持ってくれるようにと、挿絵を写真に撮って、電子黒板に映し出して読み聞かせをしてくださる方もおられる。どの学級も、子ども達は真剣に静かに聴き入っている。



読み聞かせ後、部屋に集まっての話題は、次回の本の話題や情報交換等、ここでも地域の暖かい絆が生まれている。

②各学年への学習支援

1年生

・昔のあそび(祖父母)

2年生

・野菜づくりの名人

・田んぼの学校

(田植え、稲刈り、おにぎりパーティー)

・校区探検

3年生

◇岡山探検隊

・いろいろな人と出会おう

養鶏所見学

視覚障害者の方と盲導犬

賀茂神社宮司さん など

・カルビースナックスクール



4年生

- ・ヨシランプ作り（成安造形大学）
- ・新町交番警察官（3名）
- ・フリーマーケットをしよう
ミシンボランティア（保護者）
手作りリサイクル品の販売
- ・地域の消防団
- ・おうみ作業所（障害者理解）所長さんの講話、見学
- ・元水茎干拓事業
- ・琵琶湖一周ボランティア（保護者）

5年生

- ・田んぼの学校（田植え、稲刈り、おにぎりパーティー）
- ・金環日食の話
- ・ミシンボランティア（保護者）
- ・放送局の仕事（ZTV）

6年生

- ・金環日食の話
- ・おでかけ演奏会
- ・茶道体験（人生伝承塾講師）
- ・ミシンボランティア（保護者）
- ・薬物乱用防止教室（滋賀医大生）
- ・部落問題学習
- ・「幸せな未来を」（キャリア教育）
- ・ふるさとの良さを紹介しよう



その他

- ・運動会での江州音頭の指導
- ・校内マラソン大会立哨ボランティア
- ・ジャンピングボード（なわとび練習台）の製作
- ・金環日食、金星太陽面通過の天体観測



（３）児童の安全指導

スクールガードの方が毎日、登下校の子どもの安全確保のために、立哨や引率をしていただいている。

（４）地域行事との関連

岡山学区には、まちづくり協議会を中心に子ども体験活動推進協議会等の組織がある。子どもを地域で育てようとさまざまな行事・活動が行われ、子どもたちも積極的に参加している。また教師もそうした地域行事に参加している。7月に開催された泥んこドッジボール大会には、岡山幼稚園と合同チー



ムを作り参加した。10月には、通学合宿があり、その最後の夜に行われる校舎を使用した肝だめし大会には、教師もスタッフとして協力した。数回ではあるが、学校も地域行事に参加することにより、地域とつながりを持ち、連携した学校づくりの一助になるのではないかと。もちろん行事参加だけではなく、地域素材の教材化など、より充実した学びにするために地域に出かけたり、人と出会ったりすることが最も重要である。

＜工夫したこと＞

- ・地域コーディネーターの人脈を生かし、自治会等への協力・依頼等、連絡調整に精力的に動いていただいた。
- ・「田んぼの学校」では、地主さんや農業委員さんの協力の下、2年と5年の合同での田植え、稲刈り、おにぎり作りを実施することで、農業体験だけでなく、異学年の交流を深めるねらいも併せて計画実施した。

＜他校の参考となる点＞

- ・6年生「ふるさとの良さを紹介しよう」の学習では、グループで課題（テーマ）を設定し、課題解決のために、自分たちから地域に出かける場所を決め、（グループによって出かける場所が違う、出かける日も違う）子どもたち自身が、交渉していく学習活動は、子どもたちのより豊かな体験活動となり、主体的な学びを育てるのではないかと。また大人が準備・段取りをしていくこれまでの方策と少し違った学校支援の方策ではないかと。

2【事業の成果】

- ・さまざまなボランティア活動やゲストティーチャーを招いての学習、地域へ出向いて地域の人たちや自然とふれあうことは、子ども達の生きる学びにつながっていくとともに、ボランティアさん達の充実感の達成にもつながっている。子ども達の心を揺さぶる、本物の教材・人材・話題・文化等の大切さを改めて感じるものだと思う。

3【今後の課題】

- ・図書ボランティアやお話玉手箱ボランティアの方は、サークル的になっており、自主運営ができているが、環境整備や学習支援などの分野では、人材を探す必要がある。スムーズに調整していくためにボランティアの登録制を検討するなど体制づくりが今後必要である。
- ・学校支援が効果的に生かせる体制をつくるために、学校のニーズやプログラムと地域の人材や力を生かせる場を整理・調整していく必要がある。
- ・継続的な学校支援を増やし、子どもたちと地域の大人がつながる関係づくりにしていきたい。

給食の残菜を肥料にかえよう

【近江八幡市】

【桐原小学校支援地域本部】

1【事業の概要、特色等】

社会科でごみの処理と活用について学んだ4年生に、概念的なリサイクルの理解にとどまらず、ごみが生かせることを体感的に理解させたいと考えた。また、命をいただいている食べ物を大切にする食育の観点からも有効な取組であると考え、給食の残菜からの肥料作りを計画した。

〈工夫した点〉

9月4日、「市民生ゴミリサイクルプロジェクト」の皆さんを講師としてお迎えした。実施に当たっては、事前に担任が堆肥作りの指導を受け、実践体験した上で当日を迎えた。また、プロジェクター等を準備し、なぜごみを減らさなければならないか、どういふしくみで残菜が堆肥に変わっていくのかなど、地球温暖化や食物連鎖についても4年生なりに理解させ、堆肥作りのもつ価値を理解した上で取り組ませるようにした。

〈他校の参考となる点〉

「市民生ゴミリサイクルプロジェクト」さんが指導してくださる堆肥作りは、特別な設備や道具を必要とせず、段ボール・寒冷紗・米ぬか・腐葉土・移植ごて等、身近な材料・道具で取り組むことができ、多くの学校での指導の経験から残菜の堆肥化を確実に成功させてくださる。設置後は時折発酵状況を点検に来て必要な手立てもしてくださる。

堆肥化容器の臭いも意外に気にならない。他にも、ゴーヤの栽培による緑のカーテン作りを本校では2年生を対象に指導していただいた。



2【事業の成果】

児童の感想より

- ・土とこぬかを手でまぜました。最初は冷たかったけどまぜてるうちにぬるくなってきました。
- ・段ボールの中の温度は35度～65度だそうです。生ゴミが分解されて良い堆肥になります。
- ・生ごみを本当に肥料にできるなんてエコだなあと思いました。また家の人に教えて一緒に作りたいです。
- ・堆肥をさわったら40度ぐらいあったのであたたかかったです。生ゴミを使って堆肥を作るのはかんたんそうなのでびっくりしました。自分でもやれそうです。

感想からは食べ残しの残菜が意外に簡単に堆肥に変えられることの驚きと、「これならやってみられそうだ。」という実践への意欲が感じられる。また、発酵の進む段階での発熱や分解を進める目に見えない微生物の働きに感動する声もあった。

子どもたちは生命の循環について体感的に理解することができたと考ええる。

3【今後の課題】

この堆肥を元肥として大根の栽培と学年では計画していたが、堆肥作りが種まきの時期に間に合わず、追肥として活用した。大根の種まきに合わせて1学期に堆肥作りを実施すると発酵でなく腐敗し、堆肥作りは成功しにくいらしい。完全な循環を児童に体験させ、収穫物を調理し、食するところまで体験させたいと考えるとき、実施時期や栽培作物について年間の見通しをしっかりとって計画・実践しなければならない。

1 【事業の概要、特色等】

校区の方を委員とする「桐原東学区地域教育協議会」を組織し、本校の学校支援地域本部事業が本年度よりスタートした。

本事業における教育支援活動は、様々な体験・交流・学習活動等を通じて、子どもたちの主体的に学ぶ姿と豊かな人間性を育てるとともに、地域の子どもたちと大人の積極的な交流による地域コミュニティの充実と地域社会全体の教育力の向上を図ることを目的としている。また、学習支援活動と学校環境整備活動を主として事業展開している。

活動例

学習支援活動例として、5年生の「白鳥川の体験学習」を紹介する。

10月19日、「白鳥川の景観を良くする会」のみなさんの御協力で、5年生が、校区内を流れる白鳥川に入っての環境学習を実施した。大きな網を使い、魚や貝等の生きものつかみをした。琵琶湖に生えるヨシに登る魚「ヨシノボリ」が多く見つかった。また、水質調査も行い、水の中に含まれる酸素の度合いや透明度を調べた。



（子どもの感想）

＊水の透明度を調べ、白鳥川の水がきれいだということがわかりました。白鳥川の水を汚さないよう気をつけて生活していきたいです。

＊白鳥川の生きもの調べをして、エビ、ド



ンコなど、いろんな生きものがいて、すばらしいなと思いました。

〈工夫した点〉

白鳥川の景観を良くする会では、毎月、白鳥川の美化作業に取り組んでおられる。会の活動について紹介もしていただくことで、環境保全のために自分たちができることを考える機会となった。

〈他校の参考となる点〉

白鳥川の景観を良くする会では、4月、白鳥川の川べりの桜の木にぼんぼりを灯す活動をされているが、子どもたちは、ぼんぼりの絵柄を描くことに参加させていただいた。子どもたちが、まちづくりに役立つ価値ある活動となった。

2 【事業の成果】

地域コーディネーターが各学年の学習支援に役立つ仕事に取り組むことで、担任の負担軽減やボランティアの方との連携ができた。また、多様な人材活用を推進することができた。

3 【今後の課題】

本事業における教育支援活動については、特色ある活動として定着してきたものと、その年度によって必要なものがある。人材リストを整備するだけでなく、新たな人材発掘に向けて地域や保護者に呼びかけていく必要がある。

【馬淵小学校支援地域本部】

1 【事業の概要、特色等】

本校では、以前から教育活動に地域の方々の力を借りて教育の充実に努めてきた。そのことは、子どもたちの「自分から学ぼうとする力」や「豊かな心」の育成に大きな力となってきた。

地域の方々が、自らが学び培ってきた知識と経験が次世代の地域を担う子どもたちの育成に寄与してきたものであると考える。

そこで、今年度はさらにその取組が充実するように、本事業を展開することになった。

さらに、地域全体で学校を支援する体制を構築することで、「地域の子どもは地域で育てる」ための地域教育力の向上を目指していくものでもある。

<工夫した点>

- ・空き教室にボランティアルームを設置して地域の方が来校しやすい雰囲気と居場所を作った。

- ・学区への全戸配付の地域広報誌（コミセンだより）で取組の周知を図ることを推進した。

<他校の参考となる点>

- ・ボランティアルームでは、ポットを設置し、お茶を出して休憩できるようにした。
- ・児童昇降口ホールとボランティアルーム内に活動写真やチラシを掲示するコーナーを設置した。

<ボランティア活動事例>

① 水泳支援

全学年を対象に5名の方が13日間にわたり教師の支援や子どもへの個別支援を実施。手を添え息つきなど細かな支援で上達できた子どもが増えた。



②書道支援

3・4・5・6年の書初め支援に1名の方が5日間にわたり、その場で手本を書き示しながらポイントを説明し、それぞれに添削等の支援を実施。子どもたちはゆっくり丁寧に書く気持ちを学び上手に書けるようになった。



③図書室支援

居心地の良い図書室作りを目指して保護者を含む8名の方が毎月2回活動。「読み聞かせ」と「図書室の本から作る工作」、本の整理・飾りつけなど昼休みを中心に図書委員の子どもたちと一緒に活動した。



④ 和菓子作り支援

6年生が1年生と育てたさつまいもを使って卒業生の和菓子職人2名が「茶巾絞り」などの作り方を指導。6年生は1学期に学んだ茶道を生かし1年生をおもてなしすることができた。



⑤ 歴史を語る支援

4年生の地域学習で昭和28年の台風被害による日野川堤防決壊当時の様子を4名の方が語ってくださった。緊急時の避難の大切さと自分たちが災害を伝えていく大切さを学んだ。

⑥ハザードマップ作成支援

4年生のハザードマップ作りに学区老人会の22名が協力。学区を5つに分け事前に子どもたちが調べた地図に地域の方の助言を受け避難経路などを書き記した。

⑦クラブ活動支援

4・5・6年生のクラブ活動に5名の方が支援。「昔のあそびクラブ」で囲碁や将棋、「家庭科クラブ」で料理や編み物などを、13回にわたり指導いただいた。



⑧茶道体験支援

6年生の室町時代学習に4名の方が茶道の作法を指導。茶器の扱い、お茶の運び方、挨拶の仕方、畳の部屋での作法、おもてなしの心など日本古来の伝統を学んだ。



⑨田んぼと畑の支援

2・5年生の田んぼの学習で地域の田んぼで米を作る学習の支援。さらに、5年生の畑の学習では、地域のビニールハウスで菊菜栽培の話聞いた。

⑩ソーラー電池学習支援

4年生の太陽電池の理科学習に企業がパネルやソーラー電池で動く自動車などを持参して説明。ソーラー電池の力や電気の大切さを子どもたちは学んだ。



⑪その他の支援

・「スキー教室」支援

5・6年生のスキー教室に地域の方や大学生等が支援

・「昔の学習」支援

3年生に昔の学校・遊び・暮らしについての話

・「健康学習」支援

全学年に食生活や健康についてジャンボ紙芝居を上演

・「環境学習」支援

「びわこ守ったろうデー」にあわせて子どもたちと一緒に白鳥川の清掃活動を実施

・「大凧作り」支援

5年生の大凧作りの指導と支援

・「ホームページ」の更新とアップ

広報活動

校内では、ボランティアルームや校内の掲示板を通じて活動を展示。地域に向けては、コミュニティセンターが毎月学区全戸配付される広報誌に活動内容を掲載して周知に努めた。

ボランティアの交流・研修

ボランティア同士の取組の発表や子どもへの対応などの研修会と情報交換を実施した。

〈参加者の感想〉

20代～80代まで幅広い世代の方が参加してくださいました。久しぶりの学校を懐かしむ方や、初めての学校に緊張する方などがおられたが、子どもの学ぶ力に驚かれて、自分自身も学ぼうとされたりして楽しかったという声が多かった。

2【事業の成果】

年度当初に学区全戸にボランティア募集のチラシを配付したが申し込みがなく心配したが、知り合いや紹介していただいた方など、合計80名余りの参加があった。

その結果、ボランティアさんは子どもたちのために力になれた事に喜びを感じて、地域で子どもを見かけると今まで以上に声をかけたり目配りしてくださるようになった。

また、子どもたちは、新鮮な目で地域の方たちの話を聞き学ぼうとする姿勢がみられた。

さらに、教師は専門的な支援をもらえたり細かな目配りに安心して授業をすすめられたりするなど多方面にとって成果の多い事業となった。

3【今後の課題】

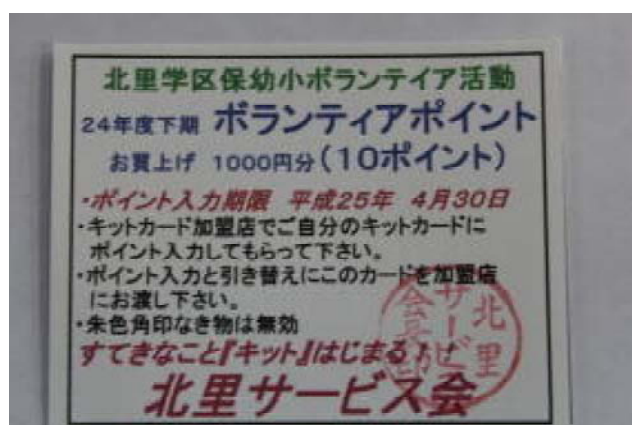
本校では、10年余り以前に「ふるさと先生」という取組があり、地域が子どもたちを支援する土壌はあったと思われるが継続が難しかった。今年度の本事業での取り組みでその必要性が再認識されたので継続のための関係者のさらなる理解の必要を感じた。

【北里小学校支援地域本部】

1【事業の概要、特色等】

(1) ボランティアポイント継続の取組

地域を挙げてたくさんのボランティアに学校を支援していただいているので、本年度も北里商業協同組合の御協力を得て、小学校・保育園・幼稚園にボランティアに来てくださった方々に北里商店街の買い物補助券を渡している。学校へ来ていただいた方へのお礼と共に地域商店街の活性化につながる取組として定着化してきた。



(24年度下期分のボランティアポイント)

(2) 2年目を迎えた校内研での実践の積み上げ

本校が校内研究で総合的な学習・生活科に取り組んで2年目になる。研究主題を「自ら求め考発信する子どもの育成」とし、豊かな体験活動を通して主体的に課題と向き合う子どもを目指している。その中で必要に応じて地域の方々から学ぶ機会をできるだけ多く設けるように進めてきた。地域と学校のつなぎ役を地域コーディネーターに委ねているがすべてお任せではなく、教師自ら学習の目的やねらいと照らし合わせて、活用時期や活用方法を決めて、地域コーディネーターやボランティアと綿密な連絡調整を行った上で授業を進めている。コーディネーターを地域交流の要とし、教師自らも地域に積極的に関わろうと取り組んでいる。

(3) 読書ボランティアによる読み語り

昨年度から、落ち着いた朝のスタートと学力向上を目指して、全校で毎朝10分間読書に取り組んでいる。また、木曜日には読書ボランティアによる「読み語り」を行っている。12月の人権週間の時には学校からの要望を

受けて、人権に関する内容の読み語りを学年に応じた本の選定のもと実施して頂いた。読書ボランティアは在校生の保護者が中心となって活動してもらっているが、読み語り終了後、図書室の整備もして下さる方もおられる。また、地域には現役時代図書館に勤務されていた専門家もおられ、多いときには週に3回図書室の整備をしてくださっている。図書室整備の中心として活動していただいている。本年度、読み語りの継続に対してPTAより予算をいただき、たくさんの本を購入できたことはこの事業の成功の証と考える。その中で大型絵本も購入し、読み語りにも活用してもらっている。



(大型絵本で読み語り)

(4) 情報の収集と発信

本年度も近江八幡市主催の学校支援メニューフェアに全員参加して研鑽を積んだり、地域の行事に参加したり、地域を歩いたりすること等、取組を進めてきた。

また、地域コーディネーターの発行する広報紙「ネット輪〜ク」と共に、学校だよりや学年・学級通信で随時活動を知らせるように心がけ、数多くの情報発信を行ってきた。

〈工夫した点〉

(1) 地域商店街との連携

地域の子どもは地域でも育てるという意識の高い学区で、商店街の御協力のもと、学校のために尽力くださる方に「ボランティアポイント」を発行している。ボランティアは無料奉仕ではなく、ポイントを発行することで謝礼となるばかりではなく、地域商店街の活性化にも役立っている。

(2) 地域の方々との豊かな体験活動

校内研究で、豊かな体験活動を通して主体的に課題に取り組んでいる。本校のボランティアは多彩である。例を挙げると・環境・図書・読み語り・昼休みおもちゃランド・紙芝居・学習支援（調理、福祉学習、平和学習、食育、ミシン）等々である。この豊富な人材を活かして学年毎に豊かな体験と交流の場が展開されている。

(3) 教師自らの行動力・実行力が決め手

地域ボランティアを地域交流の要として位置づけているが、すべてを委ねるといった安易なことはせず、教師自らが主体性を持って計画・立案するように心がけている。

(4) 豊富な量の情報発信

学習終了と同時に、学習の過程や成果物、感想等を織り交ぜた通信を保護者や地域に向けて発信している。保護者のみならず地域の方々にも情報を発信することで、新たなボランティア発掘の一助となっている。

〈他校の参考となる点〉

○地域商店街との連携

・ボランティアポイントの発行で、地域商店街も活性化

○豊富な人材の発掘・登録

○成果は保護者のみならず地域全体へ情報発信

2【事業の成果】

(1) 地域との連携

教育活動に協力いただいた方々に、お礼の手紙や成果物、ボランティアポイントを渡した。中には学校にお招きして感謝の会や試食会を催した学年もあった。

(2年食育)

・1年を通して野菜作りに協力いただいた方々のおでんパーティーと感謝状渡し



ボランティアポイントは現保護者は対象外とし、それ以外のボランティアの方々に渡した。このポイントは北里商店街のみ有効ではあるが、大変好評であった。地域の活性化にも貢献している。

(2) 地域→学校→地域の循環型学習

本年度も校内研究と結び合わせて実践している。単に話を聞いたり教えを請うといった受身の学習ではなく、子ども自らが課題を持って地域に出て行き課題を解決する学習活動を行っている。例を挙げると、6年生では地域商店街の方々と話し合い、活性化に繋がる方法を地域の方々と共に考え行動する学習に取り組んでいる。2学期末から商店街に地元の人をたくさん呼ぼうと、ポスターを作成し街角に掲示する計画を進めている。また、自分たちも地域の商店街に出かけようと話し合っている。

(3) 図書室の充実

朝学習で読書に取り組み、木曜日にはボランティアによる「読み語り」を実施してもらうことで、本に興味を持つ子どもが増えている。昼休みになると子どもたちが図書室を訪れ、読書している姿が日増しに増えている。読み語りが終わるとボランティアの方々は図書室に移動し、書架の整理や飾り付けなどをしてくださっている。いつも整って落ち着いた環境を創り出してくださっている。この活動に対してPTAから補助金を出し、PTA文庫を図書室の一角に設けた。本の選定から文庫増設までボランティアが中心となって活動してくださっている。



(大人気でたくさんの本が貸し出されているPTA文庫)

3【今後の課題】

本年度で4年を経過した本事業であるが、教師一人ひとりがこの事業の意義を深く理解し、自らがコーディネートできる力を持つことも必要であろう。そのためには、教師が地域に愛着を持ち、進んで地域に出かけ、情報を収集・教材化して、地域と共に子どもを育てるという高い意識が重要であると思われる。

【武佐小学校支援地域本部】

1 【事業の概要、特色】

本校では、平成 21 年度の 3 学期から本事業を展開している。地域ぐるみで子どもを育てる体制づくりをめざし、スタート時ボランティア登録者 20 名から始まり年々たくさんの方がボランティアとして学校の取組に参加してくださるようになり、現在、登録者数 89 名に至っている（スクールガード約 120 名は別に）。また、平成 23 年度から、ボランティア活動の活性化を図るため登録者の中から各町の代表と活動内容ごとの代表を決め（人数の多い活動のみ）、地域コーディネーターと相談しながら学校との連絡調整役としてボランティア活動の推進に関わっていただいている。今年度も本事業の一層の深まりをめざして、学校と地域の方々との連携を進めている。

◇ 町代表… 8 名

◇ 活動代表… 5 名（家庭科・図書・水泳・田畑・昔遊び）

＜工夫した点＞

ボランティアさんに気持ちよく活動していただくため、ボランティア心得を作成しボランティア室に掲示し啓発している。また、活動して終わりでなく活動に再度参加したくなるようボランティア活動に生き甲斐を感じられるよう、以下の取り組みをしている。

＜他校の参考となる点＞

(1) ボランティア室の設営（拠点づくり）

空き教室を利用してボランティア室を設営し、活動の事前打ち合わせや事後の反省を行っている。また、ボランティアさんが自由に話し合える雰囲気づくりに努め、時には、教育や生活について語り合ったりする憩いの場となっている。そして、その話し合いの中から新しい活動へとつながっていき、活動への広がり役立っている。

(2) 名札の作成

来校者用とは別に 89 名全員の名札を玄関に常備し、活動の際に利用してもらっている。名前を知ってもらうことにより、子どもたちも親しみをもって接している様子が見える。

(3) 封筒の用意・「通信」の発行

全員宛の封筒を用意し、月 1 回「学校だより」といっしょに支援ボランティア・教職員に「ボランティア通信」を配布して情

報の共有化を図っている。通信には活動に参加していただいた方の名前を入れ、参加してよかったと思ってもらえるよう敬意を表すようにしている。登録者全員に活動の依頼をすることができ図書ボランティアに新たに男性が加わるなどの効果も見られた。

(4) 活動内容を伝える掲示物の作成

写真やカットを交えた掲示物を作成し、ボランティア用掲示板を利用して児童や来校者にも活動の様子を伝えている。

(5) 感謝の気持ちを表す

お礼の手紙やパーティへの招待のほかに運動会の招待状や年賀状を子どもたちが手書きで全員に送っている。また、音楽会や子ども祭り・人権集会・卒業式などの行事にも全員に参加を呼びかけ、ボランティア席を設けて感謝の気持ちを表している。



◆事例① 町たんけん～ぼくらの町はどんな町

3 年生は、社会科の学習で自分たちの町のようすを調べるため各町に探検に出かけている。各町で町の特色を話してくださるボランティアを探して欲しいという依頼を受け、電話をかけたたりお店を訪問したりして、7 町のボランティアさんを探すことができた。伊庭家やエコ広場、中山道武佐宿、神社や町名の



由来、近江牛、豆腐の作り方、コミュニティセンター、ムシヤリンドウの話など、地域ならではのたくさんの貴重な話を聞くことができ、子どもたちが地域に親しみや愛着を持つことができる取組となった。

◆事例② 戦争体験の聞き取り

地域内にある高齢者施設の利用者さんとの交流についての事前打ち合わせの中で、最近戦争体験の話ができる人が少なくなってきたという話が出た。「利用者さんができはるで」ということで、6年生の子どもたちが平和学習の一環として高齢者の方から戦争体験の聞き取りをすることになった。2班に分かれ、2日間のべ14人のボランティアさんから話を聞くことができた。子どもたちと利用者さんたちが隣りあって座り、自己紹介をしながら和気あいあいと話し合いが進められた。戦争中の食べ物や服装・学校での授業・遊びなど、子どもたちの質問にボランティアさん



たちは、昔を思い出しながらしっかりと話してくださった。そして、交流会では、一緒に仲良く料理を楽しむほほえましい姿

が見られた。

◆事例③ 室町文化の体験

6年生は、社会科の歴史学習で室町文化の学習をしたあと「自分たちも体験してみよう」ということで、華道・茶道・水墨画を教えていただいた(3班に分かれ交代で移動)。子どもたちは、緊張しながらも新しい体験に興味津々で、神妙な面持ちで助言を聞いていた。華道や水墨画では、作品のできばえに満足の笑みを浮かべ、茶道では「結構なお手前でした。」という言葉も出るなど、とても楽しい体験となった。花器や剣山・お花・茶器・茶筌・煎茶など持ち込みで教えていただき、また、後片付けには、この日他学年の活動支援に来ていた家庭科ボランティアさんに手伝っていただいて、いつもながら、地域で支えられ育まれていることを実感する取り組みとなった。



◆事例④ 消防団の見学

4年生の社会科の学習で、昨年はクラスのPTAの団員さん1名に話を聞くだけだったが、今年は地域の消防倉庫にでかけ学区の分団長さんはじめ4人の団員さんに話を聞くことができた。消防団の主な仕事や苦労や工夫、本業との



両立、喜びなどの話のほか、ホース作業や放水などの実演、災害時備蓄倉庫内の見学、また、消防車に実際に乗せていただき、正に目で見て手に触れる体験をすることができた。

◆その他

家庭科実習・地域学習・障がい者理解・外国の文化・朝の読み聞かせ・図書の整理・花壇の整備・クラブ活動・運動会等学校行事時の駐車誘導など、幅広い活動に支援をいただいている。

2【事業の成果】

今年度は、昨年度以上に地域にでかけ地域の人たちとのつながりを深めることに努め、新しい人材を確保することができた。支援体制も定着してきた。また、「次回もまた来たい。」「子どもたちのためになるのがうれしい。」など、ボランティアさんの喜びや生き甲斐につながっている。子どもたちも地域を身近に感じ「地域の人たちから大切にされている。」という実感を持てるようになった。

3【今後の課題】

カリキュラムとの兼ね合いもあるが、担任がボランティアの導入にもっと積極的になれるよう事業への理解を深めることが大切である。また、本事業の展開4年目で支援体制が整ってきたとはいっても子育て中の保護者の登録が少なく、ボランティアさんの高齢化が進んできているのが現状である。地域や若い世代への啓発もしていかなければと思う。そして、この事業が廃止されてもボランティアによる自主的運営ができるようなシステムを工夫する必要があると考える。

1【事業の概要、特色】

地域における人と人とのつながりが希薄化し、子育てや青少年の育成に関する地域の教育力の低下が叫ばれている現状。また、年々課題が多様化することによる教職員の負担の増加などに対して何らかの手立てや工夫が必要となってきた中での大変効果的な事業であった。

昨年度に引き続き、今年度も本校に配置されたコーディネーターを核として、体制の組み直しに努力してきた。

学校での学習活動や校外学習などの直接的な支援、生徒指導や生活指導などの側面からの支援も含め、教職員が子どもとゆとりを持って向き合うことができるよう、また、地域の多くの方にも学校を支えながら持つておられる力を発揮していただける場として位置づけ、事業を進めたいと考えたのである。

この取組が、学校の教育力を大きなものとすると同時に、地域の教育力を向上させることにつながるものと考えているのである。

〈工夫した点〉

昨年度の実績を踏まえ、今年度は、さらに多面的に学習活動に関わることでその支援を組み込みながら、児童と触れ合う機会を少しでも多く持つように考えた。

○学習支援

読書・生活科・社会科・総合的な学習の時間

○環境整備

田畑・運動場

○クラブ活動

茶道

○行事

安土っ子フェスティバル・講演会等の託児

〈他校の参考となる点〉

学校とボランティアの方々との連携を深めることよりも、教職員とコーディネーターとの連携強化を図り、学習活動においてどんなボランティアが必要なのか、どのような形で子どもたちと関わっていただくのか、などの学習計画と、コーディネーターの持っている情報について、日常的に交流しやすい環境を作ることが大切であると考えた。

年度当初は、職員がコーディネーターに

【安土小学校支援地域本部】

どんなことを依頼すればよいのか戸惑いがあったが、徐々に連携がスムーズにとれるようになっていった。

まだまだ継続して取組を展開されている先進校のような積み重ねはないが、改めて本学区にはすばらしい力を持たれた人材がたくさんおられ、たくさんの方の支援をいただきながら学習活動を進めることができることに感謝している。

〈事例紹介1＝安土っ子フェスティバル＝〉

本校では、毎年地域のボランティアの方々が中心になって 15 前後のブースを担当しながら、子どもたちにさまざまな体験活動をさせていただいている。今年度は、安土小学校区のみならず、このような場があることを知ってくださった大津市在住の方も参加いただき、開催当日はあいにくの雨にもかかわらず、子どもと大人併せて 600 名規模の賑わいとなった。子どもたちにとっては、普段出来ない体験を数多くさせていただくことができ、とても充実した時間を過ごすことが出来たように感じた。



100 名を越えるボランティアスタッフの皆さんに対するアンケート結果では、ぜひ来年度も参加したいとのありがたい声をいただいている。





〈事例紹介 2 =学習支援=〉

本校の3年生では、地域にある工場を見学させていただくとともに、地域の伝統産業の学習や物作り体験なども社会科や総合的な学習の一環として位置づけている。ここにも、地域のボランティアの方の協力がなくては成り立たなくなっている。



学習内容とボランティアとのいろいろな調整をスムーズにしていくコーディネーターの役割は大変ではあるが重要なポジションであることに違いはない。

2【事業の成果】

学校の中にコーディネーターが配置されて2年目になるが、担任の思いや要望が伝えやすくなった。一方、コーディネーターにとっても、昨年度に引き続きそのポジションについてくださっていることで、いつ頃、どの学年が、どのようなボランティアを求めてくるかをある程度予測した上での動きを取ることが出来たのも成果の一つとして挙げられる。また、支援して下さる多くのボランティアの方々と出会い、触れ合うことができる機会が増えたことは言うまでもない。

子どもたちにとってみても、地域の方々を身近に感じ、コミュニケーションを取ることに對しての抵抗感も小さくなったように感じた。

多様な形で学校を支援していただくということが、子どもに向き合う教師のゆとりにつながることはもちろんだが、子どもも含めて、人と人とがより深くつながり合う事業でもあったと感じる。

さらに、学習意欲の高まりや子どもたちの活動の広がりなどにつながって来たことが大きな成果だと感じている。

3【今後の課題】

- ・今後、さらに多様な形での学校支援をしていただける方々の登録を増やしていくことが求められる。また、ボランティアの方々や地域の方々に、多様な活動を通して発信していくことによる理解と協力の輪の拡大を期待している。
- ・コーディネーターを核として、ボランティア活動が定着していくためには、登録された方々に対して定期的にニーズに応じて活躍する場がなければならない。このことを考えると、その場その場、必要に応じて場を設定するものと、年間を見通して、一定の活動を計画していくとのバランスも考えていく必要があると考える。
- ・子どもたちとのふれあいの場がさらに膨らんできたとき、行事への招待状をボランティアの方々に送って、ともに参加していただいたり、学習発表の機会に聞いていただいたりと、双方向の交流が少しずつではあるが進めることが出来たが、今後もさらに深めていきたいと考えている。
- ・学校に対する支援の活動以外にも、ボランティアの方々の研修会の計画や、交歓会、交流会などの実施も必要になると考えている。

1 【事業の概要、特色】

本校は、この事業以前から水田学習や図書の読み聞かせをはじめ、その他、地域の方とつながりがある。

また、5年前から保護者や地域の方々に来校いただいてオープンスクールを開催している。

地域の方の支援を受け、学校、家庭、地域が一同に会して交流活動を行なっている。

今年度より、老蘇まちづくり協議会としての支援をうけた取組も始まった。

昨年度より募集を始めたボランティアの登録数はまだまだ十分ではない。本年度も募集を行ないボランティアの確保に取り組んでいる。

また、学校支援の取組みの情報発信として、昨年に引き続き『ボランティア通信』を年に数回発行し、地域に配布・回覧することでボランティア活動の様子をわかりやすく紹介している。



〈支援活動の紹介〉

1 年生

- ・大型紙芝居による道徳・環境のお話を聞く
森本佐市郎さん（人生伝承塾）



2 年生

- ・たけのこ掘り
- ・まち探検（地域の方にお話をうかがう）
- ・野菜畑の耕作作業
- ・いちご園訪問（収穫）



3 年生

- ・地域学習（奥石神社・みつくりが池・蓮池のお話）
- ・地域学習(訪問)（養豚・いちご園・蓮根栽培）
- ・企業支援『平和堂環境学習エコピースクラブ』
- ・福祉教育学習（盲導犬のお話 原田勇さん）
（人生伝承塾）
- ・森シゲミさん（でっちゃんかん作り）



4 年生

- ・パッカー車によるゴミの学習(株)日吉南さん
- ・はちみつ採取（養蜂家他ボランティアの方）
- ・いちご園訪問（収穫）
- ・菜の花の刈り取りと脱穀
- ・菜種油を使った調理実習の支援
- ・西の湖学習 奥田修三さん（人生伝承塾）



5 年生

- ・水田学習(田植え～稲刈りまで)サン・燦ファーム
- ・水生生物観察会（ボテジャコトラスト・仔魚の養流）
- ・家庭科ミシン実習支援
- ・消防署救急救命士による東日本大震災のお話
- ・地域の会社見学 山梶製作所(株)



6年生

- ・家庭科ミシン実習支援
- ・滋賀次世代文化芸術センター連携授業
(茶道体験・茶碗製作・お茶会体験)
- ・地域歴史聞き取り学習
- ・戦争体験のお話 (村地さん)



(その他)

- ・読書ボランティア (くすくすさん)
- ・全校交通安全教室支援
- ・託児支援
- ・全校縦割り遠足随行支援
- ・草刈りボランティア
- ・全校マラソン大会見守り支援



- ・オープンスクールデー支援
(おにぎり作り・餅つき・しめ縄づくり支援)



〈工夫した点〉

- ・記録は随時作成し、その時の様子を写真とともに次年度に役立つように学年別に残しておく。
- ・定期的に支援いただいた活動や事業の取組について情報紙を発行してお知らせする。

〈他校の参考になる点〉

- ・コーディネーターが学校支援事業予定にもとづき、地域の方との連携を図るために自由に動きまわることができる。
- ・学校支援地域コーディネーターに専用のパソコンを与えられているので、事業の記録を速やかに作成することができる。

2 【事業の成果】

本校では2年目に入り、昨年に比べて地域への支援依頼も増加している。たとえば家庭科におけるミシンの実習支援などは効果も大きく、学習の支援に貢献している。

特に各学年の地域学習において、地域の方に詳しくお話をしていただき、自分たちの住む地域についてより深く知ることができた。

また、子どもたちにとっても、地域の方とのふれあいの機会が増え、つながりで支えられていることが実感できた。

ボランティアの方も培ってこられた技術や経験を子どもたちに伝えることにより、生きがいや充実感を感じられている。

3 【今後の課題】

2年目を迎え本事業支援活動が継続していくために、ボランティアの人数を拡大していかなければならない。その点からも今後ボランティア登録の方の数を増やすようにどう啓発していくか。

また、子どもの学習や教職員の要望に応えられるようなボランティアをどのように発掘していくか。などに対して、地域のまちづくり協議会が発足始動するにあたり、既存のボランティア団体とも連携をとりながら支援強化をはかるよう努めていきたい。そして、将来的には組織として動くことができる核づくりをしていきたいと考える。

「八幡西中学校 学校支援の取組」

【近江八幡市】

【八幡西中学校支援地域本部】

1【事業の概要、特色】

- (1) 平成24年度八幡西中学校教育協議会の設置(4月)および、役員の一部改選と協議会の開催(4・8・12・1月)
 - ◆ 支援活動実施計画の策定と実施要綱の広報活動および、ボランティアの募集活動を行う。
- (2) 学習支援活動の実施(5～3月)
 - ◆ 読書活動の一環として図書館の利用を活発化させるため、図書の整理と拡充および、図書の管理(製本・修理・登録・廃棄など)を行う。
- (3) 部活動支援活動の実施(4～3月)
 - ◆ 前年度から指導にあたっていたいている部については、引き続き指導をお願いし、今年度から新たに指導を願う部については、広報活動を行い、地域人材を活用して指導していただく。
- (4) 環境整備活動への協力支援
 - ◆ 県下一斉で行われる環境活動(年間3回)に取り組む。また、PTA本部やPTA環境整備部と協力し、校舎の美化活動や花植えなどを行う。
- (5) 地域コミュニティセンターとの共同事業への参画
 - ◆ 桐原学区コミュニティセンターの事業である「地域花いっぱい運動」の拠点となり、季節の花の育成と栽培および、地域施設への頒布を行う。



(6) 事業成果報告会の実施

- ◆ 本年度の学校支援事業の実施状況や活動成果および、次年度に向けた取組について報告する。

〈工夫した点〉

- ・ 事業内容が地域にも分かるよう、ビラを作成し、コミュニティセンターとの連携により校区内の全戸回覧を実施し

た。

- ・ 子どもたちにもどういう人が関わっているのかが分かるよう、玄関や図書室に新聞や広報を張り出した。
- ・ 部活動指導については、コーディネーターや部活顧問との連絡調整を緊密に持ち、学校教育方針に沿った指導をお願いした。

〈他校の参考となる点〉

- ・ 図書館支援員さんには、単に図書の整理や管理だけではなく、新刊紹介や読書の魅力について、紹介していただいた。それにより、支援員さんのモチベーションもあがっていったようである。
- ・ 今年度の取組を支援員さんを通して地域へ周知した。特に、コミュニティセンターとの連携を深め、事業報告を(別紙)を掲示していただいたり連携した取組を進めたりすることができた。
- ・ 成果については目に見える形で残すことにした。特に事業報告は大きく張り出し地域へも周知するように努めた。

2【事業の成果】

(1) 部活動支援活動の実施

部活動については、毎年、大きな支援をいただいている。24年度支援いただいた部活動は、軟式野球部・ソフトボール



部・男女軟式テニス部で、ほぼ、1年を通してお世話になっている。

これらの部活動の支援員さんは練習試合、公式試合にも時間が許せばベンチに入り、指導をしていただいている。また、技術指導だけでなく、マナーや試合に臨む心構えなど、学校教育方針に沿って指導していただいている。

生徒数の減少に伴う教員数の減少により、部活動の指導や維持が難しくなっている中で、支援員さんによる部活動支援は、生徒の部活動を保障するとともに、学校の活性化にもつながっている。

今後も、これらの部活動については、指

導・支援を継続してお願いする予定である。

(2)の各種学校行事の支援



今年度も、記録用として、入学式をはじめとした各種行事のビデオ撮影や写真撮影を支援員さんをお願いしている。

昨年の学校創立創立30周年記念事業の一環としてホームページをリニューアルし、更新作業も、支援員さんにより定期的をお願いしている。特に、行事等があった場合は時間をおかずその日のうちに情報を提供していただいている。

(3)環境整備支援

支援員さんとPTAによる環境整備事業と位置づけ年間を通して計画的に取り組んでいただいた。

大きくは、夏休みの一斉除草作業と、記念式典2週間前に行ったビオラとパンジーのプランターへの花植え活動をPTA本部



・環境整備部と支援員さんとの合同で取り組み、除草や水やりといった日常の世話を支援員さんにいただいた。

支援員は時には、友人や地域の方をも誘われ、夏の暑い日にも熱心に水やりや草取りの世話をしていただいた。そのおかげでいっさい枯れることもなく花を育てていただいた。

中庭の花壇には、ミニひまわり、アリッサム、マリーゴールドが植えられ、黄や白、ピンク、オレンジと色とりどりの花を植えていただきプランターのビオラやパンジーとともに、校舎を美しく彩ってくれている。

正面玄関の植え込みも、1年を通して計画的に実施し、5月から途切れることなく、美しい花の数々が本校を訪れる方々の目を楽しませてくれた。

3月の卒業式、4月の入学式の頃には、さらにチューリップが花を咲かせ、ストック、桜草とともに、ピンクのグラデーションで華やかに彩る予定である。

また、中庭の校長室に面した花壇にも同じようにチューリップ、ストック、桜草が植えられ、卒業式や入学式を含め、校長室を訪れる来校者の目にも届くようにと、いつも細やかな心配りをいただいている。



3【今後の課題】

- ・学校支援地域本部事業を立ち上げ4年目になるが、地域の方が、中学生や中学校を支援していただくことの難しさを痛感する。年3回、支援員募集の案内を行っているが、中学校の敷居は高いようで、思ったように人を集められない現実がある。

これは、「学校の考えるニーズと地域の支援者の一致」が事業発足当時からうまく進展しないという点にあると思われる。

そこで、昨年度と今年度見られた課題を再度検討し、次年度につながる取組を行いたい。

- ・別室登校の生徒や怠学傾向の生徒の数が増加しているが、学習の補助をお願いするこの分野の人材の発掘ができていない。教職経験者や本校卒業の大学生や保護者の協力、さらには、候補者の新規掘り起こしなどを行いたいと考えている。
- ・1月10日現在、支援者登録数は、合計50名であるが、年度が終わろうとする現在まで、支援者を十分に活用できなかった。今後は年間計画の中にしっかりと位置づけ、教科や総合、学活での活用を促進したい。
- ・コーディネーターを中心に、登録の支援者情報や状況を全教職員に周知徹底し、その都度、活用計画を立て実施する。
- ・支援員間の交流を活発にし、支援員からの情報提供を活用し、学校が活かせる人材を増やしていく。

地域の力を学校に!! 学校支援ボランティア 【近江八幡市】

【安土中学校支援地域本部】

1 【事業の概要、特色】

本校は学校教育目標として「自律・鍛錬」を掲げ、その実現のための1つとして「家庭・地域と共生し信頼と連携が図れる学校」づくりを進めている。

以前から本校では、「安土の子は安土で」をスローガンに、さまざまな教育活動の中で地域の方々の協力をお願いしてきた。

この事業2年目となる今年度は、昨年度展開していた事業の継続とそれぞれの事業の充実を図ることに重点を置くこととした。現在、60名のボランティア登録があるが、それ以外にも学校や教員の要望に応じて地域の人材の中からボランティアを要請している。今年度は以下の活動を行うことができた。

①環境整備活動・・・ボランティア32名

本校には中庭に和風庭園があり、その一角に茶室「天正庵」が建てられている。ツツジや松、モミジ、桜などの豊かな植栽が見られるが、その手入れが大きな課題となっている。また、同時に校舎周辺や敷地内に植えられている1000株以上の紫陽花の手入れにも悩んでいた。

今年度より、PTA会員にも協力を呼びかけ、参加を得ることができた。また、5人の方にはボランティア登録をしていただくことができた。

○5月29日（火）

中庭の植栽の剪定と除草活動

ボランティア15名・PTA13名
計28名が参加。昨年との倍の参加があり、広範囲に除草活動ができた。



ボランティアとPTAによる紫陽花の剪定

○7月10日（火）

紫陽花の剪定

ボランティア10名・PTA5名参加

○3月上旬（予定）

中庭の植栽の剪定と除草

②読書活動・・・ボランティア16名

本校1、2年生は朝の「こつこつタイム」で朝読書に取り組んでいる。そんな中、月に一度の読み聞かせを読書ボランティアに依頼している。今年度より、全クラスに入ってもらっている。10月には近江八幡市立図書館長を講師に迎えて、勉強会を開いた。

○読み聞かせ活動

毎月第1火曜日に実施

毎回、読書ボランティア11名が参加
昨年度は8クラスのみだったが、今年度は全クラス（12クラス）に入ってもらっている。

○7月26日（火）

図書室の書籍整理

ボランティア4名が参加

○10月2日（火）

近江八幡市立図書館長を講師に迎え、勉強会を開催

安土小・中学校の読書ボランティアの方20名が参加

○2月5日（火）（予定）

読書ボランティアの方との懇談会

生徒の様子や読書活動についての交流

③茶道活動・・・ボランティア12名

本校では地域学習を兼ねた特色ある教育活動の1つとして、茶道体験学習を行ってきた。

毎年1年生は全員が和室と天正庵を活用し茶道体験学習を行い、お茶の作法を地域のボランティアより学び、2人1組で実際にお茶を点てていただくという体験まで行っている。さらに、今年度は茶道体験クラブを立ち上げ、部活動のない水曜日に年5回裏千家・三井古流煎茶の方に交代で指導していただいている。

また、昨年に引き続き本校の文化祭である「天正祭」において、保護者向けの茶会を開催した。当日は、事前予約の方を含め64名もの参加を得、大変好評であった。

○5月9日（水）

茶道体験クラブ（第1回）生徒14名
裏千家のボランティアの方・・・2名

○ 5 月 1 1 日（金）

ミリアン市中学生一行 1 4 名 茶道体験
裏千家のボランティアの方… 5 名

○ 6 月 2 0 日（水）

茶道体験クラブ（第 2 回）生徒 1 5 名
三井古流煎茶ボランティアの方… 3 名



天正祭保護者向けの茶会（煎茶）

○ 9 月 2 9 日（土）

本校文化祭「天正祭」での保護者向
けの茶会… P T A との連携
保護者や地域の方 6 4 名が参加
裏千家のボランティアの方… 4 名
三井古流煎茶ボランティアの方… 3 名

○ 1 0 月 1 0 日（水）

茶道体験クラブ（第 3 回）生徒 1 0 名
裏千家のボランティアの方… 3 名

○ 1 1 月 1 2 日（月）

1 年生（1 1 8 名）茶道体験教室
裏千家のボランティアの方… 7 名

○ 1 1 月 2 1 日（水）

茶道体験クラブ（第 4 回）生徒 1 2 名
三井古流煎茶ボランティアの方… 3 名

○ 2 月上旬（予定）

茶道体験クラブ（第 5 回）

④ その他

昨年度から家庭科の授業で地域学習に取り組んでおり、地域の人材を活用し、西の湖の環境保全活動を行う傍ら、西の湖のヨシを食材として活用する取組を進めておられる方や地産地消を推進されている方を招いて授業を行った。3 年生の進路学習会では安土在住の方を講師に迎えた。

○ 6 月 2 8 日（木）

地域の人材を学校に招き、西の湖の環境とヨシについての講演

○ 1 1 月 5 日（月） 6 日（火）

地域の食材と米粉を使った調理実習
地域ボランティア 2 名が参加

○ 1 1 月 1 7 日（土）

3 年生親子進路学習会

植物研究者の方を講師に迎えての講演

<工夫した点>

- ①環境整備活動の参加の呼びかけを P T A 会員にも行ったこと
- ②読み聞かせボランティアの方は思春期の中学生に何を讀んだらいいかなど不安に思っておられたので、勉強会を開いた。
- ③昨年の 1 年生茶道体験教室の生徒のアンケートで、お茶をやってみたいという声が多くあった。その声に答えて、茶道体験クラブを立ち上げた。

<他校の参考となる点>

- ①環境整備活動などを P T A に呼びかけることで、この事業を P T A にも周知してもらうことができ、新たなボランティア登録の確保につながったこと。
- ②読み聞かせの勉強会を中学校区の小学校ボランティアに声を掛けたことにより、ボランティアの方の交流になったこと。

2【事業の成果】

「安土の子は安土で」というこれまでの積み上げの上にさらに地域の方々に学校支援として関わっていただき、少しずつ中学生や中学校への関心も高まってきていると考えている。また子どもたちにとっても、ボランティアの方々の姿を学校内で見る機会が増え、地域の方々の思いを感じることが大きな教育となっているはずである。さらに、環境整備活動については、職員では十分にできない分野にボランティアの力が入ることで日々の教育環境が整備されると同時に学校の負担が軽減されており、この効果は大きい。また、P T A に呼びかけることで、保護者の方にもボランティアの活動を知っていただけたことを今後の活動の広がりにつなげていきたい。

3【今後の課題】

今後も学校と地域を結び、学校にさまざまな地域の人材や力を取り入れていく。そのためにはさらに多くのボランティアの発掘が必要である。また、支援活動の多くはコーディネータの調整によるところが大きい。将来は日常的に地域の方々が学校に入り環境整備を中心とした活動を展開するということが大切であると考えている。次年度以降も規模を大きくすることを目指すのではなく、現在の活動をよりスムーズにきめ細やかに実施する事が方向性の 1 つであると思う。

地域の豊かな人材を保育活動のなかに・・・【近江八幡市】

【金田幼稚園支援地域本部】

1【事業の概要、特色等】

今年度より学校地域支援本部事業に取り組むことになった。金田学区では初めての事業であり、地域の方にこの事業を知ってもらうことから始まった。まずは保護者、そして、今までから交流のあった方を中心に今年度は事業を進めていった。

地域コーディネーターが保護者やコミセン等で人材発掘をして、幼稚園が必要とするボランティアを集めてもらって、保育活動に参加してもらうことができた。

従来の幼稚園と家庭だけでは経験できないことや、人とのかかわりがたくさんもてるように計画した。



(木工遊び)

〈工夫した点〉

初年度ということもあり、地域の方に事業を知ってもらうことを第一に考えた。

地域への情報紙の中にコーナーを設けたり、保護者同士の口コミでボランティアの参加者を増やしたりしてきた。

職員がどんな支援を必要としているのかも、指導計画をたてる時に一緒に考えてもらって、長期的な見通しのなかで、ボランティアの参加を募るようにした。

単発で終わらないような、継続できる活動を取り入れるようにした。また、幼児の見えないところで協力してくださっている方も、一年の中のどこかでお礼が言えるような場をもつことにした。

(今年度はおでんパーティに招待した)



(大根の種まき)



(おでんパーティに招待して)

〈他校の参考となる点〉

地域をよく知っておられる方にコーディネーターを依頼したので、職員が「こういう所に行きたい」「こういう地域の行事をしたい」などの要求に的確に対応していただいて、スムーズな活動ができた。

2【事業の成果】

- ・初年度であり、1学期はほとんど活動できなかったが、幼児の生活のなかに定着したものもできた。
(毎週火曜日の絵本の読みきかせ)
- ・地域の多様な人とのかかわりができた。ゆっくり・じっくりかかわってもらって、幼児の要求にも丁寧に対応してもらい、「やった」「できた」という自信ができた。
- ・参加いただいたボランティアの方も「子ども達のパワーをもらいました」「今日はこんな子ども達の要求があったので、今度は〇〇を用意してきました」と交流を喜んでいただけた。
(木工ボランティア)
- ・地域の特別な行事を知ることができ、幼児なりに地域の良さ(伝統行事)を知ることができた。(篠田の花火)
- ・事業のことが、少しずつ保護者や地域の人に広がってきて、ボランティアへの参加者も増えてきている。

3【今後の課題】

今年度、参加くださったボランティアの方や登録してくださった方の人材バンクの整理が必要である。

今年度の成果を地域の人に発信し、更なる多様な人の参加を望みたい。

1【事業の概要、特色等】

みんなの運動会を気持ちよく！！
＝環境面をサポートしよう＝

- ・日時：平成 24 年 9 月 18 日～21 日
午前 8 時 30 分～9 時 00 分
- ・場所：幼稚園園庭
- ・対象：保護者・地域ボランティア
- ・内容：運動会が近づいてきたこの時期に保護者や地域の人みんなで園庭をきれいにし、子どもたちに気持ちよく運動会をしてもらおうというもの。
朝、子どもたちを送ってきた後、1 時間の除草作業を行う。
園児も順次、自由に除草作業に参加していく。
地域ボランティアにも参加の声かけをする。

〈工夫した点〉

- ・子どもを園へ送ってきたその続きに除草作業をしてもらえるよう、時間を工夫した。
- ・夏季ということもあり、時間を短くして、集中的に 4 日間を設定した。
- ・鎌を園でも用意した。
- ・パラソルやタープテントを用意し、日陰をつくった。
- ・子どもたちにも声をかけ、一緒に除草作業に参加する。
- ・園庭へ出てきて遊ぶ子どもたちの姿を見ながら、除草の作業ができる。
- ・「運動会」という目標を明示した。

〈他校の参考となる点〉

- ・園児を送ってきて、そのまま作業に入るという時間帯が良かったようだ。保護者も無理なく参加ができた。また、1 週間という期間を設定したことで、自分の都合に合わせて参加ができたようだ。このことは、地域のボランティアにおいても同じことがいえるようだった。



2【事業の成果】

- ・4 日間連続して行ったが、「みんながするのなら、私もするわ」「明日はそのつもりで送ってくるわ」という具合に、日に日に参加人数が増えていった。
- ・送ってきたそのついでにできるという気軽さが参加しやすかったようである。また、毎日短い時間だったので負担は軽かったようだ。
- ・運動会に向けてがんばっている子どもたちに、せめて環境面で協力したいという思いが大人にもあったようだ。
- ・自分達で「今日はこのエリアを…」とめあてを決めて取り組んだことにより、作業能率もあがった。
- ・地域ボランティアも積極的に参加し、保護者や園児とも交流しながら、楽しんで作業ができた。園児も除草の様子を見て自然とやりはじめ、ボランティアが教えるというかわりも見られた。
- ・登録ボランティア以外の方も聞きつけて参加し、ちょボラ支援（ちょっとボランティア）となった。



3【今後の課題】

- ・参加保護者の口コミや園からの誘いかけによって、日を追うごとに参加人数が増えていったことは大きな成果であるが、ある程度のメンバーからもうひとまわり輪を広げていきたいと考えるが、なかなか広がっていきにくい。
- ・定期的なボランティア行事として根付かせていくようにしたい。
- ・保護者と地域ボランティアさんの交流を今後も深めていくための方策を考える。
- ・今後はさらに地域を巻き込んだ事業をいかに展開させていくかを考えていく必要がある。

【栗東中学校支援地域本部】

1 【事業の概要、特色等】

今年度5年目をむかえた本校の学校支援地域本部事業は、平成19年度末に問題行動が顕著化していた学校の状態を改善させようと校区の民生委員・補導員・自治会長・PTAが学校支援団体「栗中改革サポーター」を発足させたことがスタートである。

「地域の大人」が学校の様々な教育活動の場面で生徒を見守る機会を設け、生徒たちの学校生活環境を支援する基盤が整った。

後にこの活動は現在の学校支援地域本部事業「栗中サポーター」に引き継がれることとなった。当初は、授業時間の校内巡回や清掃活動、通学立番など、生徒たちを「見守る」取組を中心にすすめてきた。4年間にわたる継続した「見守り活動」を中心とした取組を、今年度は「生徒との協働活動」を取り入れた取組へと支援活動を広げ、地域と学校が共通の活動を通して、共によりよい学校教育環境づくりをめざそうとしている。

現在、地域住民サポーター32名、保護者サポーター9名、合計41名の方々が栗中サポーターに登録をいただき、次の7つの活動に取り組んでいただいている。

① 学習環境支援

校内美化を兼ね授業中の校内を巡回。生徒の学習の様子や校舎内外の破損状況等を確認。



② 図書室支援

書籍整理、室内清掃など図書室環境の向上を担う。また、蔵書データ登録作業支援も実施。



③ 清掃指導支援

日常の清掃時間に生徒の清掃活動を指導、支援する。



④ 環境整備支援

花の植え替えや除草作業などの環境整備作業を行う。主にPTA環境整備作業との合同実施が多い。



⑤ 通学マナーアップ

登下校時の危険箇所での交通立番。通学路の危険箇所や生徒の通学状況の報告が学校での通学指導に生かされている。



⑥ 学校行事・生徒会活動支援

三者懇談会期間
駐輪場パトロール



1年生交通安全教室



1年生校外学習
交通立番



学校をきれいに
する取組



生徒会との校内美化活動
「みんなの生活向上隊」



⑦ 栗中コミュニティガーデン

今年度からの新しい取組として、校内に生徒と地域住民が協働で運営する菜園を設け、様々な学校教育活動で活用できる野菜や花を栽培する。



2【事業の成果等】

～栗中コミュニティガーデンを通して～

これまで本校で実施してきた学校支援地域本部事業の活動内容は、通学マナーアップ支援での登下校立番、学習環境支援での校内巡回など主として栗中サポーターが生徒の学校生活を様々な角度から「見守る」ことが中心であった。しかし、学校支援地域本部事業をスタートさせた当時の学校教育環境は、数年にわたる継続した栗中サポーター活動により落ち着いた環境へと改善され、生徒、教師の表情にも良い変化が見られるようになってきた。常に栗中サポーターは学校生活を「見守り」、また学校が支援を要請するケースがあると、快く支援を提供してくれていた。この「頼もしい助っ人」は学校全体に大きな安心を生み出し、生徒たちの学校生活を支える一助となっていた。このように栗中サポーターと学校との一定のよい関係が築かれてきた昨年度末、栗中サポーターからこれまでの「見守り活動」からより一步学校教育活動に踏み込んだ「協働活動」へと発展させたいとの声があがり、まずその最初の取組として、校内に菜園を設置し、生徒との協働活動による野菜、花の栽培を実施することとなった。

造園は本校の学校支援地域本部事業後援事業所に依頼し、肥料は地域の環境センターから堆肥を提供していただいた。また、さつまいもの苗は、栗中サポーターを通じて地域の農家から寄付していただくなど、まさに「地域の力が結集した菜園」となったのである。

生徒スタッフは、委員会や部活動などの既存の集団ではなく、有志生徒を募った。2年生女子8名が生徒スタッフとして手を挙げ、栗中コミュニティガーデンが開園したのである。

栗中サポーターによる菜園運営会議により、今年度は、さつまいも、大根などの野菜を栽培し2年生の職場体験学習の一環である「起業体験学習」の店舗で、地域と学校が育てた「栗中産野菜」を販売することが決まった。

栗中サポーターが、長年の経験から培った知恵や技術を生徒に教え伝えながら苗植えから収穫までを行った。11月初旬、無事3日間の開店日に合わせて野菜を収穫することができ、栗中サポーターと生徒が育てた野菜は、生徒運営の起業体験学習店舗「Hot House」に並び、地域の方々に販売することができた。収入の一部は社会福祉協議会に寄付し、一部は学校支援地域本部

事業の活動費とし、次年度の菜園用の品々の購入費に充てることとした。

今後、年間を通じて食育や教科学習等に活用できる野菜や花等を栽培し、学校教育活動と栗中コミュニティガーデンとの関わりをさらに広げていきたい。



本校の学校支援地域本部事業は、この5年間、年を重ねるごとに学校環境の改善や生徒の表情の変化などに成果を感じ取ることができていた。さらに今回初めて実施した「栗中コミュニティガーデン 栗中産野菜販売」を通じて、校内だけの取組であった栗中サポーター活動が地域へと広がり、さらにこの新しい取組は新聞やテレビなどのメディアでも取り上げられ、栗中サポーター活動がより多くの方に認知されることとなった。これまで「栗中サポーター通信」を通じて地域へ活動を定期的に発信してきたが、実際に栗中サポーターが地域で生徒とともに活動する姿を地域住民が直接見る機会を設けることは、「栗中サポーター活動」がいかに学校教育活動に密着し、支援を着実に広げているかを伝える効果があると感じた。このことは栗中サポーター自身の活動への成就感、モチベーションへとつながっているようにも思われる。

3【今後の課題】

何よりこれまでの取組を継続していくには、事業費の確保が必要である。学校独自の対策を考え資金をやりくりしていくにも限界があり、ぜひともわずかでも国、県、市等からの一定の資金保障を継続していただきたい。また、長年携わっていただいている栗中サポーターはおられるものの、新規加入が伸び悩んでいる現状があり、地域、保護者への広報活動を活発にし、より地域に根差した取組へと発展させたい。

【岩根小学校支援地域本部】

1 【事業の趣旨】

本校児童育成の大きなめあてとして「子どもをお客さんにしない」というスローガンを掲げているが、その取組の一つが「ホタルまつり」である。これは、ホタルが一匹でも多く光を放って飛んでくれることを願うとともに、ホタルを育ててくださっている地域の方に感謝するお祭りとして定着しつつある。これも最初から今のシステムが出来上がったのではなく、徐々に地域と学校が一緒になって創り上げてきた経緯がある。

今から6年前、地域の有志の方々が「岩根にホタルをとばそう会」を結成。卵から育てた幼虫の放流に本校児童が関わったことから、以後環境学習の一環として、河川愛護のための清掃や啓発活動につなげ、ひいては本市ロータリークラブさんの牽引と全面的な経費支援による「ホタルまつり」へと発展していった。

4年目からは、学校の企画、運営で、支援母体を地域に移しての活動を継続してきた。そして、今年度からは、企画や運営全般を本校コミュニティ・スクールの委員会が負う形への移行を試み、来年度には真に地域と学校が協働する形の「子どもをお客さんにしない行事」になればと考えている。

2 【事業の概要、特色】

まつり当日は、6年生の児童が9つのブースに分かれ、保護者の手助けを得ながらチケットで買いに来る地域のお客さんにお店を開く催しである。これまでは、地域の農村集落センターで開催していたため、会場への移動が必要であったが、今年度からは、会場を学校に移したため、子どもたちにも時間的な余裕が生まれた。

当日、子どもたちは下校せずに、そのまま学校に残り、地域の方が準備して下さったテント内のブースに分かれ、これも保護者が大まかな準備をして下さった材料をもとに、それぞれに開店の準備を行った。

夕刻、小学校の児童を中心に、卒業生や保



護者の方が来校する中での開会式は、もちろん、子どもたちの進行で行い、いよいよチケットの販売へ。食べ物をつくる子、お客さんに渡す子、お店の呼び込みをする子と、それぞれが交替をして約1時間と少しの活動を完了した。また、後片付けがポイントで、それこそほんの小さなゴミも見落とさないよう、協力をして、きれいな後始末ができた。

その後は、グループ別に学校裏の川に飛ぶホタルを観賞して昨年以上に美しい光を見ることができた。



3 【事業の成果】

- 会場を学校に移したことと、より地域の方が支援して下さったことで、地域をあげて子どもを支える催しに近づいてきた。
- コミュニティ・スクールの委員会が関わりをもち始めたことで、来年度からCSが企画、運営をしていく足がかりをつくることができた。
- 学校裏のホタルをみんなが観賞したことで、これからもホタルが飛ぶ川としての環境を整えていこうとする気持ちをもつことができた。

4 【今後の課題】

- 大行事だけに、地域の方や保護者には、どうしても支援を仰がなければならないが、子どもたちにどこまでやりきらせるかを明確にしたい。
- 限りあるチケットが児童に行き渡るよう来年度からは、何とかチケットの前売りを導入したい。その方法が煩雑にならないような手立てを講じなければならない。
- コミュニティ・スクール委員が主体となり、学校や地域とうまく連携していける方法と目的を共有していくことを確実に進めていかなければならない。



『第4回 あすなろウィンターカーニバル』

あすなろボランティアの活躍【湖南省】

【菩提寺北小学校支援地域本部】

1【事業の概要、特色等】

今回で第4回を迎える「あすなろウィンターカーニバル」を24年1月19日（土）に開催しました。この事業は菩提寺北小学校が学校支援地域本部事業を始めた21年1月から、学校と地域を結びボランティア同士も顔見知りになり、結びつきを強くできるように。また子ども達の「ふるさとづくり」の一環として始まりました。年々、盛況になり第4回の今回は参加者（子ども、保護者、地域の人、教職員）約250人、ボランティア約100人総勢約350人の賑わうカーニバルとなりました。



《中庭でのもちつき》 前日の雪も溶けて威勢のいい餅をつく音が響きます

つきたてのもちをお母さんたちが手際よく、醤油、きな粉餅に丸めていきました。



昔遊び、こま、羽子板、お手玉、折り紙を地域の方に教えてもらいます



菩提寺北小学校のキャラクター
あすなろちゃん

〈工夫した点〉



《子どもボランティアも活躍》

受付、あすなろカフェ、バザー、配膳などを積極的に行う。



《ウッドクラフトに夢中になる子ども達》

〈他校の参考となる点〉

ウィンターカーニバルに向けて、バザーの品や、手作り品を用意して、カーニバルの会場であすなろカフェを開催しました。この日の売上金が、来年度のウィンターカーニバルや、あすなろ応援団活動の資金ともなります。子ども達にも買えるように、求めやすい価格にし、実際のお金を使う練習にもなりました。

子どもたちを積極的に動かし、お客様にしないように、活躍の場を作りました。

《バザー&手作り品》



2【事業の成果】

お膳立てしたもので遊ばすのではなく、すべて手作りで、想像力を働かせ色々なものに挑戦しました。その中で、いろいろな年代の地域のボランティアの方々との交流を図ります。

ボランティアも出来る事を担当し、誰もが主役に、誰もが楽しめる、そして学校を核として地域がひとつになる事業になったと思います。

3【今後の課題】

学校支援地域本部事業の予算が年々削られる状況の中、どうやってこの「あすなろ応援団活動」を継続していくか、毎年その課題とむきあっています。

そんな中、少しずつ、アイデアを出しながら、資金作りに挑んでいます。菩提寺北小学校は住宅地の中にあり、大きな会社や商店もないので、寄付を募ることも難しく、本当に個人個人の小さな努力、協力で成り立っています。コツコツとやっています。そんな意味でも、地域の絆作りは重要なものだと感じています。



あすなろちゃんのしおり

1 【事業の概要、特色等】

本校は「菩っこを育てる会」実行委員が柱となり、6つ（学習・見守り安全・読書活動・クラブ活動・環境整備・寄り添い）の支援活動を行ってきた。そのなかで、「寄り添い支援」は、『家庭教育支援事業』へと確立していった。

また、新たに「菩っこを育てる会」を中心にした、本校の裏山再生プロジェクトを長期計画で取り組んでいる。

〈工夫した点〉

○実行委員会の回数を増やし、学校で必要としている事を今まで以上に把握出来るようになった。

○事業を行うにあたり、ボランティアの拠点となる部屋の確保が必要だった。そこで、使用されずにあった旧用務員宿舎に風を通すことから始め、地域・保護者・実行委員の力でリフォームし念願のボランティアの拠点『菩っこはうす』が完成した。

昨年末には、『菩っこはうす』で初の実行委員会を行うことができた。今後それぞれの活動に大いに活用していきたいと思っている。



〈他校の参考となる点〉

地域のお年寄りパワーに支えられている。ネットワークの広さは、心強い限りである。



＊春の全校遠足＊

一緒に歩いてもらいました。

2 【事業の成果】

昨年度に引き続き、それぞれの支援は継続して活動してもらっている。地域の人が多い中、「読書活動支援」では、PTA保護者が図書室改革に取り組み始めて、少しずつだが成果が見えてきた。

支援活動の様子をホームページや全戸配布の広報誌で発信し、多くの人に知ってもらうことができた。

支援活動以外に本年度は、「裏山再生プロジェクト」、「旧用務員宿舎リニューアル（菩っこはうす）」を計画実行した。

「裏山再生プロジェクト」・・・本校の裏山は、子どもたちの絶好の学び・遊びの場であるが、長年の雨水浸食で危険な箇所があり、児童・保護者・地域の協力を得て再生するよう実行中である。来年度5月には“ヒメヤシヤブシ”苗を植え、先人の砂防の工夫を知るとともに緑化を願う活動を計画している。

「菩っこはうす」・・・活動後、ボランティアさんがゆっくりできるようになった。



3 【今後の課題】

◇今年度は、保護者への発信「ほっ♪とサロン」の活動が定期的に行うことができなかったため、来年度は『家庭教育支援事業』ほっとルームのみなさんと一緒に定期的に行うことができると思っている。

◇学校・家庭・地域のそれぞれの立場でお互いの意見や思いを語り、話し合える場作りを積極的に設けたい。

◇「菩っこはうす」のより充実した活用方法を検討したい。

「心のふるさとづくり」水戸小学校

【 湖 南 市 】

【水戸小学校支援地域本部】

1【事業の趣旨】

平成 22 年より、地域ぐるみで学校運営を支援する体制（水戸っこ応援団）を立ち上げて教員が子どもと向き合う時間の拡充に務めている。また、子どもたちが「社会や地域の自分」を意識し「心のふるさと」として学校や地域を愛し、地域に貢献できるよう、学校を中心に家庭・地域と連携し育んでいきたい。

2【事業の概要、特色】

（１）ボランティアルーム

水戸っこ応援団を立ち上げ 2 年が経ち、保護者や地域の方に毎月お便りでボランティアの登録を呼びかけ、活動の様子を写真や手書きのイラストを使って分かりやすく伝える工夫を続けている。月に一回、学期に一回、年に一回でも参加してくれる方を増やしていきたい。ボランティアが学校に自分の場所があると足を運びやすいという事やボランティア同士が交流できる居場所が必要と感じ、今年度は先生方と相談して一階にボランティアルームをつくり、会議や製作場所・活動後の休憩場所として活用している。窓の外には中庭の芝生ランドがあり、休み時間に子どもたちが元気に遊ぶ姿が見られる。



■ 水戸まつり後、お茶タイムでほっと一息



■ 過去のお便り、事業の仕組み、活動を紹介



（２）ワールドカフェ in 水戸

夏休みには、ボランティアと全職員との交流会を企画・開催する事ができた。コーディネーターが研修で参加した会議の進め方であるワールドカフェの手法を使ってゲームなどを用い自己紹介から始め、先生方にボランティアが聞いてみたい事や子どもたちについて感じている事などを話し合った。

本校で全職員との交流会は初めての試みであり、忙しくて時間がとれない先生方にとってもボランティアから見た子どもたちの姿はいつもと違ったものがあり有意義な会となった。

ワールドカフェでは対話が非常に重要であり、進行役であるコーディネーターにとってもなぜこの会を行うか、どのような目的があるのかを明確にする必要があった。会議と違い、いかに「心地よい」空間を演出するかも工夫した。



■ 47名の参加があり、賑やかなカフェ♪

また、東日本大震災の被害を受けて避難場所となった小学校の様子や日頃から学校支援地域本部事業に積極的に取り組んでいた地域では、学校と地域住民とのつながりが強く、結果として避難所の自治組織がスムーズに進んだというデータを紹介し、地域の中の学校の在り方を考える機会とした。

（３）図書ボランティアの活動

図書ボランティア「たんぽぽの会」は朝の読書、お昼休みのおはなし会の他、図書室の整備、本の修繕などの活動を通して子どもたちに本の楽しさを伝えてくれている。朝の自由読書で本を選びにくい子どもがいる事に気づいたボランティアが、チャート式のクイズを手作りし楽しみながら本選びができるように掲示してくれた。

■チャートクイズ
でタイプ別にお勧め
の本を紹介。
タイプはA～O
まで15タイプ。
大人も楽しめる♪



3【事業の成果】

交流会を通じて先生・ボランティア・コーディネーターとが学校や子どもたちの状況や課題を共有できた。今後みんなが同じ目標を持って取り組むことにより、この事業がさらに豊かな内容になると期待できる。

図書ボランティアと図書協力員が連携し、授業時間にブックトークを行うなど、ボランティア自らがアイデアを発信できる場があった。また、本校で湖南省市学校図書館ボランティア・協力員の交流研修会が開催された際には、他校の図書ボランティアから「チャートを作らせてほしい」「水戸の図書室が明るい雰囲気素敵だったので見学に行きたい」という声をいただき、ボランティアの大きな自信となっている。



水戸まつりやマラソン大会などの学校行事では、ボランティアも経験を重ね、連絡や準備をスムーズに行う事ができた。今年度はボランティアから地域の方に声をかけてもらい参加した方もいて、理想的な形となった。



4【今後の課題】

(1) 保護者の参加

本校では保護者の参加がまだまだ少ない。ボランティア登録とまではいかないが、声をかけてもよいという方もおられるのでそういう方に参加しやすい案内を心がけ、また一度参加されると「楽しかった」という声を聞く事ができるので間をあけずにつないでいき、コーディネーターから、担任から、子どもから足を運びやすい案内をしていく。



(2) ボランティア同士学びの場

活動が定着していくようボランティアが経験した事を伝えていける場の提供やボランティアが学びたいことを聞き取り研修会を開催する。ボランティアと全職員との交流会は継続していきたい。

(3) 学校とコーディネーターの連携

事業に慣れてきた分、先生とコーディネーターの打ち合わせ時間が少ない。活動後ボランティアを交えた報告・反省の場は必要であるし、少ない時間でも密に連絡がとれる関係を築いていきたい。

「できる人ができる時にできる事を」 みなみっこ応援団 【湖南省市】

1【事業の概要、特色等】

石部南学区のみなみっこ応援団は、できる人が、できるときに、できる事を支援しています。子どもたちの為に役立ててうれしいと、生きいきと活動され、地域の活力にもつながっています。森林環境ボランティア「みどりのバトンタッチ」の活動は12年目を迎え、年間を通して子どもたちに森林環境学習を行っています。

〈学校農園ボランティア〉



学校環境整備は地域ボランティアさんによって毎年手入れされています。この写真は学校農園を耕しています。



〈金環日食観測会〉



天体観測ボランティア、石部南まちづくり協議会と全校生徒合わせて550人が集まり合同観測会を行いました。



【石部南小学校支援地域本部】

〈地域参加者打ち合わせ会〉



子どもたちと一緒にサークル活動に参加して下さる方と、先生方と一年間の計画や目標を話し合います。

〈図書ボランティア〉



本の読みきかせや、寸劇を交えて行われるお話会は子どもたちに人気です。



朝の読みきかせは、8時30分から行われます。授業が始まる前に本の読みきかせをしていただくことで、子どもたちに落ち着きを与えてくれます。

〈環境学習ボランティア〉

環境学習ボランティア「みどりのバトンタッチ」の皆さんには、裏山の下草刈りや、年間を通して、子どもと一緒に活動をしています。



〈ゲストティーチャー〉



地域の方にゲストティーチャーとして来て頂く場合、授業の趣旨等を十分理解して頂くために、ボランティアの方と何回も打ち合わせをおこないます。電話やメールより、顔を見ながら打ち合わせするようにしています。

〈PTA部会〉



PTA部会のメンバーは、現PTAや元PTA、PTA役員を経験された方で構成されています。学校行事を把握されているので、行事が近まると「行けるときにはいくわ」と積極的に学校行事ボランティアに協力してください。内容は校外学習付き添い、体育大会、マラソン大会等。

今年度行われた、滋賀県道徳研究大会では、会場設営や受付、駐車場係などお手伝い頂きました。

〈地域との交流〉



■「ふれあいフェスティバル」は地域ボランティアさんが指導者となり、子どもと保護者が一緒にアトラクションを体験します。



■地域のディサービスにて、高齢者との交流会を行いました。



■体育大会に石部高校吹奏楽部の皆さんが演奏をしに来てくれました。



■老人クラブの方と1年生との昔遊び交流会。交流会が終わったら、クラスに分かれて一緒に給食を頂きます。



■福祉施設の方との交流。子どもたちや保護者、地域ボランティアの皆さんが一つの輪になり、江州音頭を楽しみました。



■ふれあい音楽祭では、合唱クラブの方に歌を披露していただいています。

〈工夫した点〉

今年で3年目となる、学校応援団広報紙を月に1回発行することにより、ボランティアの活動内容や、地域の方の関わりを掲載し、地域の方に学校応援団の事を理解してもらう。

ボランティア自身の経験や専門性を生かせるようにコーディネートする。

活動に対するお礼は、子どもの「笑顔」と「ありがとう」の言葉です。ボランティア活動が行われた後のお礼は出来るだけ早く行う。

ゲストティーチャーとの打ち合わせは、何回も顔あわせをして行うように心がけている。

ボランティアさんの負担にならないように、出来る人が、出来るときに、出来ることをして頂くための雰囲気作りを心がけている。

〈他校の参考となる点〉

「PTA部会」



現PTAやOBの方が中心となって、活動しています。活動は主に、学校行事等の協力をして頂いています。部

会の方には子どもさんが卒業されている方もおり、今後のみなみっこ応援団組織の中心的存在になって行く部会です。

「ボランティア研修会」



学校ボランティアと教職員との合同研修会を行っています。研修会の後の意見交換では地域と学校の思い

を認め合う機会になれた。

2【事業の成果】

学校では、教師が子どもと向き合う時間の確保や学習活動の充実。

地域の方々とふれ合うことで、子どもたちの地域への愛着が深まるとともにコミュニケーション能力が高まる。

ボランティアさんの技術や経験を子どもたちに教えることにより、ボランティアさんの生きがいにつながっている。

3【今後の課題】

総合的な学習には、地域ボランティアさんがゲストティーチャーとして、来て下さることが多いので、様々な分野での地域ボランティアさんの発掘。

単発的なボランティア活動は、1回参加して終わりになりがちなので、今後継続性を持たせるためにも、ボランティア参加後の反省会を行い横のつながりの強化。

子ども、地域、PTA共同活動

～「ふれあいまつり」で義援金を贈ろう～

【湖南省】

【石部小学校支援地域本部】

1【事業の概要、特色等】

石部小学校と南相馬市の原町第一小学校は一昨年から学校同士の交流があった。そこで、石部小学校の学校支援本部事業、「石部小学校学校応援団」では活動のひとつとして南相馬市に義援金を送ることを検討した。

石部まちづくり協議会の「ふれあいまつり」で模擬店を出店し、収益金を原町第一小学校に送ることを計画した。

○事業の主旨

- 1 石部小学校の子どもが自分たちで考え、計画し、主体的に活動を行う。
「お客さんでない」社会の中で役に立った自分を経験してほしいと考えた。
- 2 地域の方、PTA等できるだけ多くの方に協力をお願いし、子どもと地域、大人が一つの目的を持って活動していく中で、子どもにはたくさんの大人の中で育っていることを感じてほしいと考えた。
- 3 地域の方、PTA、子どもと一緒に活動することで「学校を中心とした」多世代交流ができる様に考えた。

○経緯

- 1 「ふれあいまつり」に模擬店を出店する子どもを募集した。すると1年生から6年生まで57名の応募があった。子どもたちの「やる気」を嬉しく思う反面、人数の多さに人数を絞ることも考えたが子どもの「やりたいと思う気持ち」が大切だと考え、計画、内容を検討することとし、「石小子ども隊」を57名でスタートした。

2 石部小学校子ども隊」結成

昼休みに計5回「子ども隊会議」を開いた。その場では地域コーディネーターである教頭を中心にみんな話し合った。



子ども隊会議

- ・ 目的の確認
「自分たちで働いて原町第一小学校へ贈る義援金を集める。」
- ・ 何の模擬店を出すか。
- ・ 班分け、役割分担
- ・ どうしたら模擬店を成功させられるか。
- ・ 収益金を上げ、多くの義援金を集めるにはどうしたらいいか。
- ・ スーパーボールすくい、たこせんとジュース、クレープ、カフェとワッフル、手作りとくじの5つの模擬店を出店した。

集まった意見

- ・ たくさんのお客さんに来てもらえるようポスター、看板、招待状を作る。
- ・ 挨拶、声かけの練習をする。
- ・ おつりを間違えないように算数の勉強をがんばる。

3 実行したこと

- ・ 「ふれあいまつり」への招待状を一人10枚、家族、近所の人に自分で渡しに行った。
- ・ ポスターを持って朝の休憩時間に各教室をまわり、大きな声で「ふれあいまつり」に来てくれるよう呼びかけた。



手作り隊の活動

4 「ふれあいまつり手作り隊」の結成

たくさんの義援金を集めるため、PTAと地域と子どもと一緒に活動を成功させるため、手作り品を作る「手作り隊」への協力を呼びかけた。地域の方、PTAと20数名の方にご協力いただき学校応援団事務所で活動。昼休みには、「子ども隊」の子どもと一緒に活動した。

5 6年生のクラス全体の応援

「ふれあいまつり」に、向けて活動力を
見出し、6年生がクランクアップをバ
ンデックで協力して行いました。



6 「ふれあいまつり」

「ふれあいまつり」当日、悪天候の中、子ども５７名、大人１８名で５つの模擬店を出店。たくさんの地域の方、石部小学校の児童、教員がお客さんとして模擬店にきてくれた。また、テント設営等会場の準備も地域の方のご協力をいただいた。

また、石部まちづくり協議会にもこの活動に協力していただく。子どものお昼代を负担していただき、出店していただく。安全確保を応援し

たくさんの方の応援をいただき、30,401円の収益金となった。

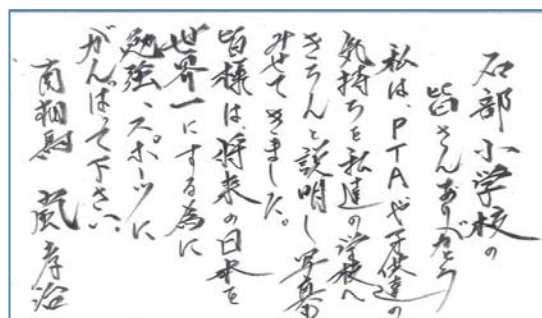


ふれあいまつりの様子



7 結果

1月20日。以前から石部小学校と交流活動をしていた南相馬市の嵐孝治さんが石部小学校を訪問された際に、「ふれあいまつり」の義援金とPTAの募金を預け、12月6日、原町第一小学校に届けられた。



南相馬の嵐さんからのお礼の手紙



2【事業の成果】

援子をでで応た
義、と行とでっ
にてこ実こ中い
本っる、るくて
日持さいあいえ
東をで合のて増た。
、的にし義しがっ
て目分話意動ちだ
いう自、も活たと
働いのえて、人こ
でと今考とたるい
ち」がではまれし
たるちちと。く嬉
分送たたこたても
自をも分たっしと
「金ど自きあ援こ

学校を拠点として、たくさんの人たちの交流の場ができ、地域の行事である「ふれあいまつり」に参加し、目的を達成できたことが、子どもも関わってくれたすべての方にとっても良い体験となり、自信になってくれたことを願う。

3【今後の課題】

今年度、この取組を次年度どう繋げていくかが課題だと考える。

自分がすき・友達がすき・学校がすき・下田がすき

スクールサポートネットなすびいず

【湖南省】

1【事業の概要・特色】

今年度の「なすびいず」の活動は、昨年度より継続しているものに加え、新しく立ち上がったものもあるなど、幅を拡げることができた。

《各事業についての報告》

校外学習・街探検等における 付き添いサポーターの充実

子どもたちが小学校以外で活動をする
ときに見守り・支援してくださるサポーター
が増え、活動への参加の形もいろいろな
ものができてきた。

- ① 従来通り、徒歩で
の校外学習で子
どもたちに付き添
って一緒に活動し、
支援する。



- ② 子どもたちが通行す
る商店街で、店頭や
危険箇所立って見
守りをする。



- ③ バスに乗っての校外学習
など、遠出のときに付き
添い、支援する。

図書ボランティア

こっとな・トン♪チームY(よみきかせ)
こっとな・トン♪チームB(図書室整理)

下田小学校では学校支援地域本部の活動
開始以前より「よみきかせボランティア」
(現こっとな・トン♪チーム Y) が活動
を行っており、今年度も
その活動は継続されて



【下田小学校支援地域本部】

いる。その中で、サポーターのスキルアッ
プや新しい人材の発掘
となる「よみきかせ講
習会」の開催や、「こっ
とな・トン♪チーム B」
という図書室整理の活
動が開始した。



学習支援サポーターの充実

今年度は、様々な形でサポーターが子
どもたちの普段の活動(授業)に参加してく
ださった。特に盛んだった活動は以下の4例
だが、ほかにも「ミシンの指導補助」や「新
・体力テスト時の測定の補助」などの活動
もあった。

①「田んぼのこ」支援サポーター

以前より5年生の「田
んぼのこ」の活動に多数
のボランティアが参加し
てくださっていたので、
今年度からはなすびいず
も積極的に関わっていく
ようにした。



②水泳指導補助サポーター



先生方に必要性をお聞
きしたところ、「見守りで
いいのでどなたか来て下
されば助かります。」とい
うことだったので、数名
のサポーターに声をかけ
たところ、1名のサポーターが快く引き受
けてくださり、水泳の授業に何度も参加し、
指導・見守りをしてくださった。

③「校内音楽会」練習サポーター

昨年度より2名のサポーターが活動し
てくださっており、今年
度は昨年度に比べ、練
習のより早い段階から
指導の補助についてく
ださった。



④「スキー教室」付き添い指導サポーター

以前より「スキー教室」時のサポーター
の必要性があったので、今年度より数名の

サポーターに参加をお願いした。保護者の方だけでなく、地域の方も参加してくださり、子どもたちに丁寧に指導してくださった。



休み時間を利用したボランティア活動 「おり紙の日」

(月1～2回程度 中休みを利用)

地域の方から下田小学校に直接ご連絡くださり「子どもたちと一緒に何かしたい、お手伝いをしたい。」とお話があった。何度かコーディネーターと話をしていくうちに「おり紙」が得意とわかり、それを生かして子どもたちに教えてもらえることとなった。今では子どもたちも楽しみにしてくれている。



環境整備ボランティア 学校正面の花壇の整備



昨年末に学校正面の花壇を整備したいという地域のサポーターの声があり、他の方にも協力をお願いしたところ

ろ快く引き受けてくださり、花壇の整備が実現した。正月にむけて葉ボタンやビオラなどの植物を寄贈してくださり、それらをサポーターと先生、コーディネーターで植え付けた。今後も季節に応じて花壇を整備していくことになった。



清掃ボランティア コメットさん★

(金曜日／13:35～13:50)

昨年度から活動を開始した「清掃ボランティア」の愛称を「コメットさん★」と名付け、子どもたちに親んでもらえるようにした。活動には1名のサポーターが参加してくださっており、子どもたちに丁寧に清掃の指導をしてくださっている。



クラブ活動支援サポーター

今年度も昨年度に引き続き数名のサポーターがおのおの持っている特技を生かして活動に参加してくださっている。



定期的な情報の発信 「なすびいずNEWS」

なすびいず開設以降「なすびいず NEWS」を発行してきたが、今年度はより定期的に発行するようにした。



〈工夫した点〉

- ① サポーターを募集する際、昨年度はチラシの配布など、広範囲に知ってもらえるようにしていたが、今年度は直接個人にお願いすることに重点をおいて募集をした。
- ② 1年生の保護者に学校支援地域本部の活動を知ってもらうため、こちらから積極的に関わるようにした。例えば、参観週

間中の1年生の活動に手伝いとして加わったり、小さいお子さんの相手をしたりしながら、なすびいずのスタッフ（コーディネーター）の存在を知ってもらい、活動について話す機会を持った。

- ③活動に参加してくださったサポーターの方々に子どもたちから「お手紙」などを書いてもらえるように先生方をお願いした。
- ④地域の方々にイベント等を知ってもらうように、商店街やまちづくりセンターに協力していただき、ポスターの掲示・チラシの設置をさせていただいた。イベント後にはポスターとチラシの回収を行い、イベントの様子を説明させていただき、今後の協力をお願いした。
- ⑤「なすびいず NEWS」の紙面に、活動に参加してくださったサポーターの方々の写真やコメントを多く載せるようにし、サポーターの募集についても過去に参加してくださった方々のコメントや先生方からの声を載せるように心がけた。

〈他校の参考となる点〉

- ・子どもたちと直接関わりを持ち、休み時間などに子どもたちが遊んだり、話ができるような環境作りをしている。
- ・PTA総会や学校行事の際に「なすびいず」の活動について発信をしている。

2【事業の成果】

- ・「よみきかせ」のみの活動だった「こっとな・トン♪」が、活動の幅を拡げ「チームB（図書室整理）」ができたことで、たくさんのお子さんの前ではよみきかせをすることに抵抗はあるが、本が好きで、子どもたちとも関わりたいと思っていた「隠れた人材」を発掘することができた。他にも「おり紙の日」のように授業などとは関係がないが、**子どもたちの楽しみになるようなボランティア活動**をはじめることができたこと、「花壇の整備」のように**サポーターの声からはじまった活動**があったことも成果の1つ。
- ・昨年度と同様、なすびいずのスタッフ（コーディネーター）が子どもたちと直接関わるが多かったことで、子どもたちに「先生以外の大人」が学校に出入りすることが特別なことではないと思ってもらえるようになってきた。子どもたちか

ら「**今度はいつサポーターさん来てくれるの？**」という声をかけられることも多くなった。

- ・昨年度に比べ先生方からのボランティア（サポーター）の依頼が多かったように思う。先生方に学校支援地域本部があり、活動をしていることが普通のことととらえてもらえるようになったのではないかなと思う。
- ・定期的に「なすびいず NEWS」を発行したことで、サポーターの活躍を保護者の方々に知ってもらうことができるようになり、それを見た保護者がボランティアに興味を持ってくれるようになった。少しずつではあるが「なすびいず NEWS」を見ての問い合わせもでてきた。

3【今後の課題】

- ・現在活動しているボランティアの内容・活動・支援が今後もうまく継続され、引き継がれていくようにしていくこと。
- ・学校側の細かな要望がスムーズに伝わるために学校や担任とどう関わり、連携をしていくか。
- ・ボランティア初心者が、活動に喜びを感じてさらに自ら主体的に参加できるように環境整備を進めること。

【三雲東小学校支援地域本部】

1 【事業の概要、特色】

学校と家庭そして地域が、子どもの課題を共有し、課題解決に向け、一体となって連携の方向を探るとともに、地域の大人との様々なふれ合い活動を通して、子どもの安全と学習活動の充実を図る。そのために、大きく次の3点を中心に取組を進めている。

- ◇学習活動を支援する。
- ◇安心・安全を確保する。
- ◇学習環境を整備する。

（１）農園ボランティア

校門入り口近くと校舎裏の二ヶ所に約5アールの農園があり、農園活動として、全校で野菜を育てる活動や3・4年生が菜種を育て収穫する活動を行っている。ボランティアさんには、農園の土づくりや農園周りの草刈りのお手伝いをしていただき、野菜や菜種の苗植えや収穫時には、植え方や収穫の仕方について、丁寧に指導していただいている。年度末には、「ありがとうの会」を設け、各学年で感謝の気持ちをプレゼントとともに伝えさせていただいている。



〈菜種の脱穀〉



〈収穫感謝の会〉



〈夏野菜の苗植え〉

（２）図書ボランティア

図書館協力員さんの来校に合わせて、図書ボランティアさんは、毎週月・木曜日に来てくださり、書架の整理や本の修繕、また季節に合った飾り付けや図書室の入り口に季節のテーマに合わせた本の紹介コーナーの設置等、主に図書室の環境整備をしていただいている。

雨の日には絵本の読み聞かせをしていたり、図書委員会の児童と一緒に本の貸し出しや返却の活動のお手伝いをしたりしていただいている。



〈図書の紹介〉

（３）教科等学習支援ボランティア

今年度より、学習参観日やPTA総会等の機会をとらえ、保護者や地域の方に学習支援の募集を行った。また、地区の回覧版などにも、必要な内容のボランティアさんの募集ポスターを入れていただき参加を呼びかけた。

特に生活科や総合的な学習の時間において、校区内の引率のお手伝いをさせていただいたり、学習活動の内容に関わって協力いただいたりしている。



〈5年家庭科支援〉



〈3年引率指導ボランティア〉

(4) 見守りボランティア

子どもたちの登下校時、地域のポイントとなる場所に立っていただき、年間を通して安全を見守っていただいている。木曜日は、一年生だけが5校時で下校のため、ボランティアさんに学校まで来ていただき、一緒に各地区まで送っていただいている。



〈一年生の子どもたちと〉

2 【事業の成果】

昨年度の活動から更に本年度の新たな取組として、応援団だよりの地区回覧の他、三雲まちづくりセンター・三雲児童館での掲示・学習参観の日には、校内に募集ポスターを掲示した。また、先生にもお願いし、各クラスで子どもたちから保護者への呼びかけを伝えてもらった。その結果、時間に余裕のある保護者、地域の方々から学校への協力の申し出があり、子どもたちの活動を知っていただくいい機会にもなった。その他に昨年度同様次のような成果がみられた。

- ・登下校時の子どもたちの事故もなく、日々の通学における安全が確保されていた。
- ・図書室の環境良くなり、子どもたちが気持ち良く図書室を利用し、進んで読書活動ができた。
- ・野菜の苗の植え方等を直接教わりながら活動し、収穫の喜びを味わうことができた。
- ・家庭科、生活科、総合的な学習の時間等を豊かなものにすることができた。

3 【今後の課題】

- ・単発のボランティア募集に参加してもらう方々を少しずつでも増やし、そこからたくさんの常連ボランティアを増やしていくことが大切である。
- ・子どもの実態を大事にした課題の明確化に努めるとともに、より一層子どもが主体的に活動する姿を求めて、実現していく必要がある。
- ・4つのボランティアが今後も機能的に継続されるとともに、学習支援ボランティアの拡充を進めたい。
- ・地域総合センター職員の本事業への有効な関わりを求め、本事業を着実に展開していく必要がある。

1【事業の概要、特色等】

本校では、この事業が始まる前から、“田んぼの応援団”の方や朝の読み聞かせや月一回のお話会のボランティアによりたくさんの方々が学校の取組に参加してくださいました。

23年度から始まった事業の展開により、家庭科に関しては保護者の方々の支援もいただき、スクールガード（約200名）については、地域の力を発揮していただいています。そのため、今までの取組を集約したり新しく本校にあった物を考えてきました。

ボランティアさんから地域の方への声かけがあり地域の方からこれはどうかなどの声をいただき、ボランティアに入ってもらい活動を始めました。

〈工夫した点〉

ボランティア加入については、学校地域コーディネーター自らが依頼して募っています。

また、ボランティア経験者から地域の方への声かけで広がりを見せています。無理せず、心よく来ていただけるように工夫しています。

さらに、各ボランティアの横のつながりとして、各ボランティアごとの集まりも持つようにし、ボランティア同士のつながりも作るようにしています。

〈他校の参考となる点〉

ボランティアさんと子どもとのつながりを大切にしています。また、できるだけ保護者に発信するように心がけています。

そのほかには、ボランティアさんから見た子どものいいところ、子どもたちからの言葉などふれあいを大切にしています。

今までからある、学校支援ボランティアを元に、活動をお願いし、そこから見えてきた子どもたちの姿を、学校とともに支えてもらい取り組んでいます。

【三雲小学校支援地域本部】

2【事業の成果】

今年度は、地域の方からの声をもとに

・環境ボランティア

庭の枯れ木の処理、草刈り、昇降口のニス塗り、また子どもたちとボランティアさんと一緒に花壇に地域からいただいた花の苗を植えました。



・通学ボランティア

登校時、子どもたちと一緒に歩いていただき声かけをしていただいています。



・図書館ボランティア

週2回、支援員さん以外にボランティアさんに入ってもらい、休み時間に本の貸し出し返却時に子どもたちと一緒に関わってもらい、本を探したり、話し相手になってもらっています。また、朝の読書活動において読み語りを行ってもらっています。



低学年高学年問わず、静かに聞いています。いま、図書室に来る子どもたちが増えてきています。

・学習ボランティア

水泳、陸上ボランティアに入ってもらいフォーム等いろいろと指導してもらい記録が伸びたようです。



3【今後の課題】

現在、地域で花を育てくださっているので大きくなったら子どもたちと一緒に

学校支援委員会といった組織で花を植えたいと思っています。また、挨拶のできる子どもたちを増やすにはどうすればいいか？今後、同じ中学校へいく三雲東小との交流会もしていきたいと思っています。一番重要なのは、財源の確保かもしれません。この事業をもっとたくさんの方に知っていただく事も必要だと考えています。

蒲生の子は蒲生で守り育てよう【東近江市】

1【事業の概要、特色等】

(1) 子どもは地域の一員

地域の大イベントである秋の「いきいきあかねフェア」で蒲生西小学校と蒲生北小学校の3年、4年児童の希望者による発表を企画した。そして地域の幅広い年代層のみなさんの前で運動会で踊ったよさこいをまちづくり協議会のよさこいチームと共演した。あいにくのお天気だったが、子どもたちは元気に、整然と踊ってイベントに華を添えることができた。



(2) 地域の子は地域で育てよう

今年度で4回になる「あかね通学合宿」を実施した。地域と学校をつなぐ絶好の機会との考えから、出来るだけ自治会の皆さんに関わっていただいた。学校でも家庭でも出来ない事を子ども達に体験させる。地域の皆さんとかかわる中で子どもたちはいきいきと活動した。また「ふるさと蒲生」を認識してくれることを願い、地域から一芸に秀でた方、のべ120名にゲストティチャーとして参加していただき、7会場で65名の子どもが学校では学ぶことのない学習を受けた。



【蒲生地区学校支援地域本部】

(3) ニーズにあったボランティアさんの紹介

中学校においては、2年生の職場体験を受け入れていただける事業所数の拡大ができた。なるべく地域内の事業所をお願いしたいとの学校からの希望もあり、地域内の事業所や近隣の事業所に依頼して中学校との連携を密にすることができた。

小学校においては学校からの依頼を受けてボランティアさんの紹介をした。図書ボランティア、読み聞かせ、田んぼの学習、遠足の同行、まち探検の自治会へのお願い、戦争体験のお話し、お掃除のお手伝い、マラソン大会の立哨など。

蒲生東小学校は、毎月ボランティア会議を開きその場で自主的にボランティアさんが支援の場を決定している。この仕組みは以前から実施されている。

蒲生西小学校では昨年度からまちづくり協議会の「川づくり委員会」と4年生の総合的な学習の時間での「日野川学習」が連携して取り組んでいる。



2【事業の成果】

子どもたちが地域に出かける事で、この事業を地域の皆さんも知っていただき、協力を得やすくなった。地域での通学合宿においては、地域の教育力、住民の結束に向上が見られ、関わっていただいた皆さんも充実感を持っていただくことができた。子どもたちも「ふるさと蒲生」のすばらしさを体感してくれた事がその後の学校生活から知ることが出来た。

3【今後の課題】

地域の人材、教育力、事業に関わった人の充実感、生き甲斐等を高める事を大切にしていることをアピールして、学校と地域の相互の向上を図る工夫をしていく。

1【事業の概要、特色等】

目立つことや先頭に立つことはよくないという地域性からか、地域の方の協力を得ることは難しく感じていた。そこで、まず保護者に声をかけ、無理な場合に地域にお願いするという手順をとるようにしてきた。その結果、昨年一年間で保護者の方に学校支援ボランティアとして応援してあげようという意識をもっていただくことができ、実際大変多くの保護者の協力を得られるまでになった。

そこで、今年度は地域の方に少しでも多く支援してもらえよう心がけた。まち協（KoSVo＝湖東スクールボランティア）への協力要請はもちろんのこと、校区にお住まいの方々からの支援がいただけるように努めてきた。

〈工夫した点〉

例えば年配の方の体験談が聞きたい場合、まず、在籍している子どもたちの祖父母に依頼する。次に、校区内自治体の自治会長さんに支援していただきたい学習の趣旨を直接いねいに説明し、各組回覧用のチラシ配布への理解を得るようにした。そのチラシの中には、支援をお願いする内容だけでなく、この事業の趣旨も加えるようにした。こうすることで、学校が今何を求め、何をしようとしているか、学校理解の一つにさせていただけたように思う。



図書室ディスプレイの作成

2【事業の成果】

- 1 学期…図書室ディスプレイ制作・まち探検・花苗ポット移し替え・野菜生産農家の見学・手芸クラブ指導
- 2 学期…企業出前授業・ミシン実習支援・手芸クラブ指導・地球温暖化のお話・畑

作業の見学・戦争体験のお話

- 3 学期…昔のくらしのお話・企業出前授業・華道(池坊)体験とお話

〈他校の参考となる点〉

- 6 年社会科 戦争体験談

平和学習の一環として当時の話が聞きたいとの担任の願いに応える。

96歳のHさん 戦地での体験談

83歳のKさん 大阪空襲の経験談



戦争体験談



戦後67年が経ったといえども、お二方にとってはつらい経験ではあることには変わらないが、当時の様子を一生懸命に子どもたちに話してくださった。戦争を二度と繰り返さないようにと熱弁のあまり、当初の予定時間をオーバーされた。しかし、地域の方の子ども達の健やかな成長を願う熱き思いがひしひしと伝わる貴重が時間となったことに間違いはない。

〈工夫した点〉

- ・ 依頼する方の体調も考え、直接ご本人さんに依頼せず、まずはお家の方に相談させていただいた。
- ・ 子ども達の理解を助けるために体験談のワンポイントを黒板に書きとめた。
- ・ マイク・ビデオ撮影の準備
- ・ 時間配分をゆったり設定しておいた。

3【今後の課題】

◇保護者ボランティア同様、年度初めより地域向けのボランティア登録の発信ができるとよいが、その場合、具体的に学校ではどんなことを地域の方に求めているのかの詳しい説明が必要となる。

◇ボランティア活動をPTA事業に組み込むことでボランティア保険にかかる経費の解消(低コスト運営＝長期継続)につなげたい。

【玉緒小学校支援地域本部】

1 【事業の趣旨】

当事業は、学校を支援するため、学校が必要とする活動について、地域の方々のボランティアとして派遣する組織で、いわば「地域につくられた学校・子どもの応援団」といえる。これまでも登下校の見守りや朝の読み聞かせを行ってきたが、さらに社会科の地域学習や家庭科の実技指導など、教科学習の支援を行った。児童の学習活動の場面に、地域のボランティアが積極的に関わり、支援することにより、学習がより効果的にすすみ、有効な学校支援・児童支援となった。

2 【事業の概要、特色】

今年度より、この事業が始まったばかりなので、5月中旬に、学校支援地域本部事業の設置を広く知らせるために、学校便りを使って、広報活動及び、ボランティアの募集活動を行った。また、地域のコミュニティセンターの方々にも呼びかけ、ボランティアの募集を募った。

① 学習支援

1 年生活科（木のみを使って）では、ドングリや松ぼっくりなどの木のみを使って壁飾りや人形、こま、やじろべいなどのつくりかたを教えていただいた。

2 年生活科（川遊び）では、学校の近くで安全に川遊びのできる場所を紹介していただき一緒に魚や虫などをつかむ体験を行った。

3 年社会科（校区探検）では、尻無神社の歴史や最上おどりのお話を現地で行っていただいた。



3 年総合（こんにやく作り体験）では、近くの永源寺こんにやくの道場で指導されていた方に来ていただき、こんにやくの皮むきからつぶして、こねて、型に入れ、湯がいて出来上がるまでを学校で子どもたちと一緒にしていただいた。

4 年総合（やまのこ）では、地域に出かけることも多く、引率の補助をお願いした。

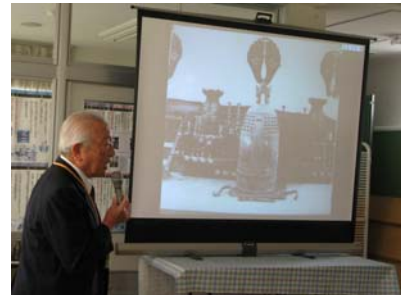
5 年（家庭科、初めてのソーイング。ミシンの学習）では、延べ 20 人の方に来ていただき、きめ細かに子ども達に教えていただくことができた。

5 年総合（お米を使って）では、子どもたちが育てたお米でボランティアさんに教えていただきながら炊き込みごはんやおはぎをつくった。



6 年家庭科（ミシンを使って）では、延べ 9 名のボランティアの方の協力を得て、ミシンを使ったナップザックが仕上がった。

6 年総合（戦争体験談）では、担任の先生の希望で、当時小学生だった方の話が聞きたいとのことだった。当時中学生だった方にお願ひして、玉緒地域の戦争当時の写真を見せながらお話ししてもらった。



② 外部からの支援

6 年総合（輝け私の未来。いろいろな職業の方から学ぼう）では、外部から 8 人のゲストティーチャーをお招きして職業観や人生観、夢などを語っていただいた。

3 【事業の成果】

子どもたちは、学習活動がスムーズにすすみ、生き生きと活動し、地域の大人が来校することを楽しみにするようになった。

またボランティアの中には、学校に向くことで、子どもたちと交流ができたことをとても喜んでいただき、「次も来てあげよう」と前向きに参加していただけるようになった。

4 【今後の課題】

いろいろな活動を通して、地域の方の子ども理解の深化、学校ボランティアの発掘、相互の連帯強化を図っていく必要があると思われる。

また、校区・地域全体にボランティアの募集をかけて、組織を拡大していく必要があると思われる。

【八日市南小学校支援地域本部】

1【事業の概要、特色等】

「学校支援ボランティア」バンクをPTA共催で立ち上げ、保護者、地域の方の登録を募りました。今年から始めた事業なので、どんなことをするのか具体的に分ければ支援も増えるのではないかと、思い支援メニューをあげてみました。

支援メニュー

- ゲストティーチャー型
…理解を深めるために、直接学習指導します。
- 学習アシスタント型
…学習活動を効率よく進めるために、教師の指導を手助けします。
- 施設メンテナー型
…施設や設備の維持管理を支援します。
- 環境サポーター型
…安全で快適な学習環境を整えます。

南部地区まちづくり協議会、南部コミュニティセンターの方にご協力をお願いし、チラシを掲示していただき、地域の方に広く知ってもらうようにしました。ボランティア募集のお知らせも毎回掲示をお願いし、地域の窓口になってもらえるようにしました。

南部コミセンの畑でじゃがいも掘り

南部まち協から依頼を受け、3年生と保護者ボランティア2名、民生児童委員2名の参加でじゃがいも掘りをしました。南部まち協やボランティアの方とふれあうことができました。



給食エプロンのお直し

サイズの大きい給食用エプロンを南部まち協の粋生サロンの方に子どもが使えるサイズに直していただきました。

かまどベンチの作成

南部まち協からの依頼でPTA、子ども達にも参加してもらい、地域（自治連合会、防災会など）との連携、協働での製作、設置、炊き出し訓練を行いました。

図書室の壁面かざり

環境整備として、図書壁面飾りつけをしました。季節感のある楽しい図書室になるよう学期ごとに飾りつけました。



図書カードホルダーの作成

子ども達が図書室で使用する個人カードを管理するためのカードホルダーを各クラスに一つ作って欲しいと依頼を受け、粋生サロンから3名、保護者ボランティア4名の計7名で製作。教室の壁にかけ使用しています。

アフタースクールのさつまいも掘り

外国籍の子ども達が毎週水曜日放課後に行っているアフタースクールが南部コミセンの畑でさつまいも掘りをさせてもらいました。

大きなさつまいものお土産をいただきました。



6年生のナップサック作り

ミシン授業が始まる前に事前打ち合わせをしました。ミシンがきちんと動くかのチェックもしてくださったので、スムーズに授業に入ることができました。2日間で、のべ29名の地域、保護者ボランティアの方が来てくださいました。続いて5年生のエプロン作りでは、4日間でのべ37名来てくださいました。地域のボランティアさんから、「子ども達がとても熱心に作業に取り組んでいたのに来てよかった。」「楽しかった。」と言ってもらいました。



2年生と干し柿作り

地域ボランティアの方とピーラーで渋柿の皮をむき、ひもを結び干しました。

一人1個ずつピーラーで皮をむいてひもに結び、熱湯に20秒ほどつけ吊してもらいました。

子ども達は「もう食べられるの?」「いつになったら食べられるの?」と、とても楽しみにしてくれています。



〈工夫した点〉

学期ごとにボランティアだよりを発行し、PTAとボランティアに参加してくださった地域の方にも配布し、どんなことをしているのかがわかるようにしました。

〈他校の参考となる点〉

まちづくり協議会とのつながりを大切にしています。

2【事業の成果】

今年度から始めた事業なので、ボランティアにどれだけの方が参画して下さるのか不安がありましたが、ミシン授業の補助のようにたくさんの方の協力を得ることができました。なによりボランティアの方に「楽しかった」「お手伝いできることがあったら言ってね」と言っただけ、子どもたちからは「次の時間もきてくれるの?」と言ってもらえたことです。

3【今後の課題】

ボランティアの方の不安の解消、スムーズな取組ができるように、支援に入っていただく授業の前に先生と打ち合わせをできるようにしていきたいです。年に1度は学校と地域、保護者ボランティアの交流会などをして、少しでも学校に興味を持ってもらい、地域の方にボランティアへの理解を深めていただく努力をしていきます。そして、地域に眠っているボランティアの発掘をし、生涯学習の場として楽しみながら学校に来ていただけるようになればと思います。

1【事業の趣旨】

社会が複雑多様化し、子どもを取り巻く環境も大きく変化する中で、学校が様々な課題を抱えているとともに、家庭や地域の教育力が低下し、学校に大きな役割が求められている。周囲を船岡山・雪野山などの低い丘陵や広々とした田園地帯に囲まれ、農業を営む家庭も多くある本校区においても、このことは同様の課題となってきた。

このような状況のなかで、これまで以上に学校・家庭・地域の連携協力のもとで、子育てを進めて行くことが不可欠となっている。

そこで、子どもの育ちを小学校だけで見ていくのではなく、中学校との小中連携も模索しながら、本事業を進めてきた。実施にあたり「地域コーディネーター」が、小・中を兼務することにより、小学校・中学校での取組の状況が把握しやすく、支援をしていただく方々にも、小中学校を通じて関わっていただけるのではと期待している。

2【事業の概要・特色等】

地域の方から支援していただいた主な活動と工夫点は、およそ次のとおりである。

(1) 地域の子どもは地域で守る

- * 下校時の子どもたちの安全確保をとの呼びかけに、2地区が新たに「子ども見守り隊」を結成していただき活動がスタートした。
- * 今後、校区全体での取組へという話し合いも進められている。
- * 登下校時の中学生にヘルメット着用や挨拶の声かけの場にもなっている。



(2) 教育活動への支援

(ア) 学校行事

- ふるさと文化祭（ゲストティーチャー・ボランティア）
 - * 昔のおやつ・おもちゃ作り
 - * 縄ない体験
 - * よもぎ餅作り・餅つき
 - * 戦争体験談

【船岡中学校区学校支援地域本部】

□ 校内マラソン大会

- * マラソンコース交通立番
- * 応援垂れ幕作成



(イ) 日常の教育活動

□ 2年生活科校外学習

- * 見学地までの引率（安全指導）・活動支援

□ 6年総合的な学習の時間

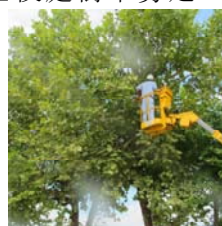
- * 身近な地域の歴史を学ぶ

□ 読書（読み聞かせ）

- * 月1回・学年学級への読み聞かせ

(3) 教育環境への支援

□ 校庭樹木剪定



(4) 教職員研修等

- 本校教職員の校区現地研修
- * 校区の歴史遺産等の紹介・解説

〈工夫した点〉

- 学校だより等で取組を地域へ発信
- 地域の各種団体との連携を深める
- 人材データをファイリング

3【事業の成果】

- (1) 専門的な知識や技能をもった方の支援により、学習内容や活動がより豊かになり、質が高く、わかりやすいものとなった。
- (2) 教員以外にも多くの支援者がいることで、人員的にもゆとりが生まれ、一人ひとりの子どもとより関わる事ができた。
- (3) 地域や保護者の方々が積極的に教育活動に関われることにより、地域に根ざした開かれた学校づくりに繋げることができた。
- (4) 子どもたちは地域の方々と交わることを楽しみにしており、保護者の方にも好評であった。

4【今後の課題】

子どもたちの学習や生活の充実（現場のニーズ）のため、地域の方々の多方面にわたる知恵や技術、地域の教育力等を有効に活用できるよう、教職員と地域コーディネーターとが連携を密にとり効果的な支援を図りたい。

また、教職員はもとより、ボランティアの方々の交流により、校区の子どもを育てる小中連携を深めていく手だてを探り工夫したい。

【米原市学校支援地域本部】

1【事業の概要、特色等】

米原市では“みんなで本を読もう”をキャッチフレーズに平成20年度から読書に特化した形で学校支援地域本部事業に取り組み、平成23年度より「読書で支援絆事業」として子どもたちの読書活動の支援を行っている。

主な事業は、

① 巡回文庫の実施

毎月ボランティアが40冊の本を子どもたちの教室に届け、おはなしも届けている。



平成20年7月から市内全域の小学1年生に向けて開始し、平成22年9月からは2年生に、平成23年9月から3,4年生に実施。平成24年度は4月から特別支援学級、9月からは、5,6年生へと事業を拡大することにより市内の全小学校全クラス(10小学校の113クラス)に実施できた。

② 学校図書館の整備

「モデル校」4校を設定し、コーディネーターが学校・地域と連携・調整しながら、学校図書館の整理、本の修理や装備、学校図書館の壁面製作など、子どもたちの読書環境の整備を行っている。



③ おはなしの講習会

年3回開催し、ボランティアの活動のヒントや意欲につながるよう、学習の場を提供している。

④ 成果報告会

平成25年1月26日(土)にルッチプラザベルホール310にて、米原市学校支援地域本部事業成果報告会を行い、この事業のPR

をするとともに、広く子どもの読書に関心を持ってもらう機会とした。参加者：約190人(関係者を除く)内容は、地域コーディネーターによる活動報告のあと、子どもたちの読書活動の様子をこの事業の成果として皆さんに知ってもらうため、まず「モデル校」の伊吹小学校5年生による群読。続いて読書感想文の発表。そして今年度は、市内の全小学校の児童全員が「わたしの好きなこの1冊」に取り組み、その中から33人に発表していただいた。



〈工夫した点〉

○巡回文庫の本の選書は、図書館が行い、学年に合った様々な分野の本がバランスよく入るようにしている。学校間の文庫移動はボランティアに依頼し、あわせて読み聞かせや本の紹介をすることで、子どもたちが本を手にするきっかけづくりをしてもらっている。

○ボランティアや学校の図書主任からの要望を受け、「学校図書館の整備に関わる講習会」を開催した。(伊吹小学校：7/25)参加者は、専門知識を身につけようと熱心に受講されていた。

○おはなしの講習会は「モデル校」の図書室を会場とし、テーマに合わせて講習・実演をしていただいた。会場を各学校図書館内にしたことで、普段活動している学校とは違う学校図書館の雰囲気を感じることができ、大いに刺激を受けられ、活動の参考になった。

○「モデル校」は、市内の各地域の4小学校(息長小学校・息郷小学校・山東小学校・伊吹小学校)である。読み聞かせは、毎月定期的に行われており、子どもたちの本への興味

・関心が深まり、読書の幅が広がるとともに、地域の方とのふれあいの時間となっている。

また、新刊図書の装備、書架整理、配架など積極的に活動され、子どもたちが図書館に集まり、明るい雰囲気の中で読書を楽しめる学校図書館の環境整備に力を注いでいただいている。

○子どもたちの普段の読書活動の1つとして市内全小学校全クラスで「わたしの好きなこの1冊」に取り組み、成果報告会で発表することにより、いろいろな人の思いを聞いたり、紹介してもらうことにより、より多くの本に出会うことができた。（冊子を作成し、配布することで今後の読書の参考にできた。）

○今年度はボランティア交流会を2回開催した。1回目は、他校で実演された内容を披露してもらい、その後、感想や意見交換をするなど交流の場を設定した。2回目は、近隣の市で活動されているボランティアさんの活動の様子をお聞きし、子どもたちの現場の声を聞くことで、あらためて本を届ける時の参考になった。



〈他校の参考となる点〉

○ボランティアは、学校での読み聞かせの枠を超えて図書館でのスペシャルおはなし会や他校への拡大おはなし会など活動の幅を広げている。



○おはなしの講習会は、ボランティアの要望を受けて、それぞれの活動の参考となるものにし、冊子にまとめた。内容は、子どもたちに本を届けたり、読書活動を支援していく上ですぐに役立つものを企画して行った。

2【事業の成果】

①巡回文庫において、今年度で市内全小学校、全クラス（特別支援学級を含む）に本を届けることができた。

②図書館整備においては、昨年ボランティアグループが立ち上がったモデル校（伊吹小学校）で、図書館整備の講習会後に学校図書館の大幅なレイアウト変更を行い、オリエンテーションを行った。このことで、小学校図書館と公共図書館がそれぞれ関連して存在していることを学習できた。また、ボランティアが新刊書の装備や壁面飾りなどすることにより、読書環境が改善され、子どもたちが図書館へ行きたくなる環境作りが実を結んだ。

③おはなしの講習会では、実践を交えた絵本の紹介、おはなし会のプログラムの立て方、本の届け方、選び方、ブックトークなどボランティア活動の参考になる内容で、より実践的な技術向上が図れた。また、これらは、ボランティア同士の情報交換の場となった。

④成果報告会では、市内全小学校から代表して発表してもらうことで、広く地域の方にもこの事業の取組や子どもたちの



読書の様子を知っていただく機会が持て、家庭での読書の啓発にもなった。

⑤モデル校（息長小学校）で、図書委員とボランティアと一緒に図書の整理や壁面飾りなどを行い、交流が深められた。

3【今後の課題】

5年間で巡回文庫が6年生まで実施でき、全ての子どもたちの手の届く所に本がある環境が整った。次の段階として、本があるだけでなく、先生方の教材研究や学習支援、また子どもたちの読書の相談にのれる学校図書館司書の配置を地域と連携しながら検討していくことが、今後の課題である。

1 【事業の概要、特色等】

竜王町学校支援地域本部（通称名：学校応援団）は、竜王幼稚園、竜王西幼稚園、竜王小学校、竜王西小学校、竜王中学校の5校（園）を支援の対象としています。4名のコーディネーター（非常勤）と1名の統括マネージャー（常勤）で竜王町公民館を拠点として活動をしています。24年4月～11月までの学校園からの依頼支援回数は、竜王幼稚園27回、竜王西幼稚園15回、竜王小学校133回、竜王西小学校39回の合計214回でした。

また、地域と学校の連携を図る環境作りとして、学校応援団からの働きかけによる花壇作りは、春花壇、秋花壇の種まき、苗植え、草刈り、夏場の水やりを含めて、161回でした。

以上の事業に協力頂いたボランティアの参加総人数は、306人、延べ人数は759人でした。

以下に実践事例の一部を紹介します。

（1）竜王幼稚園で“流しそうめん”の支援

7月に、竜王幼稚園「預かり保育」で昼食作りとして、応援団12人が流しそうめんの体験支援を行いました。前日より、竹や大鍋の準備をしての汗だくの支援となりましたが、子ども達は初めての流しそうめん体験に大喜びでした。



（2）竜王西幼稚園で“砂場の木枠の修理”の支援

5月に、学校応援団5名が保護者と一緒に、砂場の枠を新しい物に交換しました。古い枠を取り除き、セメントを流し、ボルトで木枠を固定する大変な作業となりました。

子ども達が、楽しく遊んでいる姿を思い浮かべながらの作業でした。



（3）竜王小学校、竜王西小学校で“家庭科ミシン”の支援

10月に、竜王小学校5年・6年生の家庭科ミシンの支援を行いました。5年生には、応援団10人がランリックづくり延べ18時間の支援をしました。また、6年生の応援団12人がマイバックづくりも18時間支援をしました。

竜王西小学校でも5年生のエプロンづくりにも応援団6人が延べ12時間支援を行いました。

完成した時の、子ども達の笑顔に応援団の方々の「ホッ」とされた安堵の顔が印象的でした。



(4) 竜王西小学校で“戦争体験を語る”の支援

竜王西小学校で、社会科授業の一環として6～7人のグループ別に、戦争体験（戦時中、少年期であった方も含む）を、児童たちの質問に対して、戦争中の人々の生活の様子や苦労した思いを、ありのままに答える形で話す支援をしました。

子ども達は、戦争の悲惨さを感じてくれた様子でした。



(5) 竜王小学校で“クラブ活動”の支援

本年度から“クラブ活動”の支援として、イラストクラブ、将棋クラブ、家庭科クラブの支援を行っています。

自らの趣味活動が、子ども達に発揮できることに応援団の意欲が感じられています。



(6) 竜王小学校で“本の読み聞かせ”の支援

年間を通して毎週火曜日の朝、授業の始まる前8時15分から8時30分まで3年生～5年生を対象に、応援

団6人が“本の読み聞かせ”の支援をしています。

子ども達の熱心に聞いてくれている姿と「次回は、どんな話をしてくれるの？」という期待感に、応援団はうれしさを感じています。



〈工夫した点〉

昨年度と比較すると、支援数が増加し過密スケジュールとなったため、学校園宛には、参加ボランティア名を、各個人宛には、内容や日時を記した案内通知をして、思い違いや、忘れを無くす工夫をしました。（昨年度は、コーディネーターからの電話連絡のみ）応援団からは、喜ばれています。

また、支援時にはコーディネーターおよびマネージャーが学校園へ行き、応援団と話し合いをしながら今後につながる情報交換話をする工夫もしています。

2【事業の成果】

(1) 竜王幼稚園で“流しそうめん”の支援

家庭ではできない体験を、学校応援団の多くの方々が携わり行われました。普段、食の細い子ども達もたくさん食べていました。よほど楽しかったのだと思います。

(2) 竜王西幼稚園の“砂場の木枠の修理”の支援

大変大掛かりな作業となったため応援と保護者ボランティアとの共同作業となりました。この事により、地域ボランティアと保護者ボランティアとのコミュニケーションを図る事ができたのではないかと考えています。

(3) 竜王小学校・竜王西小学校 “家庭科ミシン”の支援

小学校の家庭科のミシンの授業は、最も大きな支援活動の位置を占めるものであり、学校とボランティアを繋げる重要なポイントを持つと思われます。授業前のミシンの調整から始まり、多くのボランティアによる家庭科の指導補助は、学校、ボランティア、子ども達がそれぞれに多くを学ぶ支援活動です。まるで保護者のように丁寧な支援は、本年度の最高支援だと思います。多くのボランティアの参加の成果だと思います。

* 当町のシステムとして、学校応援団統括マネージャーからコーディネーターへ、そしてコーディネーターからボランティアとなっていますが、今後、学校園の支援科目ごとにリーダーを2人程度置ききめ細やかな連携を図っていきたいと思います。

* 地域支援として春花壇、秋花壇を各学校園で実施をしています。この活動が子ども達の授業に生かせれば良いと考えます。
(花の生育過程の観察、写生等)

(4) 西小学校で“戦争を語る”の支援

学校や教科書では知る事のできない事実を少人数の班ごとにテーマを出して論議する非常にレベルの高い授業内容となりました。後に出されたレポートは、大人顔負けの素晴らしい内容のものでした。

(5) 竜王小学校の“クラブ活動”の支援

クラブ活動の支援は、ボランティアの方の得意分野が生かされていて、地域ボランティアと児童の楽しい時間となっています。

(6) 竜王小学校の“本の読み聞かせ”の支援

竜王町では、幼稚園児から読み聞かせがあるため、本の読み聞かせを楽しんで静かに聞く習慣ができています。

3【今後の課題】

* 子ども達にとってお兄ちゃん、お姉ちゃん的な存在のボランティアが地域ボランティアとして登録できれば、もっと幅の広い支援が出来ると思う。(例えば、中学生のクラブ活動の補助的なコーチやキャンプ等)

* 幼稚園、小学校の保護者ボランティアが、子どもの卒園、卒業と共に終了しています。継続性を持たせていく事が今後の課題です。

【愛荘町学校支援地域本部】

1. はじめに

愛荘町の学校支援地域本部事業は、初年度の平成20年度から町内4小学校と2中学校を対象に町全体で学校支援に取り組んできた。

しかし、一人の地域コーディネーターで町内6校の要望を十分把握し支援することが難しく、二年目から事務局（地域コーディネーター）をバックアップし事業推進の実働部隊として機能する「愛荘町学校支援部会」を設置し、組織的に取り組める体制の構築に努めてきた。各校の事業の窓口である学校と地域を結ぶコーディネーターの先生、警察、図書館、社協、教頭会、ボランティアの代表からなる学校支援部会は、各校の取組の紹介および成果や課題、ボランティアの発掘等について情報交換・協議を定期的に行い、事業の推進に大きな役割を發揮してきた。

また、学校長や地域の有識者で組織する「愛荘町学校支援事業実行委員会」は、各学期毎に開催し、事業の進捗状況の把握や評価等を行い、事業の推進のための指導的な役割を果たしてきた。

その結果、昨年は延べ5,800人以上の地域の方々が学校支援ボランティアとして協力していただけるようになってきた。

今年度は5年目を迎え、組織的な取組の進化・発展を図りつつ各学校が自主運営へと移行していく体制づくりを視野に事業を進めてきた。

そこで、地域住民や同窓会組織等の支援を中心に自主運営がかなり進んできている愛知川小学校の取組を紹介する。

2. 愛知川小学校の実践

(1) 事業の趣旨

愛知川小学校区は、国道8号線や近江鉄道が南北に通り、大きな企業の工場が多く進出し、開発によってできた新興住宅の地域と昔ながらの農村地域からなり、ここ15年間の間に児童数が1.5倍に増えるという、人口増加が激しい地域である。

このような地域の急激な変化に伴い、子どもたちの学びの環境や地域との結びつきなど、年を追うごとに大きく変化してきているのが現状である。

そこで、本校では学校支援地域本部事業の取組を通し、

- 子どもたちの学びの質を高める
 - 地域の良さに触れ、地域の方との交流を通して生き方や多様な考え方を身につける
 - 地域と自分自身との結びつきを深める
 - 学校と地域、保護者、関係機関との結びつきを深め、開かれた学校を目指す
 - 地域の方々の学校への関心を深める
- ということを目指していきたい。

(2) 事業の概要・特色

本校では、地域と学校を結ぶコーディネーターが本事業の窓口となり、愛荘町学校支援部会や本事業事務局（生涯学習課）、既存のPTAや同窓会組織（以文会）をはじめとする諸団体との連絡調整をしながら、学校支援事業に取り組んでいる。

この4年間に実施してきた主な取組は、以下の通りである。

- 登下校時の安全指導
- 参観日等の託児ボランティア
- 餅つき大会の準備、指導支援
- 野菜栽培の指導支援
- 生け花ボランティア
- 絵本の読み聞かせボランティア
- スキー教室の指導支援
- 田植え・稲刈りの指導支援
- 手話学習指導支援
- 車椅子学習指導支援
- 歴史学習指導支援
- 理科学習ゲストティーチャー
- 戦争体験・昔の暮らしゲストティーチャー
- しが学校支援センターの活用
（タイヤ製造工場見学、交通安全教室等）

①登下校時の安全指導

本校の学校支援ボランティアの活動の中で、最も力を入れているのは、「登下校指導」と「挨拶運動」である。

ボランティアさんには、朝の登校時と下校時は2回、午後3時と午後3時50分に指導をしていただいている。

熱心に見守りをいただいている某老人会には学校の下校時間を予定表にして知らせている。その予定表は組織内で配布され、一部は交番へも届けられ、警察の安全パトロールに活かされている。



②野菜栽培の指導支援

本年度から、特別支援学級の児童が、自分たちの学習に活用する野菜を本格的に作るということになり、ボランティアの講師を紹介していただいた。年間を通じて、土作りから始まり、移植、世話、収穫までを教えていただいている。

時には、子どもたちがいない休業期間中にも、自主的に来校されて、植物の世話および管理もしていただいている。

このような献身的な活動に対して、子どもたちは給食に招くなど、野菜栽培以外でも深い交流をしている。

また、生活科で野菜の栽培に取り組んでいる2年生についても、同様に指導をしていただいている。



③餅つき大会

近隣の老人会、本校の同窓会組織である以文会の方々に、前日準備から当日の指導までしていただいているのが餅つき大会である。

2日間で、延べ70名以上の方に支援をしていただき、毎年盛大に開催している。子どもたちにとっては、滅多に経験できない伝統的な行事に

触れると共に、地域の方々との交流もできる大切な行事となっている。



④託児ボランティア

学習参観や懇談会、PTA総会などの行事の時、未就学児や保護者を待つ児童を託児していただいている。保護者に安心して学校行事に参加していただくための措置であるが、学校支援地域本部や町の社協に協力をいただき、年間を通しての託児ボランティアを手配していただいている。

毎回利用される方もおられ、特に迎えに来られた保護者からは、いつも託児ボランティアの方への感謝の言葉を伺っている。

（3）愛知川小学校の事業の成果

登下校指導や託児ボランティア、餅つき大会など長年継続的に実施している事業については、協力していただいている支援ボランティアの方も心づもりをしてくださり、とてもスムーズに運営ができています。

子どもたちも、毎日登下校時におられるボランティアさんに親しみをもち、休まれると、「昨日はどうしたん？」というように、挨拶をするだけでなく、いろいろな声かけもするようになり、地域の方々との結びつきが深まってきたと言える。

また、野菜栽培の指導支援や戦争体験・昔の暮らしのゲストティーチャー等においても、子どもたちは深い知識や経験に裏付けされた指導を受けることができ、質の高い学習となっている。

また、学校支援ボランティアの方が多く

来校されることで、学校と地域、保護者との結びつきも深まってきている。

（4）愛知川小学校の今後の課題

年度当初から支援ボランティアが必要とわかっている学習も多いが、学習を進める中で急に必要となることがあり、それに見合った支援ボランティアを探し出すことが難しいこともある。内容によっては人材の登録が少ない領域があり、今後更に多様な領域に対して支援ボランティアを開拓しておく必要がある。

また、教師が支援ボランティアを活用するというより任せてしまっていて、せっかくの支援ボランティアを十分に活かさないこともあった。事前の打合せの時間をしっかり確保し、それぞれの役割分担や目的を明確に伝える機会作りをしていくことが大切である。

3. 愛荘町における実践の成果

（1）ボランティアの確保に進展

5年間の取組で、データの蓄積と人的ネットワークの広がりによりボランティアの確保がスムーズにできるようになってきた。

また、愛知川小学校では学校独自の人材バンク化も進んでいる。

（2）部活指導ボランティアの増加

懸案であった中学校の部活の指導にも、柔道、サッカー等において定期的にボランティアが指導・支援していただけるようになり、安全面で非常に助かっている。

（3）町全体で取り組む子どもの安全・安心

学校支援ボランティアの登下校の安全指導に併せ、小学校の通学路に防犯ブザー「愛ぼうくん」を50ヶ所、「子ども110番のうち」を254ヶ所も設置して子どもの安全・安心の確保に全町あげて取り組んでいる。

4. 愛荘町の今後の課題

（1）ボランティアの高齢化

ボランティアの主力は時間的にも余裕のあるお年寄りである。今後もその傾向は変わらないが、人材の補充を図ると共にPTAや大学生の若い人材の確保が必要である。

（2）国・県の財政的支援を

今後国や県の財政支援がなくなれば事業も消滅する可能性が十分考えられる。なくなれば地域本部の役割をどこが担うのか。まだまだ事業の継続が必要である。

（3）教職員の意識の向上を

残念ながら担当学年の教師によりボランティアの導入や活用に差が見られる。今後も継続して校内の推進体制の整備と教職員の意識の向上を図っていく必要がある。

地域ぐるみの子どもの育成～甲良町における学校支援の取組～ 【甲良町】

1【事業の概要、特色等】

学校支援地域本部事業を充実するには、地域で子どもを守り育てる活動との連携が効果的であると考え、学校支援ボランティア活動と地域で子どもを守り育てる活動との連携を推進している。

これにより、地域の人材等の教育資源の発掘及び地域の人と教職員との相互理解の機会づくりを進め、学校支援地域本部事業の円滑な推進と充実を図りたいと考えている。

（1）放課後地域ふれあい活動

家庭や地域における心豊かで安定した生活体験は、子どもが落ち着いて意欲的な学校生活を送る基盤になると考え、甲良町内の各集落では、地域のボランティアによる「子どもを中心に据えた地域ふれあい活動と子どもの居場所づくり」に取り組んでいる。

この活動を通じて、地域の人々の子ども理解が進み学校支援ボランティアへの参加が増え、相互の連携が深まることを期待している。



〔放課後地域ふれあい活動風景〕

（2）子どもの体験活動

様々な体験活動を通して多くの人々とのふれあいを深めることを目的の一つとして、地域教育協議会を中心に体験活動事業を実施している。

○グリーンファイターズ（自然体験活動）

小学4年生対象、月1回、通年

○せせらぎ探検隊（文化・科学等の体験活動）

小学5・6年生対象、月1回、通年

【甲良町学校支援地域本部】

○ちいさい秋みつけた（秋の自然体験、異年齢・地域の人とのふれあい）

幼児～小学生対象、中学生はボランティアとして参加、年1回、

学校支援ボランティアと地域のボランティアによるおにぎり・揚げイモ、自然遊びや読み聞かせ等のブースの設置



〔読み聞かせボランティアのブース〕

＜工夫した点＞

○魅力ある体験活動の設定

○新しいボランティアの発掘

○中学生ボランティアが意欲的に活動できる場の設定

○ボランティアと教職員の相互理解と協力

2【事業の成果】

○地域の人々の小・中学生に対する関心が高まり、理解が深まりつつある。

○ボランティアの方々が活動する喜びを感じられ、活動へのさらなる意欲が高まってきた。

3【今後の課題】

○新たな分野に対応できるよう、学校のニーズの的確な把握とボランティアとの適正なマッチング。

○ボランティアの高齢化への対応と新たな人材の発掘。

○ボランティアの受け入れ態勢の整備。

○ボランティアが意欲的に活動できる場の創出。

1【事業の概要、特色等】

近年、子どもを取り巻く環境は核家族化や両親の共働きなどにより、様々に変化しています。また、学校においても教師の業務が多様化しており、教育に満足な時間がとれないこともあります。一方、地域においては「何かしたい」とボランティア活動の場を求めておられる方が多くおられます。そこで、学校のニーズに応えるべく学校と地域との連絡・調整を図り、地域の協力のもとに教育環境を整えることで、教育が充実したものになればと考えます。学校、家庭、地域が連携して多賀町の未来を担う子ども達の健全育成を図っていききたいと思います。

①支援の対象

多賀町の学校支援の対象は、多賀中学校、多賀小学校、大滝小学校、多賀幼稚園、大滝幼稚園の3校2園です。なかでも小学校からの依頼がほとんどです。

②活動内容

・学校への説明

5月に各小中学校で職員会議の時間をいただき、「ボランティア説明会」を行いました。前年度の学校ごとの利用内容と人数の報告をしました。また、4月の異動により、学校支援ボランティアを知らない先生もおられるので、学校支援ボランティアの意味、利用方法、ボランティアさんに配慮していただく点などの説明をしました。

ボランティア説明会の様子



大滝小学校



多賀中学校

・主な支援活動の内容

環境整備、本の読み聞かせ、PTA総会時等の子ども預かり、プールの監視、遠足などの校外活動の引率補助、ウォークラリーやマラソン大会の立哨など、比較的誰にでもできる内容の活動をお願いしています。

《活動事例》

小学校 PTA 総会時の子ども預かり



多賀小学校

ウォークラリーの立哨



大滝小学校

本の読み聞かせ



多賀小学校



大滝小学校

環境整備の様子



多賀幼稚園

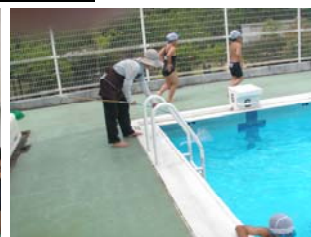


多賀小学校

プールの監視



多賀小学校



大滝小学校

マラソン大会の立哨



大滝小学校

もちつき大会のお手伝い



多賀幼稚園

・ボランティア研修会

毎年、学校から依頼のある事業に関連付けた研修会を開く事で、ボランティアの質の向上とレベルアップを図りました。また、研修会の後に情報交換の時間を設け、ボランティアさんが活動される時の不安や悩みを軽減し、ボランティアさんの思いや活動における問題点などを知り、配慮や改善を図りました。

第1回「普通救命講習Ⅲ」5月31日(木)

6月から始まる小学校のプール水泳の監視に先立ち、消防署から講師に来ていただき、心肺蘇生法(AEDの使用法含む)や止血の方法や応急手当の方法など、実技を交えて教えていただきました。

(心肺蘇生法)



(AEDの使用法)



第2回「ボランティアとは」9月5日(水)

過去から現在までのボランティアの変化や意味についてのお話をさせていただきました。



第3回「大人のための絵本講座」11月4日(日)

小学校では年間を通して、本の読み聞かせボランティアをお願いしています。本の選び方や、読み聞かせの仕方などのお話をさせていただきました。



・広報紙の発行

学校支援ボランティア活動を一人でも多くの町民の方々に知ってもらうために月1回「ボランティアだより」を作成発行しました。活動報告や、ボランティアの登録募集、研修会の予告・報告などを掲載しました。

2【事業の成果】

ボランティアさんの中には、こちらからお願いする前に、そろそろ〇〇した方がいいとか、今年は〇〇は無いのかと一言くださったり、段取りをしてくださる方もあります。また、ボランティアに参加することが、生きがいや喜びになっているようです。日常生活の中にボランティアが溶け込み、子ども達・学校のために「何かしたい、何かしよう」という思いが定着してきていると思われます。

3【今後の課題】

多賀町は県下でも高齢化率の高い自治体です。学校支援ボランティアも登録者の高齢化に伴い、活動できる方が限られてきているのが現状です。

新たな登録者を確保するために、今以上の広報活動が必要です。「ボランティアをしたいけれど、どうすればいいのかわからない」「ボランティア活動をしていることを知らない」などの人に学校支援ボランティアを知ってもらうため、町内広報紙への掲載や、ボランティア広報紙の作成、有線放送の利用などです。また、町内の各団体との連携を深めるとともに、60歳代の定年退職後の体力・時間のある年齢層や学生など若い世代の確保も必要があります。

高齢化により、ボランティアさんの活動意欲が低下しないよう、日常生活の中で普通にしておられることを普通に活かせるように、年齢・体力に応じた活動の内容や仕方を考えて、学校に提案・調整をしていくことも必要です。